

用シタルコトハ世人之ヲ見タルコトナシ
 本條ノ規定ニハ事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク止タ其手續ヲ破毀ス
 可シトアリ凡ソ被告人カ上告ヲ爲スハ原判決カ自己ニ不利益ナルヲ以
 テ之ヲ取消シ正當ノ裁判ヲ得ントスルモノナリ故ニ上告ノ理由アル時
 ハ其判決ヲ取消シテ更ニ他ノ下級裁判所ニ移送シテ審理判決ヲ爲サシ
 ムルカ又ハ更ニ法律ノ適用ヲ改メ以テ上告者ノ主旨ヲ達セシムルモノ
 ナリ然ルニ本條ノ如クニ手續ノミヲ破毀シタリトテ原判決ハ毫モ變更
 セサルヲ以テ上告人ニ破毀ノ利益アルコトナシ檢事ハ常ニ法律ノ正當
 ナル適用ヲ求ムル爲メニ上告スルモノナルカ故ニ手續ノ破毀ノミニテ
 モ其目的ヲ達スルコトアラザラハ本條ハ檢事ノ上告ノ場合ノミヲ想
 像シタルカ曰ク然ラス上訴ノ冒頭ニモ陳述シタルカ如ク我法律ハ佛國
 ノ大審院ニ於ケル權限ニ屬スル上告ノ制度ヲ採用シタルモノニシテ其
 權限ハ獨リ第三審トシテ純粹ノ裁判權ヲ行フノミナラスシテ全國ノ裁
 判所ヲ鑑査スル一種特別ノ權限ヲ有スルモノナリ現ニ草案第五百七十

五條ノ如キハ原裁判所ノ裁判官ニ向テ懲戒ヲ施スコトヲ規定シタリ此
 ノ如キ權限アルヨリシテ我治罪法及ヒ刑事訴訟法ハ上告裁判所ニ與フ
 ルニ下級裁判所ノ爲シタル手續カ違法ナル時ハ其違法ヲ發表シテ以テ
 之ヲ匡正スルノ權ヲ以テシタルナリ其目的ハ純粹ナル第三審ノ裁判ヲ
 行フテ訴訟關係人ニ向テ是非ヲ判斷スルニ非ス汎ク裁判所ノ所爲ニ向
 テ裁判ヲ下スニ在ルナリ

上告理由アルトキハ原判決ノ如何ナル部分ヲ破毀スヘキ乎
 上告ハ控訴ノ如ク被告事件ノ事實ヲ覆審スルモノニ非サルヲ以テ上告カ理
 由アリタル時ハ其上告ニ係ル部分ノミヲ破毀スルモノナリ故ニ事實ノ關係
 シ生ス可キトキニテモ上告ニ係ル部分丈クヲ破毀シテ之ヲ他ノ裁判所ニ移
 送シ(二八六)又上告裁判所自ラ本案ノ判決ヲ爲ストキモ其攻撃ヲ受ケタル部
 分ヲ破毀シテ判決ヲ下スモノナリ公判ノ手續カ法律ノ規定ニ違背シタル場
 合ニ於テ如何ナル部分ヲ破毀ス可キカハ上ニ論述シタル所ナリ然レトモ法
 律ハ上告ニ係ラサル部分ニシテ之カ破毀ヲ命スル場合アリ即チ第二百八十

九條ハ判決ノ一部ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ他ノ部分ニ關係アルトキハ其部分ヲモ破毀ス可キモノトセリ
 判決全部ニ對シテ上告スルニ非スシテ判決ノ一分ニ對シテ上告ヲ爲シ破毀ノ理由アル時ハ其一分ヲ破毀ス可キハ勿論ナルモ其上告ニ依リ破毀スルトキハ他ノ上告ニ係ラサル部分ニ關係アルトキハ其關係アル部分ヲ破毀セザルヘカラス而シテ上告カ他ノ部分ニ關係アルヤ否ハ上告裁判所ノ判定ニ任シテ法律ハ之ヲ規定スルコトナシ例ヘハ一ノ判決アリ訴訟關係人ヨリ沒收ノ部分ニ付テ上告ヲ爲シ單ニ沒收ノ點ニ付テノミ原裁判ノ失當ヲ判断シ判決ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ本案ニ對シテ關係ヲ及ホスコトナキヲ以テ沒收ノ一部ヲ破毀シ判決ヲ破毀スルノ必要ヲ見ス然レトモ若シ其沒收シタル物件カ果シテ犯罪ノ用ニ供シタルモノナルヤ明ナラサル時ハ本案全体ニ關係ヲ及ホスコトシテ本案ノ判決ヲ破毀セサル可カラス如何トナレハ本案ノ判決ハ沒收シタル物件ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタルモノトシタルヤ否ノ事實不確定ニシテ或ハ本案ノ事實ニ變更ヲ生スルヤモ知レサレハ原判決全部ニ

關係アリトシテ之ヲ破毀セサル可カラス

三回竊盜ヲ犯シ數罪俱發例ニ依リ一ノ重キニ從テ處斷セラレタル場合ニ於テ被告ハ第一回ノ竊盜ノ事實ニ齟齬アリ又ハ不備アリトシテ上告ヲ爲シ其上告理由アリタル時ハ他ノ第二回第三回ノ竊盜ニ對シテ特ニ上告ヲナサスト雖モ判決全部ヲ破毀シ更ニ他ノ下級裁判所ニ移送シテ以テ審理判決ヲ爲サシメサルヘカラス此場合ニ於テハ本條ニ依リテ全部ヲ破毀スルニ非ス抑本條ハ一分上告ノ場合ヲ見タルモノニシテ法文ニハ原判決中違法ノ部分カ他ノ部分ニ關係アリトハ云ハスシテ判決ノ一部ニ對シ上告アリタリトアリ數罪俱發例ニ依リ判決ヲ受ケタル者上告ヲ爲スニ當リテハ一ノ重ニ從ヒ處斷シタル判決ノ主文ニ向テ攻擊ヲ爲スモノニシテ假令違法ノ點ハ判決中ノ一事實ニ付テアリトスルモ上告ハ其判決ノ全部ニ對スルモノトス故ニ本條ニヨリテ他ノ部分ニ關係アルモノトシテ破毀スルモノニ非ス全部ハ則チ直接ニ上告ニ係ル部分トシテ破毀ヲ爲スモノナリ上告ハ控訴ノ如ク覆審ヲ求ムルニ非スシテ違法ノ點ヲ指示シテ訴ヲ爲スモノナレハ數罪ノ内一罪ニ付

テノミ違法アリトスル時ハ其上告ハ則チ一分ノ上告ト云ハサル可カラサル
 カ如シト雖モ數罪俱發ノ場合ハ如キ數個ノ所爲集合シテ一判決ヲ成スモノ
 ニアリテハ其上告ノ全部ナルコトハ特ニ明言ヲ要セス
 判決ノ一分ニ對シ上告アリテ他ノ一分ニ關係アル時ハ破毀ヲ其部分ニ及ホ
 スモノナルモ共同被告人ノ一人カ申立タル上告ノ理由ヲ他ノ共同被告人ノ
 上告ニマテ及ホスコトヲ得ヘカラス例ヘハ甲乙二人ノ共犯人カ同時ニ上告
 ヲ爲シ甲ノ上告趣旨ハ原判決ノ事實ニ齟齬アリト云ヒテ破毀ス可キモノナ
 ルモ乙上告人ハ其齟齬アルコトヲ論訴セサルコトアラシ此場合ニ於テ其結
 果實ニ奇怪ニシテ同一ノ事實ニシテ一方ニハ事實ノ齟齬アリテ破毀ノ理由
 アリト云ヒ一方ニハ上告理由ナシトシテ却下セサル可カラス然レトモ此場
 合ニ於テ判決ノ一分ニ對シタル上告カ他ノ一分ニ關係アリト云フコトヲ得
 ス第二百八十九條ノ第一項ハ全ク一箇ノ判決ニシテ其一分ニ對スル上告ア
 リタル場合ニシテ其上告人ハ一人タルヲ見タルモノニシテ他ノ上告人ニ及
 ホスノ法規ニアラス

本條第一項ハ上告ニ係ラサル部分マテモ關係アレハ之ヲ破毀スヘシトス蓋
 シ若シ如此セスシテ其部分ノミヲ破毀スル時ハ破毀ノ後更ニ裁判ヲ爲スコ
 トヲ得サルノ結果アルカ故ナリ犯罪ハ多ク數個ノ行爲ノ集合シテ成立スル
 モノナルニ若シ其行爲ノ一部ニ付テハ原判決ヲ確定セシメ判官ノ認定ヲ及
 ホスコトヲ得サラシメタランニハ決シテ眞實ヲ得テ判決ヲ下スコト能ハサ
 ルナリ
 前項ニ陳述セルハ上告人カ同一ニシテ破毀ヲ上告ニ係ラサル他ノ部分ニ迄
 及ホス場合ナルカ法律ハ猶ホ本條第二項ニ擬律ノ錯誤ノ場合ト公訴受理ス
 可カラサル時ニ受理シタルノ違法アル場合ニ限リテ其利益ヲ上告ヲ爲サ、
 ル共同被告人ニ及ホスモノトナセリ曰ク擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ
 受理シタルニ因リ被告人ノ利益ノ爲メニ判決ヲ破毀シタルトキハ其利益ハ
 上告ヲ爲サ、ル共同被告人ニモ及ホス可シト
 本條ハ被告人ヨリ上告ヲ爲シ又ハ檢事カ被告人ノ利益ノ爲メ上告シタル場
 合ナルコトヲ了知セサルヘカラス本項ニ其利益ハ上告ヲ爲サ、ル共同被告

人ニモ及ホス可シトアルヲ以テ甲被告ニ對シ檢事ヨリ公益ノ爲メ上告ヲ爲シ重刑ヲ科シタルニ依リ之ヲ他ノ上告ニ預カラサル共同被告人ニモ及ホス可シト云フカ如キ苛酷ナル法意ニ非サルコト明ナリ

原裁判所カ法律ノ適用ヲ誤リ被告人若クハ檢事ヨリ擬律ノ錯誤アリトシテ上告ヲ爲シ其上告理由アリタル時ハ上告裁判所ハ直チニ法律ヲ適用スルモノナリ而シテ其犯罪事件ハ上告人一人ノ犯罪事件ニ非スシテ他ニ共同被告人アル時ハ其判決カ第一審ニテ確定シタルト第二審ニテ確定シタルトヲ問ハス上告裁判所ハ其上告ヲ爲サ、ルヲ爲メニ確定シタルモノニ對シテモ判決ノ更正ヲ爲シ其利益ヲ及ホス可キナリ

法律ニ背キテ公訴ヲ受理シタルノ違法アリテ被告人一人上告ヲ爲シタルニ上告理由アリタル時ハ其結果被告人ハ免訴ノ言渡ヲ受ク可キモノナリ而シテ他ノ共同被告人ハ上告セサル時ト雖モ其利益ヲ及ホシテ上告裁判所ハ之ニ對シテモ免訴ノ言渡ヲ爲サ、ル可カラズ

本項ノ規定ハ不告不理ノ原則ノ例外ニシテ此上告ヲ爲サ、ル被告人ハ上告

ヲ爲サ、ルモノナルカ故ニ上告裁判所ハ訴ヲ受ケタルモノニ非ス只法律カ上告裁判所ニ限リテ一ノ特例ヲ設ケタルモノニシテ一箇ノ例外法ト云ハサルヲ得ス故ニ先キニ述ヘタル如ク共同被告人カ共ニ上告ヲ爲シテ一人ノ云フ所理由アリテ一人ノ云フ處理由存セサル時ハ奇怪ナル結果ヲ生ズルモノナルモ本項ノ規定ヲ擴張シテ上告ヲ爲シタル共同被告人中ノ一人ノ理由ヲ他ノ共同被告人ニ及ホスコトヲ得ス例外法ハ法律ノ明記セサル場合ニマテ適用スルコトヲ得ス

本項ノ與ヘタル利益ハ上告セサル共同被告人ニ及ホスモノナレハ上告ヲ爲シタル共同被告人ニモ及ホスコトハ勿論ナリ若シ共同被告人カ共ニ上告ヲ爲シテ其中一人ハ擬律ノ錯誤又ハ公訴受理ノ法律ニ背キタルノ理由ヲ申立テ他ノ一人ハ之ヲ申立テサルモ均シク破毀ノ利益ヲ享クヘシ其一人カ其點ニ論及セスト云フヲ以テ上告ヲ棄却スルコトヲ得ス上告ヲ爲サ、ル共同被告人ニテモ利益ヲ受クルモノナルニ況ヤ上告ヲ爲シテ其判決ノ不當ヲ訴ヘツ、アル他ノ共同被告人ナレハ何ソ其利益ヲ及ホサ、ルノ理アラシヤ

本項ハ上告ヲ爲サ、ル共同被告人ニ利益ヲ與フルノ特例ナリ而シテ其利益ト云フハ如何ナル點ニアリヤト云フニ刑ヲ輕クスルカ又ハ免訴又ハ無罪ニスルト云フニ外ナラス故ニ原判決ヲ破毀シテ他ノ裁判所ニ移送スル場合ニ非ス依テ此利益ヲ被告人自ラ放棄スルコトヲ得ルヤ否ノ問題ヲ生セス絶對ニ被告人ニ利益ナルモノナルカ故ニ然リ若シ本條ノ破毀ノ結果ニヨリテ他ノ裁判所ニ移送シ更ニ審理判決ヲ受クルカ如キモノナラバニハ被告人ハ之ヲ放棄スルノ權利アリト曰ハサルヘカラス如何トナレハ上告ヲ爲サ、ル共同被告人ハ第一審ニ服從セシテ已ニ刑期ノ終了セントスルニ他ノ被告人ノ上告アルカ爲メ更ニ審理判決ヲ受クルノミナラス檢事ノ附帶上告ノ爲メニ不利益ナル判決ヲ受クサルヲ得サルノ場合ナシトセザレハナリ然レトモ濫律ノ錯誤及ヒ法律ニ背キテ公訴ヲ受理シタル場合ハ上告裁判所ニ於テ直チニ裁判ヲ爲スヲ以テ移送ヲ爲スコトアラサルナリ

上告ニ因リテ原判決ヲ破毀ス可キ區域ノ如何ハ已ニ反覆講述セルカ如シ凡ソ原判決ヲ破毀シタル場合ニ於テハ違法ノ如何ニヨリ或ハ原判決ヲ破毀シ

テ他ノ下級裁判所ニ移送シ更ニ審理判決ヲ爲サシメ或ハ上告裁判所カ自ラ判決ヲ爲スモノナリ其上告裁判所カ自ラ判決ヲ爲ス場合ニ於テ一ノ制限ヲ受クルモノアリ即チ被告人ノ利益ノ爲メニ上告ヲ爲シタル時ハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ得サルコト是レナリ

第二百九十八條ニ曰ク第二百六十五條ノ規定ハ上告ニモ亦之ヲ準用スト

第二百六十五條ハ予輩カ控訴ヲ講述スルニ當リ講述セシ所ナリ上告ノ場合ニ於テモ左記ノ人ヨリ上告ヲ爲シ而シテ原判決ニ違法ノ點アリト雖モ上告裁判所ハ原判決ヨリモ被告人ニ不利益ナル判決ヲ下スコトヲ得ス

第一被告人

第二辯護人

第三法律上代理人

第四檢事但シ被告人ノ利益ノ爲メニノミ上告ヲ爲シタル時

此等ノ人ヨリ上告ヲ爲シタルトキハ皆被告人利益ノ爲メニノミ原判決ノ更正ヲ求ムルモノナルニ上告カ理由アリトテ却テ之カ爲メニ重キ刑ニ處セラル

カ又ハ他ノ不利益ヲ蒙ルモノトスル時ハ豈上告ノ性質ト相背馳スルモノニ非スシテ何シヤ故ニ法律ハ被告人ノ不利益ニ判決スルコトヲ許サス此法條ニ付テハ已ニ控訴ニ於テ精細論述セルカ故ニ今之ヲ再論スルノ必要ヲ見ス然レトモ一ノ注意ス可キコトアリ被告ヨリ上告ヲ爲シテ其上告ハ原因アリトシテ事件ヲ他ノ下級裁判所ニ移送シ其裁判所カ之ヲ審理スルニ當リ檢察ハ附帶控訴ヲ爲シテ破毀前ノ第二審裁判所ノ判決ヨリモ重キ刑ノ適用ヲ求ムルコトアリ理論上ニテハ此附帶控訴ノ爲メニ破毀後ノ第二審ハ刑ヲ重クスルコトヲ得スト云フヲ以テ至論トセサルヲ得ヌ如何トナレハ初メ上告ヲ爲シタルハ其判決ニ服セス刑ヲ免カレントスルカ又ハ刑ヲ輕カラシメントスルカ爲メニ外ナラス然ルニ其上告理由アリタルカ爲メ却テ附帶控訴ヲ受ク重ク處罰スルト云フ結果ヲ生スレハナリ若シ上告ヲ爲サ、リシナラハ被告ハ重刑ニ處セラル、コトナカリシナラン或人ハ曰ク其上告理由アリタル時ハ刑期計算ノ場合ニ於テ未決拘留ノ日數ヲ刑期ニ算入セラル、カ故ニ假令刑罰重クナルモ不利益ナカラント然レトモ刑法ノ定メタル如ク上訴

理由アル時ハ前刑宣告ノ日ヨリ起算スルト云フハ只上訴ノ結果ニシテ判決ノ如何ニ非ス少シク此利益アリトテ刑ノ加重ヲ償フ能ハス好シ償フコトヲ得ルトスルモ只未決拘留ヲ受クタルモノ、ミニシテ若シ保釋又ハ責付セラレシモノ、如キハ一モ利益ヲ受クル所ナキヲ以テ毫モ償フ所ナシ
 被告人ノ利益ノ爲メニノミ上告ヲ爲シ其上告ノ理由アリトスルモ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲ヌコトヲ得スト云フ原則ハ私訴ノ裁判ニモ適用スルコトヲ得ヘシ刑事訴訟法ハ私訴ト公訴トノ間ニ此點ニ付テハ一モ區別セサルヲ以テ同一ニ之ヲ適用セサルヘカラス故ニ私訴ト雖モ被告人ノ上告ノミアリテ民事原告人ヨリ上訴又ハ附帶上訴ヲ爲サ、ル時ハ被告人ノ不利益ニ原判決ヲ變更スルコトヲ得ヌ
 上告裁判所ニ於テ直チニ判決ヲ爲ヌ場合ニ被告人ノ不利益ニ變更ヲ爲ヌコトヲ得サルハ上ノ如シ若シ被告人ノ上告ニシテ其上告ノ理由ニヨレハ故殺ナルヤ謀殺ナルヤ分明ナラストノ旨趣ニシテ其旨趣ヲ理由アリトシテ破毀ノ上他ノ下級裁判所ニ移送ス可キ場合ニ於テモ猶ホ被告人ノ不利益ニ變更

スルコトヲ得サルノ原則ヲ適用スル場合アルヤ如何
 例ヘハ控訴審カ故殺ノ刑ヲ適用シタル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シ其
 趣旨ハ判決ノ認メタル事實ハ謀殺ナルニ故殺ノ刑ヲ適用シタルハ擬律ノ錯
 誤ナリト云フニ在ル時ハ則チ被告人カ自ラ不利益ナル上告ヲ爲スモノナル
 チ以テ其上告ハ理由アリトスルヲ得ス然レトモ被告人ノ上告ノ旨趣タルヤ
 原判決ノ認メタル事實ハ一方ニテハ謀殺ノ如ク他ノ一方ニテハ故殺ノ如ク
 要スルニ其事實不明ナリト云フニ在ルトキハ其裏面ニハ則チ無罪ナリト云
 フノ意思ヲ包含スルヲ以テ上告ハ理由アリトシテ破毀スルコトヲ得ヘシ其
 他裁判所ノ構成或ハ審理ノ手續ニ瑕疵アリトシテ上告ヲ爲シ以テ破毀移送
 ヲ爲ス場合ニ於テモ其適法ナル審理ヲ得タル上ハ或ハ無罪若クハ輕キ刑ニ
 處セラル、ヤモ知レサレハ上告裁判所之ヲ破毀シテ移送ヲ爲ス可ク第二百
 六十五條ニヨリテ制限ヲ受クサルナリ
 原判決ノ事實ノ理由ヲ缺クカ若クハ裁判所ノ構成又ハ審理判決ノ手續ノ不
 法アリト認メ上告裁判所ニ於テ破毀移送シタル時ニ其移送ヲ受クタル第二

審裁判所ハ審理ノ上破毀前ノ控訴裁判所ノ裁判ヨリ一層重キ刑ニ處ス可キ
 事實ヲ認メタル時ト雖モ第二百六十五條ノ制限ニヨリテ不利益ニ變更スル
 コトヲ得ス然レトモ曲クテ事實ヲ認定スルコトモ亦能ハス例ヘハ強盜ノ事
 實ヲ認メテ竊盜ナリトスルコトハ到底爲シ能ハサルコトナリ故ニ其重キ事
 實ヲ認メテ只其第一控訴裁判所ノ言渡シタル刑期ヲ變更セサルニ止メサル
 ヘカラス

第七節 非常上告

非常上告ハ上告中ノ一種ノ特例ニシテ普通ノ上告ト同一ナラス今其非常上告
 ハ如何ナルモノナルカヲ見ントス

第二百九十二條ニ曰ク第一審裁判所ト第二審裁判所トヲ問ハズ法律ニ於テ關
 セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於
 テ期間内ニ上訴スル者ナクシテ其判決確定シタルトキハ其事件ニ付キ上告ヲ
 受クル權アル裁判所ノ檢察ハ司法大臣ノ命ニヨリ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ

其裁判所ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得ト
 夫レ上訴ハ審級ノ順序ヲ退フテ之ヲ爲シ且未確定ノ判決ニ對スルヲ以テ通例
 トス然ルニ非常上告ハ第一審裁判所ノ裁判タルト第二審裁判所ノ裁判タルト
 ヲ問ハヌ且其判決ハ確定シタルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス故
 ニ普通ノ上訴ニ非スシテ一種ノ特例ニ屬スルモノトス法律ハ此特例ヲ設ケテ
 公私ノ利益ノ爲メ檢事ヲシテ法律適用ノ點ニ於テ誤謬ナル判決ノ更正ヲ求ム
 ルノ途ヲ與ヘタルナリ判決確定ノ後ニ在リテ事實ノ誤謬ハ再審ノ方法ニ依リ
 之カ更正ヲ要ムルノ途アリ法律ノ適用ニ就キ重大ナル誤謬ハ檢事ヲシテ此非
 常上告ニ依リテ上訴ヲ爲サシム
 非常上告ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニ非ス此上告ニ付
 テハ法律ハ其之ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ヲ限定シ汎ク之ヲ適用スルコトヲ得
 サラシム蓋シ此上訴ノ方法ヲ濫用シテ以テ徒ラニ裁判ノ確定ヲ動カシ公安ヲ
 害スルコト勿カラシムルカ爲メナリ
 非常上告ヲ爲スコトヲ得可キ判決ハ第一審裁判所ノ判決タルト第二審裁判所

ノ判決タルトヲ問ハサルナリ元來此上告ハ確定ノ判決ニ向テ上訴ヲ爲スモノ
 ニシテ審級ノ順序ニ從ハサレハ第一審裁判所ノ判決ナルト第二審裁判所ノ判
 決ナルトニ就テ區別ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ此上告ヲ受理スヘキ裁判所ハ
 普通上告ニ於ケルト同一ニシテ區裁判所ノ判決ニ對スルトキハ之ヲ大審院ニ
 爲スコトヲ得ヌ之ヲ控訴院ニ爲スヘク地方裁判所及ヒ控訴院ノ判決ニ對スル
 トキハ之ヲ大審院ニ爲スヘキナリ裁判所構成法第三十七條及ヒ第五十條ニ此
 規定ナシト雖モ本法第二百十二條ニ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡
 シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ云々其事件ニ付キ上告ヲ
 受クルノ權アル裁判所ノ檢事ハ其裁判所ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得トアルニ
 因リテ明ナリ非常上告ヲ爲スコトヲ得ルハ左ノ場合ナリトス
 第一、法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルトキ

此刑ノ言渡ヲ受ケタル人ハ元來無罪ノ人ナリ其無罪ノ人ニシテ不幸ニモ刑
 ニ處セラレタル場合ニ在リテ社會ハ之ヲ厭過スルコトヲ得ヌ故ニ公益ノ代
 表人タル檢事ハ非常上告ノ方法ニ依リテ其裁判ノ更正ヲ求メサルヘカラス、

然レトモ法律ニ於テ罰セザル所爲トハ原判決ノ當時ニ於テ法律ノ罰セザルモノナルコトヲ要ス若シ判決ノ後法律ノ改正アリタルカ爲メニ其所爲罰セザルモノトナルコトアルモ之ヲ以テ非常上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス何トナレハ原判決ハ法律ノ罰スル所爲ニ對シテ刑ヲ言渡シタルモノニシテ罰スヘカラサル所爲ニ對シテ刑ヲ言渡シタルニ非サレハナリ其判決當時ノ法律ハ之ヲ罰スルコトヲ必要ナリトシ裁判所ハ其法律ヲ適用シタルモノナレハ違法ノ點ナキノミナラス社會ハ其犯人カ依然刑ノ執行ヲ受クルコトヲ希望スルナラン決シテ非常上告ヲ以テ其判決ヲ變更スルコトヲ欲セザルナリ原裁判所カーノ犯罪行爲ナリトシテ之ヲ處罰シタルニ後日ニ至リ其所爲ヲ變更ニ刑法上罰スヘキモノナリトシタルハ刑法ノ誤解ナリトスルトキハ檢事ハ非常上告ヲ爲スコトヲ得原裁判所カ處罰スルカラニハ何レカノ法律ヲ適用シ刑ヲ科シタルニ相違ナクシテ畢竟法律ノ解釋ヲ誤リタルヨリ生シタル結果即チ普通上告ノ理由タル擬律ノ錯誤ノ最大ナルモノアルトキ此上告ヲ許スモノナリ或ハ裁判官ノ惡意ニ出テ何等ノ法律ヲ適用セスシテ刑ヲ科ス

ルカ如キ極端ノ例ヲ想像スルヲ得ヘキモ法律ハ決シテ其場合ノミヲ想像シタルニ非ス多ク法律ノ解釋ヲ誤リ擬律ニ錯誤ヲ來シタルトキ此非常上告ヲ以テ原裁判ヲ更正セシムルノ精神ナリトス近時ノ判決例ヲ舉示セシニ地所建物ノ公證又ハ登記ヲ受クルニ際シテ他人ノ地所ヲ自己ノ所有ナリト偽リ村長又ハ登記官吏ヲシテ公證又ハ登記ヲ爲サシメタルトキハ從來之ヲ官文書偽造ナリトシテ處罰シタルニ大審院ハ右ノ所爲ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ村長又ハ登記官吏ヲ欺キタルニ止マリ文書其物ハ登記官吏ノ職務トシテ製作スヘキモノナレハ其作りタルハ村長又ハ登記官吏ニシテ被告人ノ行爲ハ公吏官吏ヲ欺キタルニ過キス決シテ被告人自ラ官文書ヲ作爲シタルニ非ス然ラハ之ヲ文書偽造ノ罪ニ問擬シタルハ法律上罰スヘカラサル所爲ニ對シテ刑ヲ言渡シタルモノトシタル檢事ノ非常上告ニ因リ無罪ヲ言渡シタリ從來此所爲ヲ官文書偽造ナリトセシハ官文書偽造罪ノ法條ヲ誤解シタルヨリ出テ最大ナル擬律錯誤ヲ來シタルニ外ナラス

第二、相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルトキ

第六編 上訴 第三章 上告 第七節 非常上告

輕罪ノ事實ヲ認定シタルニモ拘ラス重罪ノ刑ヲ科シ又ハ輕罪ノ刑ヲ加重シテ其範圍若クハ加減ノ計算ヲ誤リテ被告人ヲシテ法律ニ定メタル刑ヨリ一層重キ刑ニ處セラレタル場合ノ如キハ被告人ハ無罪ノ人ニ非スト雖モ社會ノ希望ニ超過シタル嚴刑ニ處セラレタルモノナル道理ナレハ檢事ハ非常上告ヲ以テ之ヲ救正スルコトヲ得サルヘカラス

然レトモ裁判所カ甲ナル法條ヲ適用ス可キ事實ナルニ乙ナル法條ヲ適用シ乙法條ハ甲法條ヨリ其刑重シトセシニ此場合ニ於テハ非常上告ヲ爲スコトヲ得テ原判決ニハ據律ノ錯誤アルニ相違ナク若シ普通上告ナラシカ破毀ノ理由タルコト疑ナシト雖モ非常上告ハ適用シタル法律ノ定メシ刑ヨリ重刑ヲ言渡シタルトキノミ之ヲ許スモノナリ例ヘハ一個ノ犯罪行為ニ對シ甲法條ヲ適用シ重禁錮二年ニ處シタル判決アリトセシニ後日其判決ニ認定シタル所爲ハ乙法條ヲ適用ス可キモノタルコトヲ發見シ乙法條ニヨレハ刑期ハ一年ヲ以テ最長期トス然ラハ實際相當ノ刑ヨリ重キ刑ニ處シタルモノナルモ非常上告ノ理由トナラス如何トナレハ非常上告ノ目的タルヤ刑ノ適用ヲ

變更スルニ在リテ事實ヲモ審理判決スルニ非ス然ルニ今本問題ニ付テモ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡サレタルモノトシテ非常上告ノ理由アリトスル時ハ勢ヒ事實ノ審理ヲ爲スニ至ルヘクレハナリ此場合ニ於テ假リニ非常上告ノ理由トナスコトヲ得ルトセハ其上告人タル檢事ハ乙法條ヲ適用ス可キ事件ナルニ甲法條ヲ適用シタルハ違法ナリト云フノ理由ヲ以テスルナラシ然ル時ハ上告裁判所ニ於テハ恰モ普通上告ニ於ケル如ク其判決ニ認メタル事實ハ果シテ上告趣旨ノ如ク乙條ヲ適用ス可キカ將タ原判決ノ通り甲條ヲ適用ス可キカヲ審理セサル可ラス若シ其事實明瞭ナルトキハ據律ヲ變更スルニ止マルト雖モ萬一事實ニ明瞭ヲ欠クトキハ勢ヒ事實裁判所ヲシテ更ニ事實ヲ審理セシメサルヘカラス然ルニ事實ヲ再審セシムルハ非常上告ノ性質ニ非サルコトハ本法第二百九十二條第二項ニ上告裁判所ニ於テ直チニ判決ヲ爲ス可キコトヲ規定セシテ以テ明ナリ要スルニ非常上告裁判所判決ノ認定シタル事實ハ常ニ確實ノモノト看做シテ其之ニ適用シタル法律ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ限り此上告ノ理由アルモノトス法律ノ

適用ヲ審査スル爲ニ事實ノ取調ヲ要スルニ至ルヘキ理由ハ之ヲ非常上告ノ理由トナシテ得ス

右二個ノ場合ニ於テハ非常上告ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ何レノ場合ニ於テモ上訴期間内ニ上訴スル者ナクシテ其判決確定シタルコトヲ要ス
事件カ上訴期間内ニアル時ハ被告ナリ檢事ナリ普通上訴スルコトヲ得レハ其上訴ヲ以テ原判決ノ非ヲ正スコトヲ得ヘシ故ニ非常上告ヲ爲スヘキ場合ニ非ス又事件已ニ控訴若クハ上告ヲ經タルモノナルニ於テハ非常上告ヲ爲スコトヲ許サス何トナレハ其刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ已ニ法律ノ與ヘタル上訴方法ヲ以テ伸張スルコトヲ得ル丈クノ權利ハ之ヲ伸張シ且其判決ハ上告裁判所ノ鑑査ヲ經タルモノナレハ完全無缺ノモノト看做サルヘカラス畢竟非常上告ヲ許スハ原裁判ニ瑕疵アルモ何等ノ事情ニ因リ上訴ヲ爲スコト能ハサリシモノトスルニ出ツルニ既ニ上告裁判所ノ裁判ヲ經タルモノナル以上ハ更ニ上訴ノ權ヲ與フルノ必要ナシ故ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得ルニハ上訴裁判所ノ判決ヲ受ケスシテ確定シタル判決ナルコトヲ必要ナリトス

刑事訴訟法第二百九十二條ニハ期間内上訴スル者ナク其判決確定シタル時トアリ上訴ハ余輩ノ知ル如ク控訴上告抗告ノ三種トス然ラハ其上訴スル者ナクトハ控訴上告ニテモ抗告ニテモ爲シタルモノナキヲ要スル平若シ此内一ノ上訴ヲ爲シタル者アレハ非常上告ヲ爲スコトヲ得スト云フノ意ナル乎既ニ上告ヲ爲シ法律適用ニ付キ上告裁判所ノ鑑査ヲ經タルモノハ最早ヤ更ニ上告ヲ許スノ必要ナキコトハ論ヲ俟タス控訴ハ事實ノ覆審ヲ爲シ併セテ法律ノ點ニ於テモ審理判決ヲ爲スモノナレハ此上訴ヲ爲シタル者ハ既ニ原判決ニ對スル更正ノ途ヲ盡シタルモノト見ルコトヲ得ヘシ故ニ控訴ヲ爲シタル者アレハ非常上告ヲ以テ原判決ヲ攻撃スルコトヲ得スト論決セサルヲ得サルカ如シ然リト雖モ第二百九十二條ニ第一審裁判所タルト第二審裁判所タルトヲ問ハストアリテ第二審裁判所ノ裁判ニ對シテモ非常上告ヲ爲スコトヲ規定シアリ然ラハ控訴ヲ經タル判決ト雖モ非常上告ヲ爲シテ之ヲ攻撃スルコトヲ得ルモノト謂フヲ得ヘシ蓋シ第二審裁判所ノ判決ハ事實裁判ナルヲ以テ法律適用ノ點ニ於テハ或ハ其當ヲ得サルコトアリトスルヲ以テナリ故ニ本條ノ所謂上訴スルモ

ノナシトアル上訴ニハ控訴ヲ包含セズ控訴ヲ經タル判決ト雖モ非常上告ノ原
 山アルトキハ其上告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
 抗告モ亦第二百九十二條ノ所謂上訴中ニ包含スルヤ否ニ至リテハ大ニ疑ナキ
 能ハス第五編ノ上訴ニハ控訴上告抗告ヲ以テ上訴ナリトス然ルニ抗告ハ枝葉
 ノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ許シ又本案ノ事實ニ對シテモ之ヲ許スモ判決
 前ニ之ヲ爲スモノニシテ判決ニ對シテハ之ヲ許サズ然ラハ抗告ヲ爲シタリト
 テ原判決ヲ更正スヘキ上訴ヲ爲シタルモノト云フコトヲ得ヌ例ヘハ重罪ノ豫
 審終結ニ對シ抗告ヲ爲シタリト雖モ第一審裁判所第二審裁判所ノ原判決ニ對
 シテ非常上告ヲ爲スノ妨ケトナルヘカラス何トナレハ其上訴即チ抗告ヲ爲シ
 タリトテ原裁判ノ法律適用ニ對シ上訴ヲ爲シタルモノト云フコトヲ得サレハ
 ナリ又第二百九十二條ノ法文ニ依リテモ第一審裁判所第二審裁判所タルトテ
 間ハス云々上訴スル者ナクトアリ是レ第一審第二審ノ本案判決ニ對シ上訴ス
 ル者ナクシテ確定シタルノ意ニシテ豫審決定ニ對スル抗告ノ如キハ此上訴ニ
 包含セサルコトヲ知ル可シ故ニ豫審決定ニ對スル抗告ハ非常上告ノ妨ケトナ

ラサルモノトス其他事件カ公判ニ移リタル後抗告アリト雖モ是レ第一審裁判
 所若クハ第二審裁判所ノ本案判決ニ對スル上訴ニ非サルヲ以テ非常上告ヲ爲
 スノ妨ケトナルモノニ非ス只タ證人鑑定人ニ對シ豫審判事カ罰金ヲ言渡シ抗
 告アリタルトキハ非常上告ヲ爲スヲ得サルノミ

前述ノ如ク刑事訴訟法第二百九十二條ニ上訴トアルハ總テノ上訴ヲ指稱シタ
 ルモノニアラストスレハ本按判決ノ法律適用ニ對スル上告又ハ抗告ヲ經タル
 事件ハ非常上告ヲ爲スヲ得ヌト云フノ意ニ解スヘキナリ而シテ上告ハ獨リ本
 按判決ニ對スルノミナラス本按前ノ判決ニ對シテモ亦之ヲ爲スコトヲ得ヘシ
 而シテ同第八十七條ニ依リ管轄違又ハ公訴受理ヌ可ラサルノ申立ヲ却下シ
 タル判決ニ對シ既ニ上告ヲ爲シ本按判決ニ對シテハ上告ヲ爲サスシテ確定シ
 タル事件ハ後日非常上告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス何トナレハ此上告ハ本
 案判決前ニ在ルヲ以テ本案判決ノ法律適用ニ對シテハ未タ上告シタルモノナ
 クレハナリ同條ノ法文ニ依リテモ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シテ刑ヲ言渡
 シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ期間内ニ上訴スル者ナク

シテトアリテ其上訴トハ其刑ノ旨渡ニ對スルモノナルコト明ナリ然ルニ本案前ノ判決ハ未タ刑ヲ旨渡シタルモノニ非サルヲ以テ之ニ對シ上告ヲ爲シタルコトアルモ刑ノ旨渡ニ對シテ上告シタルモノナリトハ云フヲ得ス即チ本條ノ所謂上訴スル者ナカリシ場合ナリ故ニ確定ノ後非常上告ヲ以テ本案判決ヲ攻撃スルコトヲ得ヘシ要スルニ非常上告ハ本案判決ニ對シ上告ヲ爲シ確定シタル事件ニ付テハ之ヲ許サズ其他ノ上告ハ之ヲ爲シタル者アリト雖モ非常上告ヲ爲スノ妨クトナラサルモノナリ

判決確定シタル後ニアラサレハ非常上告ヲ爲スコトヲ得ス而シテ此上告ニハ期間ナキモノナルカ曰ク第二百九十二條ハ何時ニテモ非常上告ヲ爲スコトヲ得ルトアリテ普通上告ノ如ク期間ノ定ナシトス畢竟普通上訴ニ就テ期間ノ定マアルハ其上訴ハ判決ノ確定ヲ妨クルモノナルヲ以テナリ然ルニ非常上告ハ確定後ノ上告ナレハ期間ノ必要アルコトナシ然ラハ再審ニ於ケルカ如ク被告ノ死後ニ於テモ檢事ハ非常上告ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ法律ハ上訴ノ時ニ制限ヲ置カサルモ實際被刑人ナキ時ハ此非常上告ヲ爲スノ必要ナシ凡ソ

刑事ノ裁判ハ常ニ社會ニ關係ヲ有シ罪ナキ人ヲ罰シ不當ニ刑ヲ重クシタル時ハ公安ニ關スル甚タ大ナリト雖モ再審ニ於ケル如ク上訴ノ結果事實ヲ變更スルモノニ非サレハ死者ニ利益ヲ與フルモノニ非ス固ト法律ニ罰ス可ラサル所爲ナリトシタルトキハ幾分カ死者ノ名譽ヲ回復スルコトヲ得ルモ刑ヲ輕クスルトキノ如キハ更ニ利益アルヲ見ス故ニ法律ハ死後ニ此上告ヲ爲スコトヲ得ルノ規定ヲ置カス然レトモ既ニ刑期ヲ終リ今尙生存スル者ノ爲メニハ此上告ヲ爲サ、ルヘカラヌ何トナレハ其人ハ此上告ナケレハ不當ナル刑ノ結果ヲ受クルノ不幸ヲ見レハナリ

非常上告ヲ爲スノ權利ハ何人ニアリヤ第二百九十二條ハ上告ヲ受クル權アル裁判所ノ檢事ハ司法大臣ノ命ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其裁判所ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得トアリ故ニ此上告ノ權利ハ上告裁判所ノ檢事獨リ之ヲ有スルモノトス而シテ檢事ハ常ニ司法大臣ノ命令ヲ以テ職務ヲ行フヲ以テ該大臣ノ命令ニヨリテ爲スコトアリ又檢事ハ法律ノ適用ヲ鑑査スル固有ノ職權アルヲ以テ自己ノ權利トシテモ此上告ヲ起スコトヲ得ヘシ故ニ區裁判所ノ判決ニ對スル

非常上告ナル時ハ控訴院ノ檢事之ヲ行ヒ又地方裁判所カ第一審トシテ言渡シタル判決ナル時ハ大審院ノ檢事之ヲ行フモノトス此等ノ檢事ハ則チ上告ヲ受クルノ權アル裁判所ノ檢事ナリ

非常上告ノ審理ニ付テハ別段規定ナシ故ニ普通上告ノ手續ヲ適用ス可キモノトス然レトモ其手續中ニ非常上告ノ性質上適用ス可カラサルモノアリ上告期間ノ如キ是ナリ又相手方ヨリ附帶上告ヲ爲スコトヲモ適用スルコトヲ得ス何トナレハ此上告ハ檢事ニノミ許シタル權利ナレハナリ又凡テ被告人ノ利益ノ爲メニノミ爲スモノナルヲ以テ相手方ニ書類ヲ送附スルコトヲ要セス重罪事件ト雖モ辯護士ヲ選定スルコトヲ要セス何トナレハ假令辯護士ヲ選定セシムルモ檢事ノ上告主旨ヲ補述スルニ過キス辯論シテ被告ノ權利ヲ防禦スルノ必要ナシ然レトモ此非常上告ハ判決ヲ以テ裁判ス可キモノナレハ一般ノ原則ニ從ヒ法廷ヲ開クモノトス依テ被告ヨリ辯護人ヲ出ス時ハ裁判所ハ之ヲ拒ム可キモノニ非ス只必要トセサルノミニシテ上告ノ主旨ヲ貫徹セシメシカ爲メ被告人ニ充分ノ餘地ヲ與フルハ訴訟ノ本旨ナリ故ニ辯護人ヲ禁スルニハ非サル

ナリ

非常上告ヲ受クタル裁判所ハ如何ナル判決ヲ爲ス可キモノナルヤ第二百九十二條第二項ニ曰ク「非常上告ヲ理由アリトスル時ハ原判決ヲ破毀シ直チニ其事件ニ付キ判決ヲ爲ス可シト

先キニ述ヘタル如ク非常上告ハ一ニ法律適用ニ對スル上訴ニシテ事實ハ常ニ確實ト見做スヲ以テ他ノ裁判所ニ移送シテ審理判決セシムルノ必要ナク其上告裁判所ニ於テ原判決ヲ破毀シテ確定力ヲ失ハシメ而シテ自ら判決ヲ下ス可ク若シ非常上告カ適法ノ理由ナキ時ハ上告裁判所ハ判決ヲ以テ棄却ヲ言渡シ以テ原判決ノ確定ヲ維持スルモノナリ

第四章 抗告

抗告ハ法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニ限り決定ニ對シテノミ爲スコトヲ得ル上訴ナリ即チ第二百九十三條ニ曰ク抗告ハ法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ト

本條規定ノ如ク抗告ハ特ニ法律ニ於テ許シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス依テ法律ハ其抗告ヲ爲スコトヲ得ル場合ヲ規定スルノ勞ヲ採リタリ即チ第百二十六條第百三十八條第百七十二條第百七十四條第百五十五條第百七十六條第百二十二條ノ場合是ナリ

第百二十六條及ヒ第百三十八條ハ供述又ハ鑑定ヲ肯セサル證人若クハ鑑定人ニ對シ刑ヲ言渡シタル決定ニ對シ抗告ヲ許シタルモノナリ刑法第百八十條及ヒ第百七十九條ニ證人鑑定人故ナクシテ供述又ハ鑑定ヲ肯セサル時ハ公務ヲ拒ムノ罪アリトセリ此場合ハ刑法ニ據リテ刑ノ言渡ヲ爲スモノナリト雖モ其言渡ヲ爲スモノハ豫審判事ニシテ公判判事ニ非ス故ニ其言渡ハ決定ヲ以テスルモノニシテ判決ニ非ス故ニ之ニ對シ控訴上告ヲ爲スコト能ハス法律ハ抗告ヲ許シタリ蓋シ豫審ニ呼出サレタル證人鑑定人ノ犯罪ニシテ豫審手續ノ一部ニ屬スルヲ以テ豫審判事ニ決定ヲ以テ刑ヲ言渡スコトヲ許シタルモノナリ

第百七十二條及第百七十四條ハ豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ノ場合ニシテ治罪法ニ於テハ豫審終結ニ對シテ故障及ヒ上告ヲ爲スコトヲ許シタリ刑事訴訟

法ニ於テハ上告控訴ハ判決ノミニ對シテ爲スモノトス故ニ豫審終結決定ニ對シテハ之ヲ許サス然レトモ豫審終結決定ニ對シテ上訴方法ナカルヘカラス茲ニ於テ抗告ナル一種ノ上訴ヲ許シタリ又豫審終結決定ニ對シテハ悉ク抗告ヲ許スニ非ス已ニ諸君ノ知ル如ク第百七十二條ニ於テ重罪公判ニ附スル決定又ハ免訴若クハ管轄違ノ決定ニ對シテハ檢事重罪公判ニ付スル決定ニ對シテハ被告人ニ於テ抗告ヲ爲スコトヲ得ルトセリ故ニ輕罪公判ニ附スル決定ノ如キハ之ニ對シテ抗告ヲ許サス其詳細ハ既ニ講述シタルヲ以テ諸君ノ了知セラル、所ナルヘケレハ茲ニ之ヲ省略ス

豫審終結ハ本案事件ニ關スルモノニシテ其重罪公判ニ付スル決定及ヒ免訴若クハ管轄違ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ルコト勿論ナリト雖モ豫審終結決定言渡ト同時ニ保釋又ハ實付ヲ取消スノ決定ヲ爲スコトアル可シ此場合ニ於テ被告人ハ其取消決定ニ對シテノミ不服ヲ唱ヘ本案ノ終結決定ニ對シテハ不服ナラサル場合ニ於テ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナルヤ第百五十條以下ニ於テ保釋實付ノ言渡ヲ取消スノ場合ヲ掲ケタルモ其取消ニ對シ抗告ヲ許

シタルノ正條ナシ然レトモ第七十四條ニ至リ豫審終結決定ハ抗告ノ期間内
 又ハ抗告アリタル時ハ其決定アル迄執行ヲ停止スルコトヲ規定シ且其但書ニ
 於テ保釋責付ノ言渡ヲ取消ス決定ハ其執行ヲ停止セスト揭ケタリ元來本條ハ
 抗告ヲ許スヘキ決定ノ執行停止ニ付キ規定シタルモノナレハ若シ保釋責付取
 消ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ許サ、ルモノトスレハ執行ヲ停止セストノ法文ヲ
 掲載スルノ必要ナカル可シ然ルヲ故ラニ執行停止ナキコトヲ記載シタルハ則
 チ保釋責付取消ノ決定ニ對シテモ抗告ヲ許スノ明證ナリト云ハサルヲ得ス
 第二百五十五條及第二百七十六條ハ控訴上告ノ申立ヲ原裁判所ニ於テ期間ヲ
 經過シタルモノナリトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス而シテ其決定ニ對シ
 テハ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノト規定セリ此二條ハ余輩ノ既ニ講究シタル所
 ナレハ今茲ニ其詳細ヲ説述スルコトヲ省シ
 第三百二十二條ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行
 ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタル時之ニ對シテ爲シタル決定ニ對シテ抗告ヲ許シ
 タルモノナリ本條ノ詳細ナル講究ハ後ニ譲ル

抗告ハ如何ナル裁判所ニ於テ爲スコトヲ得ルモノナルヤ

第二百九十四條ニ曰ク抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲スコト
 抗告ハ普通上訴ナルカ故ニ審級ノ順序ヲ踰越スヘカラス直近上級裁判所ニ於
 テ其裁判ヲ爲スヘキモノトス即チ區裁判所ノ決定ニ對スル抗告ハ地方裁判所
 ニ於テ裁判シ地方裁判所ノ決定ニ付テハ控訴院ニ於テ裁判シ控訴院ノ決定ニ
 對スル抗告ハ大審院ニ於テ之カ裁判ヲ爲スモノナリ
 然レトモ抗告ハ他ノ上訴ト其趣ヲ異ニスルノ點アリ控訴上告ニアリテハ其攻
 撃ヲ受ケタル裁判ヲ下シタル裁判所ハ其上訴ノ當否ニ付キ判斷ヲ下スコト決
 シテ之ナキモノナルモ抗告ニ付テハ否ラス後ニ見ル如ク其決定ヲ爲シタル裁
 判所又ハ豫審判事ハ抗告ヲ理由アリトスル時ハ不服ノ點ヲ更正スルコトヲ得
 ルナリ

抗告ハ如何ナル期間ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ルヤ

第二百九十五條ニ曰ク抗告ノ期間ハ裁判ノ送達アリタル日ヨリ三日トスト
 抗告ノ期間ハ決定ノ送達アリタル日ヨリ三日トス其期間タルヤ控訴上告ノ期

間ニ於ケルト同一ニ最モ嚴格ニ之ヲ遵守ス可キモノナリ故ニ其期間ノ經過ハ
 抗告ノ成立ヲ妨クルモノトス控訴上告ノ期間ハ裁判言渡ノ日ヨリ起算スルモ
 抗告ハ決定送達ノ日ヨリ起算スルモノトス蓋シ決定ハ口頭辯論ヲ經ルニアラ
 サルカ故ニ公判廷ニ於テ其決定ヲ言渡スモノニ非ス抗告ノ權アル者ハ決定ノ
 送達ニ依リテ決定アリタルコトヲ知ルヲ得ルモノナリ豫審終結ノ決定モ之ヲ
 檢事若クハ被告人ニ送達シタルニ因リ決定アルコトヲ知ルモノナリ(一七一)證
 人鑑定人ニシテ供述又ハ鑑定ヲ肯セサルモノニ對シテ刑ノ言渡ヲ爲ストキモ
 決定ヲ公廷ニ於テ言渡スモノニアラス其決定ノ送達ヲ以テ言渡ノ効アルモノ
 トス又疑義異議ニ對スル決定モ送達ニヨリテ決定ノ效力ヲ生セシムルモノナ
 リ
 抗告ノ期間ハ三日ナリトスルモ豫審決定ニ對シテハ其期間經過ヲ停止スル場
 合アルモノ、如シ第百七十三條ハ決定書ニ抗告ヲ爲シ得ル期間ノ記載ナキト
 キハ其送達アル迄期間ヲ停止スルモノトス判決ハ宣告スルヲ以テ上訴期間ハ
 其宣告ノ日ヨリ起算ス故ニ上訴期間ノ告知又ハ關席判決ニ對スル故障期間ノ

記載ナキ時ハ其通知アル迄上訴又ハ故障期間ヲ停止ス(二〇七)然レトモ抗告ニ
 付テハ常ニ送達ノ日ヨリ起算スルヲ以テ殊ニ期間停止ヲ記載スルノ必要ナシ
 トス

抗告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ豫審判事ニ差出ス可
 キモノトス(二九六)

控訴上告ニ於テモ上訴人ハ申立書ヲ差出スヲ以テ上訴ノ第一着手ト爲ス抗告
 ニ於テモ同シク之ヲ爲サルヘカラス控訴ニ在リテハ其申立書ニハ不服ノ趣
 旨ヲ辯述シ置クヲ要セス單ニ控訴ヲ爲スノ意思ヲ表示スレハ足ルモノナリ上
 告ニ於テモ申立書ハ事件ヲシテ上告審ニ繫屬セシムルモノニシテ單ニ不服ノ
 意思ヲ表示スルニ過キス然レトモ抗告ニ至リテハ申立書ノ性質ヲ異ニス元來
 抗告ハ書面審理ニシテ原裁判所又ハ豫審判事ハ單ニ此申立書ニヨリテ原裁判
 ノ當否ヲ決シ又抗告裁判所モ申立書ノミニヨリテ決定スルモノナレハ其不服
 ノ趣旨ヲ明確ニ申立書ニ記載セサルヘカラス

抗告期間及ヒ抗告申立ハ原裁判ノ執行ヲ停止スルノ效力アルモノナルヤ控訴

上告ニ於テハ法律ニ於テ特ニ明記セルヲ以テ一點ノ疑團ナシト雖モ抗告ニ付テハ一般ニ其規定ヲキテ以テ聊カ研究セサルヲ得ス今法律カ抗告ヲ許シタル各場合ニ付テ研究セントス

證人又ハ鑑定人ニ對シ豫審判事罰金ノ言渡ヲ爲シタル決定ニ對スル抗告ニ付テハ第二百二十六條第三百十八條ハ其抗告ハ執行ヲ停止スルノ效力ヲ有スルモノト規定セリ又豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ第七十四條ハ抗告ノ期間内又ハ抗告アリタル時ハ其決定アルマテ執行ヲ停止スト規定セリ以上ノ場合ニハ少シク規定ノ異ナルヲ見ル證人鑑定人ノ抗告ハ執行ヲ停止ストアリ又豫審終結ノ決定ニ付テハ期間内又ハ抗告アリタル時執行ヲ停止ストアリ然ラハ證人鑑定人ニ對スル決定ニ對シテハ抗告ナル上訴アリタル時ニ停止スルモノニシテ其期日内ハ停止セサルカ如シ然リト雖モ此場合ニ於テ抗告ハ均シク執行停止ノ效力アリトスルモノナレハ其法律ノ與ヘタル三日ノ期間ハ抗告者カ法律ニヨリテ得タル權利ナリ既ニ權利ナル以上ハ焉ノ執行ヲ受クルノ理由アラソヤ故ニ證人鑑定人ノ爲シタル抗告ハ執行ヲ停止スルノ效力ヲ有スト

ノミ規定シタル法文ニ拘泥シテ抗告期間ハ停止ノ效力ナシトスルコトヲ得ス」

控訴上告ノ申立ニ付テノ決定ニ對スル抗告ハ法律ニ於テ此執行停止ノ規定ヲシ盡シ其上訴ヲ不成立ナリトノ決定ヲ與ヘタルモノナレハ抗告ノ爲メ殊更ニ停止スヘキモノナク依テ停止ノ事ヲ云々スルノ必要ナク其決定ハ執行セラルハモ敢テ害ヲ生セサレハナリ

判決ノ疑義ニ關スル決定及ヒ刑ノ執行ニ關スル異議ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ第三百二十二條ハ執行停止ノ事ヲ規定セス元來此決定タルヤ刑ノ執行ヲ左右スルニ非ス刑ハ其決定ニ關セス執行セラル、モノナリ然ラハ決定ノ執行ヲ停止セサルモ被告人ノ利益ヲ害スルコトナキヲ以テ法律ハ執行ヲ停止ス可キモノニ非ス

抗告カ已ニ正當ニ成立シタル時ハ其上訴ハ二段ノ運用ヲ顯ハスモノナリ即チ攻罪ヲ受タル裁判ヲ爲シタル裁判所及ヒ豫審判事ヲシテ其抗告ノ當否ヲ判定スルヲ以テ第一段トシ若シ其裁判所及ヒ豫審判事カ抗告ヲ理由ナシトスルニ至リ始テ抗告裁判所ノ審理ヲ受ク可キモノトス之ヲ第二段ノ運用ト爲ス故

ニ今之ヲ二段ニ區別シテ之ヲ見ントス

第一 抗告ヲ受クタル決定ヲ爲シタル原裁判所

上ニ見タル抗告申立書ハ之ヲ原裁判所ヲ爲シタル裁判所又ハ豫審判事ニ差出ス可キモノナリ其裁判所又ハ豫審判事ハ抗告カ抗告手續ニ違背セサルヤ否ヲ調査シ已ニ適式ナル以上ハ裁判所若クハ豫審判事ハ之ヲ抗告裁判所ニ送致スルニ非スシテ其抗告ノ理由アルヤ否ヤヲ鑑査セサルヘカラス是レ抗告ニ付テノミ存スル手續ニシテ上訴中一種特別ノモノナリトス而シテ其鑑査ノ上之ヲ理由アリト爲シタル時ト又理由ナシト爲シタル時トニ於テ裁判所又ハ豫審判事ノ實務ヲ異ニス即チ第二百九十五條第二項ニ依レハ其裁判所又ハ豫審判事ニ於テ抗告ヲ理由アリトスル時ハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ナシトスル時ハ意見ヲ付シテ三日内ニ抗告申立書ヲ抗告裁判所ニ送致シ且豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ訴訟記録ヲモ送致ス可キモノトセリ
抗告ヲ鑑査シタル上其抗告理由アリト決定シタル時ハ其裁判所又ハ豫審判事ハ不服ノ點ヲ更正スルノ實務アリ例ヘハ重罪公判ニ移スノ言渡ニシテ被告人

ヨリ豫審終結書ニ認定ノ事項ハ輕罪ノ刑ニ當ル可キモノナルヲ以テ輕罪公判ニ附ス可キニ重罪公判ニ移シタルハ不當ナリトノ趣旨ヲ以テ抗告ヲ爲シタル時豫審判事自ラ其重罪公判ニ移シタル決定ノ非ナルコトヲ悟リタル時ハ其豫審終結書ヲ更正シテ之ヲ輕罪公判ニ移スノ決定ヲ爲ス可キナリ證人又ハ鑑定人ニ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テモ其罪トナル可キ原素ヲ欠キタルモノト爲シ抗告シタル時ハ豫審判事之ヲ至當ト認ムルニ於テハ自ラ更正シテ無罪ノ言渡ヲ爲シ抗告ノ趣旨ヲ貫徹セシメサルヘカラス決定ヲ爲シタル裁判官自ラ理由アリトシテ更正スルトキハ上訴ノ裁判ニ非スシテ恰モ闕席判決ニ對スル故障ノ判決ト同一ナリ而シテ其更正ハ亦一ノ決定ナリトス斯ク抗告ニ便宜法ヲ採用シタル理由ハ決定ハ一ノ裁判タルニ相違ナキモ事固ヨリ判決ヲ受クルモノヨリモ重大ナラサルヲ以テナリ

若シ原裁判所又ハ豫審判事ハ抗告ヲ理由ナシト爲シタル時ハ意見ヲ附シテ三日間ニ抗告申立書ヲ抗告裁判所ニ送致シ若シ申立カ豫審終結ニ關スル時ハ豫審ノ訴訟記録ヲモ送致スルモノナリ此送致ニ依リ抗告ハ抗告裁判所ニ繫屬ス

何故ニ原裁判所又ハ豫審判事ヲシテ其意見ヲ附セシムルカヲ考フルニ普通上訴ニアリテハ其攻擧ヲ受ケタル判決ヲ爲シタル原裁判所ノ意見ハ上訴裁判所ハ之ヲ知ルノ必要ナク又法律上ヨリ見ルトキハ其裁判所ハ自己ノ爲シタル判決ヲ正當ナリト維持スルヲ以テ當然ノ事トナセハ意見ヲ附スルノ責務ヲ負ハシメス然レトモ抗告ニ付テハ原裁判所又ハ豫審判事ヲシテ抗告ノ當否ヲモ鑑査スルヨトヲ許スモノナレハ其意見ハ一ノ決定ト同一ニシテ抗告裁判所ハ之ヲ參照ノ具ト爲スモノナリ然リト雖モ此意見ヲ附スルヨトハ決シテ抗告ノ必要條件ニ非ス故ニ意見ヲ付セスシテ申立書ヲ抗告裁判所ニ送致スルモ抗告ノ成立ヲ妨ケス

第二 抗告裁判所

原裁判所又ハ豫審判事ヨリ抗告ノ送致ヲ受ケタル抗告裁判所ニ於テハ第二百九十七條ニ依リ檢事ノ意見ヲ聽キ書類ニ依リ抗告ノ裁判ヲ爲ス可キモノトス抗告裁判所ハ判決ヲ爲スモノニ非ス故ニ公判廷ヲ開始シテ口頭審理ヲ爲スニ非ス注文ニアル如ク送附ヲ受ケタル書類ノミニヨリ裁判ヲ爲ス故ニ其裁判ハ

決定ナリ然レトモ檢事ノ意見ヲ聽キテ決定ヲ爲サルヘカラス控訴上告ニアリテハ其書類ハ裁判所檢事ヨリ上訴裁判所ノ檢事ニ送致スルモノナルモ抗告ニ付テハ直チニ抗告裁判所ニ送致ス故ニ抗告裁判所カ裁判ヲ下ス時ハ必スシモ檢事ノ手ヲ經テ來ルモノニ非ス依テ抗告裁判所ヨリ特ニ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ若シ抗告裁判所カ檢事ノ意見ヲ聽クヨトヲ遺忘シテ決定ヲ與ヘタル時ハ其決定ハ裁判ノ手續ヲ誤リタルモノト云フ可キナリ故ニ之ヲ理由トシテ更ニ抗告ヲ爲スヨトアルヘシ

抗告裁判所其抗告ヲ受ケタル時ハ其抗告ノアルヤ否ヤヲ審査スルノ前ニ當リテ先ツ抗告カ完全ニ成立スルヤ否ヤヲ取調ヘサルヘカラス
第二百九十九條ニ曰ク抗告裁判所ニ於テハ抗告ヲ許ス可キヤ否ヤ又抗告ノ期間内ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ此條件ノ一ヲ闕ク時ハ其抗告ヲ棄却ス可シト

法律ノ許サル場合ニ於テ爲シタル抗告ナルカ又ハ決定ノ送達アリタルヨリ三日ヲ經過シタル抗告ナルトキハ其抗告ハ成立セサルモノナルヲ以テ抗告裁

判所ハ其抗告ノ理由アルヤ否ヲ審査スルニ至ラスシテ之ヲ棄却スルノ決定ヲ爲スモノナリ猶控訴上告ニ付テ其不成立ヲ認メタル時ハ理由ノ如何ニ拘ラス之ニ對シテ棄却ノ判決ヲ與フルト同一ナリ然レトモ抗告ノ成立スル時ハ別ニ其抗告ヲ受理スルノ旨渡ヲ爲スコトヲ要セス直チニ其抗告ノ理由ニ付キ當否ノ決定ヲ下サルハカラス

抗告裁判所ハ其抗告成立スルモノト認定シタルトキハ其理由ノ當否ニ付テ決定ヲ爲スコシト雖モ豫審判事ノ決定ニ對スル抗告ハ本案ノ事實ニ關係シ爲メニ事件繁雜ニ涉リ送附ヲ受ケタル書類ノミニヨリテ決定ヲ下スコトヲ得サル場合ニ遭遇スヘシ去レハトテ抗告裁判所ハ其當否ヲ決セシテ放棄シ置クコトヲ得ス故ニ此場合ニ於テハ受命判事ヲ命シテ以テ其事件ヲ調査セシム

第二百九十八條ニ曰ク豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付キ抗告裁判所ニ於テ必要ナリトスル時ハ受命判事ヲシテ事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得ト
受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ行ヒ豫審ニシテ未タ充分ナラサル處アル

時ハ猶取調ヲ爲シテ而シテ之ヲ抗告裁判所ニ報告スルモノナリ此受命判事ハ他ノ上訴ニ於ケルト同一ニ其抗告理由ニ付テ判断スルニ非ス只抗告裁判所カ裁判ヲ爲スコトヲ得可キ材料ヲ調査スルニ止マル例ハ豫審終結ニシテ重罪公判ニ移スノ旨渡ヲ爲シタルモノニ對シテ抗告アリタル時ニ於テ其豫審判事ノ聚集シタル證據ニ依レハ多クハ輕罪ニ過キサルカ如シト雖モ僅ニ重罪ト見ル可キ證アリテ其證據タルヤ抗告裁判所ヲシテ重罪ナリト確認セシムルニ足ラサル場合ノ如キハ受命判事ヲシテ猶證據ノ蒐集ヲ爲サシムルコトヲ得可キナリ

抗告ノ理由ニ付キ裁判ヲ下スニ當リテハ其抗告ノ理由アリタル場合ニテモ之ヲ他ノ裁判所ニ移シテ審理セシムルコトヲ爲サス豫審終結ニ對スル抗告ノ如キニ於テハ事實ノ審理ヲ要シ抗告裁判所自ラ其審理ヲ爲スモノナレハ彼ノ上告ニ於ケルカ如ク他ノ下級裁判所ニ移送シテ更ニ審理判決ヲ爲サシムルコトヲ爲サス孰レノ場合ニ於テモ抗告裁判所直チニ決定ヲ與フルモノナリ
第三百條ニ依レハ抗告裁判所ニ於テ抗告ヲ理由アリトスル時ハ原裁判ヲ取消

シ自ラ更ニ裁判ヲ爲シ又抗告ヲ理由ナシトスル時ハ之ヲ棄却ス可シ
 抗告ヲ理由アリトシテ原判決ヲ取消シ自ラ決定ヲ爲シタルトキハ其決定ヲシ
 テ執行力アリテシテ原判決ハ消滅シタルモノトス之ニ反シ抗告ノ理由ナシトシ
 テ棄却シタル時ハ原決定ヲシテ其效力ヲ維持セシムルモノナリ
 抗告裁判所ノ決定ハ其抗告ヲ以テ攻撃セラレタル裁判所又ハ判事ヲシテ之ヲ
 知ラシムルノ必要アリ如何トナレハ本案ノ事件ハ原裁判所ノ手中ニ存シ抗告
 ノ結果ニ依リテ審理判決又ハ處分ノ進行ニ影響アルモノナレハナリ此點ニ付
 テハ別ニ法律ノ規定アルヲ見スト雖モ訴訟ノ順序上然ラサルヲ得ス故ニ抗告
 裁判所ハ其決定ヲ訴訟記録ト共ニ檢事ニ送致シ檢事ハ之ヲ受取リタル後原裁
 判所ニ還附シ原裁判所又ハ判事ヲシテ其抗告ノ結果ヲ了知セシム
 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルヤ
 第二百九十四條第二項ハ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告申立人ヨリ更ニ抗
 告ヲ爲スコトヲ得サルモノトセリ
 本條ニ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ストアルニヨレハ更ニ抗告ヲ

許サルハ獨リ抗告申立人ノミニシテ抗告ノ相手方ハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ
 得ルモノトスルヲ得ヘシ例ヘハ重罪裁判所ニ移ス豫審決定ニ對シテ被告人ヨ
 リ無罪ヲ主張シ抗告ヲ爲シ抗告裁判所ハ原決定ヲ取消シ輕罪公判ニ附スルノ
 決定ヲ爲シタリトセンカ被告人ハ抗告申立人ナルヲ以テ更ニ抗告ヲ爲スコト
 ヲ得サルモ相手方タル檢事ハ申立人ニ非サルヲ以テ更ニ其決定ニ對シテ重罪
 公判ニ移スヘキモノナリトシテ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ或說ニ曰ク抗告ニ付
 テハ檢事ハ果シテ對手人ナリヤ否ヲ見ルニ控訴上告ナル上訴ニアリテハ檢事
 ハ對手人ナルカ故ニ其上訴アリタル時ハ必ス之ニ通知スルノ手續ヲ規定シタ
 リト雖モ抗告ニ付テハ一モ對手人ニ通知スルノ規定アルコトナシ若シ抗告ニ
 於テ檢事ヲ相手人ナリトスルニ於テハ法律ハ何ソ檢事ニ知通スルノ手續ヲ規
 定セサルノ理山アラザヤ必スヤ其規定ノ勞ヲ採リシナラン然ルニ其手續ノ規
 定ナキヲ以テ見レハ法律ハ抗告ノ對手人ヲ認メサルモノナリ又檢事ヨリ抗告
 ヲ爲シタル時モ被告人ハ對手人ニ非ス故ニ法律カ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ
 爲スコトヲ得スト云ヒシハ何レノ場合ニテモ抗告ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告

ヲ爲スコトヲ得サルノ注意ナリトス好シヤ抗告ニ對手人アリトスルモ抗告ノ
 裁判ニ對シテ更ニ抗告ヲ許ス時ハ奇怪ナル結果ヲ生ス可シ豫審終結ノ決定ニ
 對スル抗告ノ如キハ其直近上級ノ裁判所即チ控訴院ニ之ヲ爲ス可シ其控訴院
 ノ下シタル抗告ノ裁判ニ對シテ抗告ヲ許ストスル時ハ之ヲ大審院ニ爲サ、ル
 ヘカラス而シテ大審院ハ此場合ニ於テ本案ノ事實ヲ審査スルニ至ラン元來大
 審院ニ於テ事實ノ審理ヲ爲ヌハ本法第七編ニ定メタル特別權限ノ外法律ハ決
 シテ之ヲ認メタルモノニアラス故ニ若シ抗告裁判ニ對スル抗告ヲ許ス時ハ裁
 判所構成法ノ精神ニモ背戾スルモノナリト

然レトモ抗告ノ決定ニ對スル抗告ニ因リ大審院ニ於テ事實ノ裁判ヲ爲スニ至
 ルコトハ民事訴訟法第四百五十六條ニ或ル場合ニ於テ抗告ノ決定ニ對シ抗告
 ヲ許シアリテ法律ノ認ムル所ナリ抗告ノ結果大審院ニ於テ事實ノ裁判ヲ爲ス
 コトヲ得ルヤ否ノ問題ニ付テハ民刑ニ依リテ其主義ヲ異ニスルモノニ非ス既
 ニ民事ニ於テ或ル場合ニモセヨ事實ノ裁判ヲ許ス以上ハ刑事ニ於テモ之ヲ許
 スニ於テ敢テ妨ケナシ故ニ更ニ抗告ヲ許スヲ以テ裁判所構成法ニ背戾スルノ

論ナリトスルヲ得ス又刑事ノ裁判ハ一トシテ公益ニ關セサルハナキヲ以テ被
 告人ノ抗告アリタルトキハ公益ノ代表人タル檢事ハ其相手人タリ刑事訴訟法
 第二百二十六條第三百十八條ノ如キハ刑ノ言渡ニ對スル抗告ナレハ檢事ハ其對
 手人タルコト明カナリ檢事ヨリ抗告ヲ爲シタルトキハ被告人ハ直接ニ其利害
 ヲ受クルモノナレハ局外ノ人ナリト謂フヲ得ス即チ其對手人ナリトス故ニ刑
 事ノ抗告ニ對手人ナシト謂フヲ得ス刑事訴訟法第二百九十四條ニ抗告申立人
 ハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ストシタルハ一度抗告ヲ爲シ己レノ主旨採用セラ
 レスシテ更ニ上級裁判所ニ同一ノ抗告ヲ爲スコトヲ禁シタルニ外ナラスシテ
 抗告ノ決定ニ利害ノ關係ヲ有スル對手人ハ初メテ不服ノ理由ヲ生シタルモノ
 ナレハ之ニ對シテ抗告スルコトヲ許サスト云フノ意ニ非ス若シ論者ノ説ノ如
 クナレハ該條ニ抗告申立人ハ更ニ抗告スルヲ得ストアル其申立人ナル正文ヲ
 以テ意味ナキ文字トナスモノナリ凡ソ法律ノ正條ハ一字一句必ス其意味アル
 モノト解釋スルヲ以テ至當トス然ルニ其正文ヲ無視スルハ決シテ相當ノ解釋
 ニ非ス

斯ク論シ來レハ下ノ場合ニ於テハ抗告ノ決定ニ對シテ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス豫審判事豫審終結決定ヲ爲スニ當リテ一ノ事件ヲ證據不十分ナリトシテ免訴ヲ言渡シタリトセシニ檢事ハ重罪公判ニ移スヘキモノトシテ刑事訴訟法第七十二條ニ依リテ右決定ニ對シテ控訴院ニ抗告ヲ爲シ其抗告ヲ受ケタル控訴院ハ審理ノ上抗告ヲ理由アリトシ決定ヲ取消シ重罪公判ニ移スノ言渡ヲ爲シタリ茲ニ於テ被告人ハ其控訴院ノ決定ニ對シテ更ニ大審院ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ何トナレハ被告人ハ抗告ノ申立人ニ非スシテ決定ニ因リ重大ナル責任ヲ身ニ負擔シタレハナリ又豫審ニ於テ重罪公判ニ移スノ決定ヲ受ケタル被告人刑事訴訟法第七十二條ニ依リ控訴院ニ抗告ヲ爲シ控訴院ハ其抗告ヲ理由アリトシテ免訴ノ言渡ヲ爲シタルトキハ檢事ハ抗告申立人ニ非サルヲ以テ其決定ニ對シ更ニ大審院ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ抗告ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ民事訴訟法ト大ニ其區域ヲ異ニスルモノアリ民事訴訟法第四百五十六條ニ依レハ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス故ニ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ハ抗告裁判所ノ決定ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルト否ニ係ルモノナリ刑事訴訟法ニ在リテハ此規定ヲ適用スルコトヲ得ス第二百九十四條ハ單ニ抗告申立人ハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得スト制限シタルマテニシテ其申立人タル以上ハ獨立ナル新理由ヲ生スルト否ニ拘ラス抗告裁判所ノ裁判ニ對シテ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ故ニ其區域ハ抗告申立人ニ付テハ民事ヨリモ狭ク對手人ニ付テハ大ニ廣シト云フヘシ何トナレハ民事ニ在リテハ抗告裁判ニ因リ新理由ヲ生シタルトキハ抗告申立人ト雖モ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモ刑事ニ在リテハ申立人ハ絶對ニ之ヲ爲スコトヲ得ス又對手人ニ在リテハ民事ニ付テハ新理由ヲ生シタルトキニアラサレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得スト雖モ刑事ニ付テハ新理由ノ有無ヲ論セス對手人タル以上ハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ先キニ述ヘタル例ノ如ク免訴ノ豫審終結決定ニ對スル檢事ノ抗告ニ依リ抗告裁判所ニ於テ重罪公判ニ移スノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ニ在リテ抗告裁判所ノ裁判ニヨリ重罪公判ニ付スルト云フ一個ノ新理由ヲ生シタリト假定スレハ民

得サルモノトス故ニ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ハ抗告裁判所ノ決定ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルト否ニ係ルモノナリ刑事訴訟法ニ在リテハ此規定ヲ適用スルコトヲ得ス第二百九十四條ハ單ニ抗告申立人ハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得スト制限シタルマテニシテ其申立人タル以上ハ獨立ナル新理由ヲ生スルト否ニ拘ラス抗告裁判所ノ裁判ニ對シテ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ故ニ其區域ハ抗告申立人ニ付テハ民事ヨリモ狭ク對手人ニ付テハ大ニ廣シト云フヘシ何トナレハ民事ニ在リテハ抗告裁判ニ因リ新理由ヲ生シタルトキハ抗告申立人ト雖モ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモ刑事ニ在リテハ申立人ハ絶對ニ之ヲ爲スコトヲ得ス又對手人ニ在リテハ民事ニ付テハ新理由ヲ生シタルトキニアラサレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得スト雖モ刑事ニ付テハ新理由ノ有無ヲ論セス對手人タル以上ハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ先キニ述ヘタル例ノ如ク免訴ノ豫審終結決定ニ對スル檢事ノ抗告ニ依リ抗告裁判所ニ於テ重罪公判ニ移スノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ニ在リテ抗告裁判所ノ裁判ニヨリ重罪公判ニ付スルト云フ一個ノ新理由ヲ生シタリト假定スレハ民

事ニ於テ再抗告ヲ許ス場合ト類似スルモ抗告裁判所ノ裁判カ法律ノ定メタル手續ニ違背シタルトキノ如キハ之ニ對シテ抗告ヲ許シタル規定ナキノミナラズ抗告申立人ナルヲ以テ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルナリ

第七編 再審

第一章 再審ノ一般ノ性質

再審ハ已ニ判決ヲ經タル事件ニ付キ更ニ其事件ノ全体ニ付審理判決ヲ求ムルノ訴ナリトス是レ一種特別ノ訴ニシテ上訴ト稱スルモノニ非ス夫レ裁判ハ必スシモ誤謬ナキヲ保セス刑事ニ付テハ其裁判ノ誤謬ハ重大ノ不幸ヲ被刑人ニ被ラシムルモノナルヲ以テ再審ノ方法ハ古昔ヨリ之ヲ許シ羅馬佛蘭西ノ古法ニ於テモ亦見ル所ナリ而シテ古法ト現今ノ法律トハ差異アルモ其再審ノ性質及ヒ之ヲ許スノ理由ニ至リテハ一ナリ我治罪法ハ專ラ佛國ノ法律ヲ採用シタルモノナルカ故ニ再審ノ法アリ刑事訴訟法ニ於テモ亦再審ヲ爲スコトヲ許セリ凡ソ刑事ノ訴訟ハ是迄諸君ノ研究シ來リタルカ如ク犯罪事件ノ眞實ヲ得ル

カ爲メニ法律ハ數多ノ手續方法ヲ規定シ一面ニハ裁判所ニ事實發見ノ便ヲ與ヘ他ノ一面ニハ被告人ヲシテ充分ナル辯護權ヲ行用セシム以テ及ハシ限リ訴訟ノ運轉ヲ計リタリ如此鄭重ナル規定ヲ運用シテ得タル判決ニシテ其認定シタル事實ニ誤謬アリト云フ推測ハ爲シ得ヘカラス其誤謬アリトスルハ裁判所ノ威信ヲ害スルニモ至ルヘシ就中陪審官ノ設ケアル刑事ノ訴訟ニアリテハ事實ノ眞偽ハ一ニ之ヲ陪審官ニ全權ヲ委任シタルモノナレハ最早事實ニ誤謬アリトハ想像スヘカラス然ルニ我刑事訴訟法ヲ始メ何レノ法律ニテモ再審ヲ採用セサルナシ是レ單純ノ理論ヨリモ寧ロ實益ヲ主トシタルニ出ツ人誰カ過ナカラシ裁判官モ亦人ナリ萬ニ一誤判アラシカ無學ヲシテ其冤罪ニ泣カシメサルヲ得ス社會ハ之ヲ厭過スルヲ欲セス其裁判ヲ翻シテ青天白日ヲ拜セシムルヲ以テ社會ノ實益ナリトス此萬一ノ場合ヲ慮リ救正方法トシテ再審ノ制度ヲ置クモノナリ

法律ノ規定ニ從テ十分ナル審理ノ上認メタル犯罪事實ナレハ之ニ誤謬アリトシ確定判決ヲ動かスニハ充分ナル證據ヲ以テスルニ非サレハ却テ法律ノ濫用

ヲ生シ人民ヲ救正スルノ良藥ハ社會ヲ擾害スルノ毒又ト化セシ故ニ法律ハ何レノ場合ニ於テモ再審ヲ許容スルニ非スシテ判決ノ誤謬ヲ表白スルニ足ル可キ原因ハ法律自ラ之ヲ特定シテ其原因ナキ時ハ再審ノ理由ナキモノト爲シタリ而シテ再審ノ方法ハ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル犯者ニ限りテ之ヲ許シ違警罪ニハ之ヲ許サス蓋シ違警罪ノ如キハ其刑罰何レモ輕微ニシテ再審ヲ許シ以テ確定判決ヲ動かスノ價值ナキモノナレハナリ是レ佛法及ヒ本法共ニ其規定ヲ一ニセリ

再審ハ上訴ニ非ス故ニ今其上訴ト異ナル一二ノ點ヲ左ニ擧ク

第一 再審ノ訴ハ上告裁判所ノ判決ヲ經ヘキモノナルコトハ第三百條以下ノ規定ヲ一讀シテ分明ナリ上告ナルモノハ予輩ノ已ニ講究シタル如ク單ニ法律ノ點ノミニ付テ之ヲ爲スモノニシテ事實ノ點ニ付テハ之ヲ爲スヲ得ス然ルニ再審ハ事實ノ點ニ付テモ猶審理判決ヲ求ムルモノナリ元ヨリ再審ノ訴ヲ受理シタル上告裁判所ハ本案ノ事實ヲ主トシテ審理スルニ非スト雖モ再審其モノカ事實ニ關スルヲ以テ審理ノ點ハ法律ノ點ノミニ止マラスシテ事

實ニ波及スルモノナリ控訴抗告ト異ナル點ハ裁判所ノ異ナルニ依リテモ明カナリ

第二 上訴ハ審級ノ順序ヲ違フテ之ヲ爲スモノナリト雖モ再審ノ訴ハ審級ノ順序ヲ違フモノニ非ス假令第一審裁判所ノ確定判決ニ對スル時モ直チニ上告裁判所ニ其訴ヲ爲スモノナリ又第二審ノ判決ニ對スル再審モ之ヲ上告裁判所ニナスヘキナリ

第三 上訴ハ未確定ノ判決ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得スト雖モ再審ノ訴ハ期間ノ定メナク常ニ確定判決ニ對シテ之ヲ爲スモノトス非常上告ナル上訴ハ上訴中一ノ特例ニシテ常ニ確定判決ニ對シ殆ト再審ト其主旨ヲ同アス其法律ノ點ナルト事實ノ點ナルトヲ異ニスルニ過キサルナリ再審ノ訴ハ確定判決ヲ動かサントスルモノナルヲ以テ法律ハ容易ニ之ヲ許スヲ欲セヌ自ラ幾多ノ制限ヲ置タリ

第三百一條ニ曰ク再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲スコトヲ得但判決確定ノ後ニアラサレハ之ヲ爲スコ

トヲ得スト

本條ニ依レハ法律ハ再審ノ訴ニ付キ左ノ三个ノ制限ヲ設ケタリ

第一、重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シテ被告人ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲スコトヲ要ス

再審ノ訴ハ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シテノミ之ヲ爲スヲ得違警罪ノ刑ニ對シテハ此訴ヲ許サズ是レ已ニ上ニ陳述セルカ如ク其輕微ナルヲ以テ再審ヲ許スノ必要ヲ認メサルニ因ルナリ又再審ノ訴ハ被告人ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ被告人ノ不利益ノ爲メニハ之ヲ爲スコトヲ許サ、ルモノトス已ニ判決ニ誤謬アリト推測スル以上ハ裁判官ハ刑罰ノ重キニ失スルコトアルヲ以テ其反面ニ於テ輕キニ失スルコトアルヘシト推測スルコトヲ得ヘケレハ檢事ヨリ有罪ナル事實ニ對シテ無罪ヲ言渡シタリトシテ再審ヲ求ムルコトヲ得ルモノト論斷セサルヲ得サルカ如シ然レトモ此論タルヤ社會ノ利益ニ反スルモノト云フヲ得ヘシ夫レ無罪又ハ免訴ヲ言渡シタル場合ニ於テ其判決確定シタルニモ拘ラス尙ホ再審ヲ許スモノトスルトキ

ハ一度被告人トナレハ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受クルモ終身青天白日ノ身トナルヲ得ヌ何時檢事ヨリノ再審ノ訴ニ遭遇スルヤモ計ラレスシテ國民一日モ其堵ニ安スル能ハサルニ至ラシ是レ一片ノ空理ノ爲メニ世ノ實益ヲ蹂躪スルモノナリ法律カ被告人ノ不利益ノ爲メニ再審ヲ許サ、ルハ則チ此理ニ基クモノナリ

第三百一條ニハ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ「トアリ故ニ刑ノ言渡ヲ爲サ、ル判決ニ對シテハ被告人ノ利益ノ爲メニモ再審ノ訴ヲ許サ、ルモノナリ例ヘハ被告人ニ犯罪ノ所爲アリト認メタルモ刑法上其刑ヲ全免スルヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲サ、ル判決アリタリトセンニ其後ニ至リテ被告人ハ原判決カ認メタル所爲ニ付キテ關係シタルコトナキ事實ヲ發見シ且再審ヲ爲スコトヲ得ヘキ原因アルトキト雖モ之ヲ以テ再審ヲ求ムルコトヲ得ス蓋シ被告人ニ付テハ其裁判或ハ誤謬ナルカモ計ラレサルモ被告人ハ刑ヲ受ケタルモノニ非サルヲ以テ其判決ヲ動カシ更ニ其人ヲ被告トナシ審理判決ヲ爲スノ必要ヲ認メサレハナリ

又本條ノ法文ニヨレハ再審ノ訴ハ刑ノ言渡ニ對スルモノナルヲ以テ刑ニ關係ナキ點ニ於テ誤謬アリトシテ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ許容セスト雖モ本刑ニ付テハ誤謬ナキモ沒收其他附加刑ノ言渡ニ誤謬アル時ハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルナリ何トナレハ假令附加刑ト雖モ一個ノ刑ノ言渡タルニ外ナラス果シテ刑タラシニハ何ソ本刑タルト附加刑タルトヲ論センヤ然レトモ彼ノ訴訟費用ノ負擔押收物ノ返還等ニ對シテ誤謬ノ點アリトテ再審ノ訴ヲ許スコキモノニ非ス

刑ヲ科シタル事實ノ認定ニハ誤謬ナシト雖モ原判決ハ管轄違ナリシ場合ニ於テ再審ノ理由アルトキハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤ再審ノ訴ハ刑ノ言渡ニ誤謬アル場合ニ對スル訴ニシテ苟モ其刑ニ誤謬ナシトスル以上ハ以テ之ヲ許スノ限リニ非ス凡ソ管轄ナルモノハ被告人ニ對スル一ノ擔保ニ相違ナシ而シテ其管轄違ナル裁判ハ違法ノ裁判タルヤ論ヲ俟タズ然レトモ已ニ之ヲ更正スルノ途ハ上訴ナルモノアリテ之ヲ更正スルコトヲ得可ク其上訴ノ成立セサル時期ニ到達シタル時ハ判決ハ刑ノ言渡カ事實ト相協ハサ

ルト云フニ非スシテ其審理ヲ適法ニセサリシト云フニ過キサハテ以テ再審ノ訴ヲ爲シテ更ニ判決ヲ受ケシムルヲ要セス故ニ此場合ニ於テハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

本刑ヲ言渡シタル事實ニ付テハ誤謬ナシト雖モ其被告人ノ年齡身分ニ付テ刑ヲ減シ若クハ全免ヌ可キモノナルニ其減輕又ハ全免セサル原判決ニ對シテ誤謬ノ點アリト主張シ再審ノ原因ヲ掲クテ此訴ヲ爲スコトヲ得ルヤ刑ノ輕重ハ刑ノ言渡ナルヲ以テ再審ノ理由ト爲スコトヲ得例ヘハ成年者トシテ處罰セラレタルモノヲ原裁判所ニ於テ成年者ナリト認定セシ材料タル戸籍帳簿ノ誤謬アルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シ得タル時ハ再審ノ理由トナルヘシ此例ハ實際ノ判例ニ於テモ往々見ル所ナリ

第二 裁判ノ誤謬カ法律ニ於テ限定シタル六個ノ原因ニヨリテ證明セラレタルコトヲ要ス

此六個ノ場合トハ猶後ニ精細講究セントスル第三百一條ニ規定セル場合ナリ其原因アル時ニ非サレハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス何レノ場合ニテモ原

裁判ニ誤謬アリトシテ之ヲ許スモノニ非ス先キニ陳述セル如ク充分ノ審理ヲ經タル判決ナル故ニ充分ノ證據ナキ時ハ誤謬アリトセス
第三、判決確定ノ後ナルコトヲ要ス

再審ハ原判決カ對席ナルト關席ナルトヲ問ハス其確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ猶上訴ヲ爲スノ途アル時ハ其上訴ニヨリテ其判決ノ誤謬ハ之ヲ更正スルコトヲ得ヘシ故ニ再審ヲ必要トセス例ヘハ第二審ノ判決ヲ受ク上告期間内ニアル時ハ其判決ハ未タ確定セサルモノニシテ上告ナル上訴アリテ法律ノ點ニ付テ誤判ヲ正スコトヲ得ルヲ以テ再審ヲ爲スヲ得ス然ルニ再審ハ事實ニ對スル攻撃ナルヲ以テ假令上告期間内ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルト云ハサルヲ得サルカ如シ然レトモ上告ハ上告裁判所ニ於テ事實ノ審査ヲ爲サスト云フニ止マリテ上告ノ結果ハ事實ニ迄波及スルモノナレハ上告ニ依リテ原判決ノ更正ヲ試ミサルヘカラス而シテ後猶判決ニ誤謬アル時ニ於テ始メテ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ蓋シ上告ハ原判決ヲ認定スルノミニ非スシテ之ヲ破毀シテ下級裁判所ニ移送シ以テ

事實ノ覆審ヲ爲サシムルコトアレハナリ

茲ニ注意ス可キハ此再審ト云フ語ニハ再審ト再審ノ訴トノ二様ノ意義アルコト是レナリ再審トハ既ニ確定判決ヲ經タル事件ヲ再ヒ審理判決スルノ義ナリ而シテ再審ノ訴トハ其再審アラノコトヲ上告裁判所ニ請求スルノ訴ナリ刑事訴訟法第三百一條以下ニ規定シ上告裁判所ノ權限ニ屬スルモノハ再審其モノニアラスシテ再審ノ訴ナリ詳言スレハ再審ヲ爲サシムヘキヤ否ハ上告裁判所之ヲ判決ス其之ヲ許スニハ法律ニ定メタル六個ノ原因ノ一アル時ニ限ルモノトス已ニ上告裁判所カ其原因ノ一アリト認メ確定判決ヲ破リ再審ヲ許スノ判決ヲ爲シタル上事件ヲ他ノ裁判所ニ移シ恰モ原判決以前ノ程度ニ復サシメ審理判決ヲ爲ス是レ即チ再審ヲ爲スモノナリ故ニ其再審ノ手續ハ普通ノ審理判決ヲ爲スト敢テ異點ナシ第六編ニ於テ規定スル所ハ上告裁判所ニ於ケル再審ノ訴ニ對スル手續ナリトス治罪法ハ上告裁判所ノ權限ニ付テハ再審ト曰ハスシテ再審ノ訴ト云ヘリ刑事訴訟法ハ再審ノ訴ニ依リ上告裁判所ノ判決ノ結果ハ再審ヲ爲スニ歸着スルヲ以テ其標題ヲ再審ト改メタリ

第二章 再審ノ原由

再審ハ法律ニ定メタル原由アルニ非サレハ之ヲ許サス而シテ其原由ハ第三百一條ヲ以テ左ノ六個ナリトス予輩ハ其各箇ニ付キ一々講究セント欲ス

第一、人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタルモ其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後生存シ又ハ犯罪前已ニ死去シタル確證アリタルトキ(三〇一ノ一號)

茲ニ殺害セラレタルモノアリテ其之ヲ殺害シタルモノモ亦發見セラレ相當ノ刑罰ニ處セラレタル後ニ至リ其殺害セラレタリトシタル人現出スルカ又ハ其人ハ殺害以前ニ死去シタルモノナル時ハ先キニ刑罰ノ言渡シヲ爲シタル基本ハ全ク消滅ニ歸シテ毫モ殺人ノ所爲ナキ無罪ノ人ナリシナリ故ニ其事實判然タラハ速カニ其犯罪アリトシテ刑ノ言渡ヲ受ケタル無罪ノ人ヲ放免ス可ク再審ノ如キ訴ヲ俟ツノ必要ナキカ如シ然ルニ猶之ヲ放免セザルハ甚ダ不道理ナルカ如シト雖モ殺人罪アリト爲シタル判決ハ誤認ナルヘキモ

未タ其被告人ハ無罪ナリトハ論斷スル能ハス被害者死セスト雖モ或ハ殺人未遂罪又ハ毆打創傷罪ヲ犯シタルモノトナルヤモ計ラレス故ニ猶ホ審理判決ヲ爲スニ非サレハ概シ無罪ナリトスルヲ得ス且又殺人罪アリト爲シタル確定判決ヲ取消スコトナレハ判決ヲ以テセサルヘカラス故ニ再審ノ判決ヲ俟タス直チニ前判決ノ執行ヲ停止シテ以テ被告人ヲ放免シ得サルナリ
甲者夜間乙者ヲ斬リ乙者地ニ斃ル甲者ハ犯罪ノ形跡ヲ包マント欲シテ乙者ヲ河流ニ投シタルニ死休ハ其往ク處ヲ知ラス偶々丙者傍ラニ於テ其有様ヲ目撃シテ告發シタリ其後乙者ハ現出シタルコトナキヲ以テ其死ハ之ヲ確知セサルモ已ニ之ヲ殺害シ以テ急流ニ投シタルモノナルヲ以テ甲者ハ自ラ殺人罪ノ所爲ヲ遂ケタルモノト思惟シ其事實ヲ以テ悉ク自白シタリ此場合ニ於テ判官ハ被害者ノ死休ヲ發見セサルモ證據具備スルヲ以テ殺人罪ノ刑ヲ宣告スルコトヲ妨クス依テ受訴裁判所ハ甲者ヲ殺人罪ナリトシテ處斷シタリ然ルニ乙者ハ其當時下流ニ於テ漁夫ノ爲メニ救助セラレ其負傷ハ全快シタリ然レトモ其住居ニ歸ラハ再ビ甲者ノ爲メニ殺害セラレシコトヲ恐ル、

ノ餘リ常ニ他ノ地方ニ潜伏シアリシ後チ甲者ノ處刑ヲ聞キテ始テ住居ニ歸
來シタランニハ甲者ニ言渡シタル裁判ノ誤謬ナルコトハ一目瞭然ナラン又
乙者現出セザルモ甲者ノ處刑ヲ受ケタル後ニ他ノ原因ニヨリテ死去シタル
コトヲ證明シタル時モ亦其殺人犯ノ處斷ノ誤謬ナルコト顯然タリ故ニ法律
ハ害サレタリト認メラレタルモノカ刑ノ言渡シ受ケタル後猶生存シタルノ
確證アル時ハ再審ノ原因アリトス

獨リ此場合ノミナラス甲者ノ爲メ殺害セラレタリト認定セラレタル乙者カ
其犯罪ノ所爲アリタル事實以前ニ已ニ死亡シタルノ確證アリタル時ハ死シ
タルモノ再ヒ殺害ニ遇フノ理由ナクレハ殺人ノ所爲アリトシテ處罰シタル
ハ裁判ノ誤謬ニ出テシヨトタル敢テ論ヲ俟タス故ニ其死亡ノ事實ヲ證明ス
ル時ハ再審ノ理由アリトシテ此訴ヲ許スモノトス
本項ノ理由ニ付テハ法律ハ人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル場合ヲ
想像スルモノナレハ原判決ノ處斷ハ謀故殺ニ出テタルト毆打殺ニ出テタル
トテ區別セス如何トナレハ其被害者カ生存スルカ若クハ當時生存セサリシ

ト云フコトハ何レノ場合ニ於テモ同一ニ裁判ニ誤謬アルコトヲ證明スルコ
トヲ得レハナリ猶進ンテ過失殺ニアリテハ如何ト云フニ是又再審ノ理由ア
リトスルヲ得ルナリ如何トセレハ過失殺ナルト謀故殺ナルト將タ毆打殺ナ
ルトヲ問ハス其被害者ノ生存ヲ以テ誤判ヲ證明スルコトハ同一ナレハナリ
然レトモ殺サレタリト認メラレタル者犯罪後生存スルノ事實ハ何レノ殺人
罪ノ場合ニ於テモ未遂罪トシテ處斷シタル判決ニ對シテハ再審ノ理由トナ
ラス何トナレハ其判決ハ固ヨリ被害者ヲ死シタリトシテ加害者ニ刑ヲ科シ
タルモノニ非サレハ犯罪後ニ生存スルモ誤判ノ證據トナラサレハナリ之ニ
反シテ犯罪前已ニ死亡シタル確證アルトキハ未遂罪ヲ以テ處斷シタル原判
決ニ對シテモ再審ノ理由トナルヘシ如何ナル殺人罪ニテモ其目的タル被害
者ノ生存スルトキニ非サレハ成立スルコトヲ得ス然ラハ未遂罪トテモ其犯
罪アリトセラレタル當時被害者トセラレタル者生存セザルトキハ成立スル
コトヲ得ヘカラス故ニ其犯罪前ニ死亡シタルノ確證アルトキハ殺人未遂犯
アリトシタル原判決ハ犯罪事實ノ認定ヲ誤リタルコトヲ證明スルコトヲ得

ヘケレハ再審ノ理由アリトス
 然レトモ本項ノ理由ハ單純ナル殺人罪ノ判決ニノミ對スルモノトナスヘカ
 ラヌ例ハ強盜殺人罪ノ如キハ二個ノ所爲相合シテ一罪ヲ成シ殺人ハ其一
 部分タリ若シ此罪ニ因リテ處斷ヲ受ケタル後チ死シタリト認メラレタル者
 生存スルカ又ハ其犯罪以前ニ死亡シタルノ證アルトキハ強盜ノ所爲ニ誤認
 アルノ證ナシト雖モ殺人ノ點ニ付テ誤認ノ證アルヲ以テ再審ノ理由アリト
 ス隨胎罪ニ因リテ婦女ヲ死ニ致シタル所爲アリトシテ處斷ヲ受ケタル者ノ
 如キモ亦同シ死ニ致シタリトセシハ原判決ノ誤認ニ出テタルコトヲ本項ノ
 理由ニ依リテ確證スル以上ハ假令隨胎ノ所爲ニ誤認アリトスルヲ得サルモ
 再審ノ理由アリトセサルヘカラス何トナレハ死ニ致シタルヤ否ニ依リ刑ノ
 適用ヲ異ニスレハナリ

此再審ノ訴ヲ受理スルニ付テハ被害者カ犯罪後ニ生存シタルコト又ハ犯罪
 ノ爲メニ非スシテ死シタルコト若クハ犯罪前死シタルコトノ確證ヲ呈出セ
 サルヘカラス畢竟原判決カ殺人罪ヲ以テ處罰シタルハ被害者ト指サレタル

人カ犯罪ノ行爲ニヨリテ死去シタルヲ以テナリ然ルニ其人カ存在スルカ其
 當時生存セサル以上ハ殺人罪ナルモノアルコトヲ得ヘカラス然レトモ生存
 若クハ犯罪前ノ死去アリトスルニハ必スヤ之カ確證ヲ呈出セサルヘカラス
 其如何ナルモノヲ以テ確證ト爲スカハ法律ノ規定スル所ニ非スシテ再審ノ
 訴ヲ受ケタル裁判所即チ再審ヲ許スヤ否ヲ判決スル上告裁判所ノ判決ニ一
 任スルモノトス例ハ被害者ナリトセラレタル人ハ犯罪事實ノアリタルコ
 リ以前ニ死亡シタルコトヲ自證シタル證人アリトシテ被告ノ親族若クハ姻
 族ヲ證人ト爲シタル場合ノ如キハ其親族若クハ姻族ハ被告人ヲシテ刑罰ヲ
 免カレシムルノ利益ヲ有スルモノナルヲ以テ確證トナスコトヲ得サルナリ
 反之巨籍簿ニ於テ被害者ナリトシタル人ノ死去ハ犯罪以前ノ日附ナリシ時
 ノ如キハ多クハ確證ト爲スコトヲ得ヘシ然レトモ法律ハ只確證ト明記シテ
 其證據ニ制限ヲ置カサルヲ以テ其果シテ確證ナルヤ否ハ要スルニ上告裁判
 所ノ心證出斷ニ一任スルモノナリ

第三、同一ノ事件ニ付キ其犯ニ非スシテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル

トキ(三〇一ノ二號)

再審ヲ設クタル主旨ハ裁判ヲ與ヘタル事實ニ誤謬ヲ免カレサルモノトスルニアリ既ニ犯罪事實ニシテ誤謬ヲ免カレサルモノトスル時ハ人違ヒノ誤謬アリト想像スルコトヲ得ヘシ茲ニ一个ノ犯罪事件アリテ其犯人ハ甲ナルモノトシテ刑ノ言渡ヲ爲シタル後乙ニ對シテ刑事ノ裁判アリテ嘗テ甲カ犯シタルモノトノ判決ヲ受クタル事件ハ乙カ犯シタルモノナリトノ判決ヲ與ヘタルトキハ甲ニ對シテ與ヘタル判決ハ犯罪事實ニ誤謬アリト想像スルコトヲ得サルモ其犯人ニ人違アリシ確證タリ故ニ此場合ハ再審ノ理由アリテ甲ニ對スル判決ハ之ヲ破リ更ニ審判ヲ爲スヘキナリ

此再審ノ原因ニ付キテハ二箇ノ條件ヲ必要トス

第一事件カ同一ナルコト

上ニ述ヘタルカ如ク一箇ノ事件ニシテ二箇ノ判決アリテ一ハ甲者ヲ以テ其犯人ナリトシ一ハ乙者ヲ以テ犯人ナリト爲ス時ハ二箇ノ判決ハ互ニ兩立スルコトヲ得ス孰レカ其人違アリト想像スルコトヲ得ヘシ故ニ再審ノ

原因アリトス若シ其事件カ一箇ノ事件ニ非スシテ異種ノ事件ナル時ハ固ヨリ犯罪人ノ異ナルコトアル可キモノナレハ裁判ノ誤謬ヲ想像スルコトヲ得ス換言スレバ後ノ裁判ハ以テ前ノ裁判ノ誤謬ヲ證明スルコトヲ得サルナリ

第二、共犯ニ非スシテ刑ニ言渡ヲ受クタルモノアルコト

共犯トハ一箇ノ所爲ヲ二人以上ニテ現ニ犯シタルモノヲ云フ故ニ事件カ一箇ナリト雖モ其犯人トシテ所刑ヲ受クルモノ數人アルコトアリ其共犯ノ場合ニ於テハ一人ニ對シテ刑ヲ言渡シル判決カ他ノ人ニ對シテ言渡シタル判決ヲ觀望ナリトスルノ證トナルモノニ非ス依テ再審ノ理由ト爲ルニハ甲者一罪ヲ犯シタリト爲シテ刑ノ言渡ヲ受クタル後乙者モ亦之ト同一事件ニ付テ刑ノ言渡ヲ受ク且共犯ニ非サルコトヲ要ス若シ共犯ナルトキハ甲ト乙トカ共ニ犯シタルモノナルカ故ニ何レノ判決ニ付テモ一モ誤謬ノ確證ト爲スコトヲ得ス

法律ハ共犯ニ非スシテ刑ニ言渡ヲ受クタル者アル時ニ限リテ再審ノ

理由アリト爲ス故ニ從犯トシテ刑ノ言渡ヲ受クタル者アル時ハ之ヲ以テ再審ノ理由ト爲スヨトヲ得ス何トナレハ同一事件ニ於テ正犯ト從犯トハ並ヒ存スルヨトヲ得ルモノナレハナリ甲者ヲ正犯ト爲シテ處罰シ同一事件ニ付テ乙者ヲ從犯トシテ罰シタル判決アリトテ甲者ノ受クタル判決ハ誤判ナリトハ謂フヘカラス

一箇ノ竊盜犯ニ付テ甲乙二人カ別箇ノ判決ヲ以テ處斷ヲ受クタル場合ニ於テ其各判決ニハ此竊盜罪ハ一人ニテ犯シタルモノト爲シテ處罰シタル時ハ再審ノ理由アリ何トナレハ此犯罪ハ一人ニテ犯シタルモノニシテ何レカ一方カ人違アリトスルノ確證アレハナリ又甲乙ハ丙ト一箇ノ罪ニ付キ共犯ナリトシテ處斷ヲ受ク後チ丙ハ同一ノ罪ニ付キ乙丁ト共ニ右ノ罪ヲ犯シタルモノト判決アリタル時ハ甲ニハ再審ノ理由アリトス
甲ハ短銃ヲ以テ人ニ負傷セシメタルノ罪アリトシテ判決ヲ受ケ乙モ亦他ノ判決ヲ以テ同一ノ罪アリトノ處斷ヲ受クルニ當リ其乙ニ對スル判決ハ被害者ノ創傷ハ只一發ノ銃丸ノ負傷ナリトノ判決ヲ爲シタル場合ニ於テ

ハ甲ニハ再審ノ理由アリト云ハサルヲ得ス如何トナレハ一發ノ短銃ヲ二人ニテ發スルヨトヲ得サルヲ以テ甲乙ハ共犯ナリトスルコトヲ得ス已ニ共犯ニ非ストスル以上ハ已ニ乙者ニ對シテ言渡シタル判決ハ則チ共犯ニ非スシテ同一事件ニ付刑ノ言渡ヲ受クタルモノナレハナリ

甲裁判所ハ乙某ニ對シテ刑ノ言渡ヲ爲シ丙裁判所ハ同姓名ナル乙某ニ對シテ刑ノ言渡ヲ爲シ其犯罪ノ性質タルヤ分ツ可カラサルモノニシテ一人ノ所爲ナル時ニ於テハ其被告人ノ氏名ハ同一ナリト雖モ現ニ其人ヲ異ニスルヲ以テ判決ハ兩立スルコトヲ得ス故ニ最初ノ判決ニハ誤謬アリト想像スルヲ得ルヲ以テ再審ノ理由アリトス

本號ニ付テハ同一ノ事件ニ二箇ノ判決アリテ其二箇兩立スヘカラサル場合ヲ想像シタリ而シテ再審ノ理由ヲ以テ攻撃スルコトヲ得ルモノハ何レノ判決ナルヤ將タ二箇ノ判決共ニ再審ノ理由ヲ以テ攻撃スルコトヲ得ルモノナルヤ例ヘハ甲裁判所ハ一ノ竊盜罪ヲ乙一人ノ犯シタル所爲ナリトシ其後丙裁判所ハ丁一人ノ所爲ナリトシテ判斷ヲ爲シタル時ニ此二箇ノ判決ハ兩立

スルコトヲ得サルコトハ勿論ナレトモ苟モ裁判ニ誤謬アリトスル以上ハ乙ノ裁判ニモ丙ノ裁判ニモ誤謬アリトスルヲ得ヘク其裁判ノ判決ヲ以テ誤謬ノ有無ヲ決スルコトヲ得スシテ二个ノ判決共ニ之ヲ破毀シテ再審ヲ爲サシム可キカ如シ然レトモ第三百一條第二號ヲ閱讀スレハ同一事件ニ付キ共犯ニ非スシテ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアルトキトアルヲ以テ一箇ノ判決アリテ其後ノ判決ニテ共犯ニ非サルモノカ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアル場合ヲ云フナリ故ニ再審ヲ爲スコトヲ得ルモノハ第一ノ裁判ヲ受ケタル被告人ノミナリ例ヘハ一月ニ與ヘタル判決ト同一ノ事件ニ甲者ヲ犯人トシ二月ニ同事件ニ付共犯ニ非サル乙者ニ別ニ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ一月ニ判決ヲ受タル甲者ハ自己ノ判決ニ對シテ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ何トナレハ甲者ハ自己ノ受ケタル判決ノ誤謬ヲ證明スヘキ二月ニ下シタル乙者ニ對スル判決アレハナリ之ニ反シテ二月ニ判決ヲ受ケタル乙者ハ未タ自己ノ判決ノ誤謬ヲ證スヘキ判決ヲ有セサレハ再審ヲ爲スコトヲ得ヘカラス要スルニ本項ノ再審ハ判決ノ誤謬ヲ他ノ判決ヲ以テ證明スルトキニ限り之ヲ許

スモノナリ

然レトモ本項ノ原由ニ依リ再審ヲ爲ス裁判所ニ於テ事實ノ審判ヲ爲シ再審ハ其理由ナキモノニシテ原判決ノ如ク被告人ハ依然犯罪人ナリト認メ且他ニ共犯ナシト認ムルコトアル可シ此場合ニ於テハ二个ノ判決兩立スルヲ得ヌ依テ二月ニ判決ヲ受ケタル乙者ヨリ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ何トナレハ新判決ニ依リテ原判決ノ誤謬ヲ證明スルコトヲ得レハナリ此再審ノ上乙者ニ對シ尙キ二月ニ下シタル原判決ト同一ノ判決ヲ下シタル時ハ最早ヤ法律ハ之ヲ救助スルノ途ヲ與ヘス然レトモ兩立スヘカラサル判決ノ兩立ヲ免カレス

第三、犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ(三〇一ノ三號)

犯罪ノ中ニハ性質上犯人其犯罪ノ場所ニアルト否トハ罪ノ成立ニ關係セサルモノアリ彼ノ詐欺取財罪文書偽造罪ノ如キ犯人其場所ニ非サルモ其罪ヲ構成スルコトアリ故ニ犯人其當時犯罪ノ場所ニ非サリシトテ無罪ノ原由ト

ハナラス從テ原裁判ノ誤謬ヲ證明スル再審ノ理由トナラス然レトモ殺人罪
 放火罪毆打創傷罪等ノ如キ罪ニ至リテハ定マリタル場所ニ於テ犯スモノナ
 レハ犯人現ニ其犯罪ノ場所ニアラザリシコトハ犯罪ノ成立ヲ妨ケ無罪ノ原
 因タリ故ニ被告人ヨリ犯罪ノ當時他ノ場所ニアリシコトヲ證明スル時ハ當
 然無罪ノ結果ヲ得ルニ至ル今被告人ハ辯論ノ時ニ當リテ當時其場所ニ不在
 ナリシコトヲ主張セザリシカ又之ヲ主張シタルモ其確證ヲ舉ケザリシ爲メ
 ニ遂ニ有罪ノ判決ヲ得後日ニ至リ其證據ヲ發見シタル時ハ之ヲ以テ再審ノ
 理由ト爲スコトヲ得如何トナレハ其當時他ニアリシコトヲ證明スル以上ハ
 原判決ノ誤謬ヲ推測スヘキ充分ナル價值アルヲ以テナリ
 本項ノ犯罪ノ場所ニ非ザリシコトヲ證明スルニハ如何ナルモノヲ以テスル
 コトヲ得ルヤ法律ハ之ヲ證スルニ凡テノ證據ヲ以テスルヲ許サス公正證書
 ノミニ限レリ而シテ其公正證書ハ犯罪事件以前ニ作製シタルモノナルコト
 ヲ要ス蓋シ諸般ノ證據就中證人ヲ許ストキハ甚タ危險ニシテ偽證ヲ爲スノ
 恐アルヲ以テ法律中ニ於テ最モ證據力アル公正證書ニ限レルナリ又公正證

書ハ之ヲ作爲スルハ官吏ニ相違ナキモ或ハ被告ヨリ間接ニ之ヲ作ラシムル
 ノ恐アリテ犯罪後ニ作リタルモノハ充分ノ證據力ヲ有セシムル能ハス故ニ
 犯罪以前ニ作製シタル公正證書ナルヲ要ス實際再審ノ理由アリトシテ採用
 セラレタル公正證書ハ監獄署ノ帳簿等ヲ以テ許多ナリトス原判決カ犯罪ア
 リタリト認メタル年月日ニハ被告ハ他ノ犯罪ニヨリテ監獄署内ニアリテ其
 犯罪ノ場所ハ監獄署内ニアラザリシヲ其監獄署官吏ノ作リタル帳簿ヲ以テ
 證明スル時ハ再審ノ理由アリトス
 公正證書ヲ以テ當時其場所ニアラサルコトヲ證明シタル時ハ再審ノ理由ア
 リト爲ス而シテ其場所タルヤ刑ヲ受ケタル者ヲシテ犯罪人ニ非スト爲スニ
 ハ犯罪ノ場所ヨリ遠隔ノ場所ニアルコトヲ必要トス現ニ其犯罪ノアリタル
 場所ニ在ラザリシト雖モ其場所ヨリシテ犯罪ヲ爲スコトヲ得可キ距離ニア
 ルトキハ犯罪ノ必スシモ其人ニ非サルコトヲ證明スルヲ得ス而シテ法文ニ
 モ當時其場所ニ在ラサル時トアリ故ニ其場所ト時トハ密着ノ關係ヲ有スル
 モノナリ例ヘハ犯罪ノ場所ヨリ遠隔ノ地ニアルコトヲ證明シタル時ト雖モ

其場所ト又犯罪ノ場所トノ間ハ雖少ノ時間ヲ以テ往復スルコトヲ得ル場合ニ於テハ如何ニ公正證書ヲ以テ犯罪ノ場所以外ニ在リシコトヲ證明スルモ全ク犯人ニ非スト推定スルコトヲ得サルモノトス横濱ニ於テ午前一時ニ犯罪アリテ其被告人トナリ刑ニ處セラレタルモノカ其日ノ午後十一時又ハ十二時ノ間ニ於テ東京ノ或ル官廳ニ出頭シタルコトヲ證明スルト雖モ以テ其當時犯罪ノ場所ニ非サルノ證明ト爲スコトヲ得ス故ニ再審ノ理由タラス要スルニ其理由トナルヤ否ヲ判定スルハ裁判所ノ判定權ニ屬スルモノニシテ再審ノ訴ヲ受理スルノ權アル上告裁判所ノ判定ニ一任スル所ノモノナリ又其犯罪ノ時ハ精確ニ知ルコト能ハサル時ト雖モ以テ罪ノ成立ヲ認ムルコトヲ妨クサルナリ例ヘハ東京ニ於テ二月一日ニ一ノ斬殺セラレタル死体ヲ發見シタルトキハ其犯罪ハ發見ノ日ニ於テ行フタルコトヲ認定セスト雖モ一月廿九日ニハ其被害人生存スルヲ見タル人アリ又醫師ノ死体鑑定ニ依レハ殺害セラレタルヨリ二三日ヲ經過シタルモノナリトスル時ハ其殺人犯ハ一月廿九日ヨリ二月一日ノ間ニアリタルモノトシテ以テ處斷スルコトヲ

得ヘシ其處斷ニヨリテ刑ヲ受クタル被告人カ一月廿九日ヨリ二月二日迄ニ實際往復スルコトヲ得サル場合ニアリシコトヲ證明スルニ於テハ再審ノ理由アリトス若シ名古屋或ハ大阪等ノ如キ汽車ノ便ニヨリテ迅速ニ往復スルコトヲ得ル場所ナルトキハ以テ再審ノ理由アリトセス以上見ル如ク本項ノ再審ノ原因ハ凡テノ刑ノ言渡ニ對シテ適用ヲ見ルコトヲ得ス定マリタル時ト場處トニ於テ犯シタル罪ニ對シ言渡シタル判決ニ付テノミ之ヲ理由トスルヲ得テ先キニ述ヘタル如ク詐欺取財罪文書偽造罪ノ如キハ其場所ニ關係ナキ故ニ此原因ハ適用セラル、モノニ非ス如何トナレハ如何ナル遠隔ノ地ニアルモ之ヲ犯スコトヲ得ルモノナレハナリ然ルニ法律ハ犯罪ノ性質ニヨリテ區別ヲ爲サス然レトモ元來此再審ノ原因ハ原判決ノ誤謬ヲ公正證書ヲ以テ證明シタル場合ナリ然ルニ當時其場所ニ非サルモ犯スコトヲ得ル罪ナル時ハ如何ニ公正證書ヲ以テ不在ヲ證スルモ原判決ノ誤謬ヲ證明スルコト能ハス故ニ理論上此等ノ犯罪ニハ之ヲ許サ、ルナリ例ヘハ誣告罪ノ如キ原判決ニ於テハ何年何月何日ニ何某ノ罪ヲ誣告シタルモ

ノト認メテ刑ヲ言渡シタルニ其認メタル年月日ニハ其被告人ハ証告ヲ受ケタル官廳ニ行キタルコトナク違隔ナル土地ニアリシコトヲ證明シタル時ニテモ決シテ之ヲ以テ罪ナクシテ原判決カ罪ナキモノニ向ツテ刑ヲ言渡シタルモノナルコトヲ證スルコト能ハス何トナレハ被告人ハ自ラ官廳ニ行カサルモ種々ノ方法ヲ以テ訴狀ヲ官廳ニ送達スルコトヲ得ルモノナレハナリ此再審ノ原因トナリ得ルハ犯罪ノ性質上定マリタル時及ヒ場處アルモノニ限ル故ニ治罪法草案ニハ定マリタル時及ヒ場處トニ於テ犯シタル罪ニ限ルト明記セリ治罪法及ヒ刑事訴訟法ニ於テハ明文ナシト雖モ精神ハ一ナリ

第四、被告人ヲ陷害シタル罪ニヨリ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアリタルトキ(三〇一ノ四號)

甲者アリ或ル犯罪ニ因リテ刑ニ處セラレ而シテ後チ乙者ハ甲者ヲ陷害シタルノ罪アリトシテ刑ニ處セラレタルトキハ甲者ハ無罪ノモノニシテ其刑ヲ言渡シタル裁判ニ誤認アリトセサルヘカラス何トナレハ陷害ト云ヘハ則チ甲者ノ無罪ナリシコト及ヒ乙者ノ所爲ニヨリ裁判所ヲシテ錯誤ニ陥ラシメ

タルコトヲ證明スレハナリ故ニ其乙者ニ對スル裁判ハ以テ甲者ニ對スル裁判ノ誤判ナルコトヲ明ニスルノ確證ニシテ之ヲ以テ再審ヲ請求スルコトヲ得ヘキナリ然レトモ乙者ニ對スル判決ヲ以テ再審ヲ爲スニハ其判決ノ確定シタル後ナルコトヲ要ス未タ確定セサル間ニ在リテハ或ハ上訴ニ依リテ消滅シ乙者カ甲者ヲ陷害シタルノ事實ハ嘗テナキモノニ歸シ甲者ニ對スル判決ノ誤認ヲ證明スルノ力ヲ有セサルヤモ知ルヘカラス故ニ他ノ判決ノ誤認ヲ證明シ再審ノ原因ト爲スコトヲ得ヘキ判決ハ確定判決ナルコトヲ要ス獨リ本項ノ場合ノミナナラス第二號ノ同一事件ニ付キ共犯ニ非スシテ刑ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アルトキニ於テモ亦同一ナリ

甲者アリ乙者ニ恨ミアルヲ以テ乙者ハ或ル罪ヲ犯シタリト告訴シ其告訴ニ因リテ乙者ニ對シ刑事ノ訴訟起リ途ニ裁判所ハ乙者ヲ有罪ナリト認メ刑ヲ宣告シタリ然ルニ其後ニ至リ甲者カ不實ノ告訴ヲ爲シタル事發露シ甲者ハ誣告ノ罪アリトシテ處罰セラレタリ刑法第三百五十七條ニ依レハ誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタルトキハ誣告者ヲ其刑ニ反坐スルモノトス其誣告

ヲ爲シタル甲者ハ刑事訴訟法第三百一條第四ノ所謂被告人ヲ陷害シタルモノナルカ抑、告訴ハ檢事ヲシテ起訴セシムルノ力アリト雖モ其起訴ヲ受クタル裁判所ヲ拘束スルモノニ非ス故ニ裁判所ハ告訴アリト雖モ有罪ト認ムヘキ證據ナキトキハ無罪ヲ言渡スヘシ其無罪ノ場合ト雖モ誣告罪ハ成立スヘシ然ラハ誣告ノ結果有罪ノ判決アリシ時ト雖モ誣告ハ直接ニ被告人ヲ罪ニ陥ル、ニ非スシテ有罪ト認ムルニ至ラシメタルモノハ他ノ證據ナリト云フヘシ故ニ乙ナル被告人誣告ノ爲メ刑ノ言渡ヲ受ク誣告タルコト發覺シテ甲ニ刑ヲ言渡シタリト雖モ之ヲ以テ直ニ乙者ノ無罪ナル確證トハナスヲ得ス二個ノ裁判併立スルコトヲ得ヘシ然レトモ誣告者ハ其意思ヲ貫徹セシメシカ爲メ虛偽ノ書類其他ノ證據物件ヲ作爲シテ告訴ニ附添シ其書類若クハ物件ハ遂ニ裁判所ノ採用スル所トナリテ被告人刑ニ處セラレタルトキハ誣告ハ直接ニ被告人ヲ罪ニ陥レタルモノト謂フヲ得ヘシ此場合ニ於テ誣告ノコト發覺シ誣告者刑ニ處セラレタルトキハ其刑ヲ言渡シタル判決ハ以テ誣告セラレタル者ノ無罪ヲ證明スルコトヲ得ヘク二個ノ判決併立スルコトヲ得

サルヲ以テ再審ノ原由トナルヘシ故ニ誣告ニ因リ被告人刑ニ處セラレタル後テ誣告罪ノ處斷アリシトキハ常ニ再審ノ原由アリトスルヲ得ス誣告ニ因リ且誣告者ノ作成シタル虛偽ノ證據ニ因リテ被告人刑ニ處セラレタル後テ誣告者刑ノ言渡ヲ受クタルトキニ再審ノ原由アルモノトス
 被告人ヲ陷害スル爲メ證人トシテ虛偽ノ證言ヲ爲シ(刑法二二〇)又ハ鑑定人若クハ通事トシテ詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ(同法二二四)ハ其證人鑑定人又ハ通事ハ偽證者トシテ處罰セラル、モノナリ然レトモ其偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル場合ト刑ニ處セラレサル場合アリ偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタルトキハ則チ裁判所ニ於テ其偽證ヲ以テ被告人ノ有罪ナル證憑トナシタル場合ナリ裁判所ハ其偽證ノミヲ證據トシタルニ非ス他ノ證據ヲモ採用シタルナルヘシト雖モ既ニ偽證ヲ有罪ノ證據トナシタル以上ハ他ノ證據ト偽證トノ間ニ輕重ヲ置ク能ハス偽證ハ直接ニ被告人ヲ罪ニ陥レタルモノナリトス故ニ其偽證タルコトノ判決ニ依リテ明白スルトキハ其判決ト對ニ被告人ノ受クタル判決トハ兩立スルコトヲ得サルヲ以テ再審ノ原由ア

リトス之ニ反シ証人鑑定人又ハ通事偽證ヲ爲シ其罪ニヨリ刑ニ處セラル、ト雖モ原判決ハ其偽證ヲ採用セズ從テ被告人刑ニ處セラレサル場合ニ於テハ再審ノ原因アリト云フヲ得ス何トナレハ其偽證ハ毫モ原判決ニ影響ヲ及ホサズ偽證ノ爲メニ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノナクハナリ再審ノ理由アリトスルニハ本條ニ明記スル如ク被告人ヲ陷害シタル罪ニヨリ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アルヲ要スルモノナレハ偽證者カ其犯罪發覺シ爲メニ反座ノ刑ニ處セラレタル場合ナラサルヘカラス

刑法第二百二十五條ニ賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シトアリ故ニ其囑託ヲ受ケ偽證ヲ爲シ其結果被告人ヲ罪ニ陷レ後テ偽證者刑ヲ受ケタルトキハ再審ノ理由トナルコト前述ノ如シト雖モ若シ偽證ヲ爲シタル者其罪發覺前ニ死亡シ囑託者ノミ刑ニ處セラレタル時ハ再審ノ原因アルモノナルヤ偽證ノコト發覺シ囑託者カ刑法第二百二十條ニ依リ處刑ヲ受ケタルトキハ被告人ハ偽證ノ爲メ罪ニ陷セラレタルコト明白ナルヲ以テ再審ノ理由アリトス若シ偽證

ヲ囑託シタルマテニシテ受託者偽證ヲ爲サズ或ハ偽證ヲ爲シタルモ裁判所ニ於テ之ヲ採用セザリシトキハ囑託者ノ處刑ハ再審ノ理由トナラス何トナレハ偽證ノ爲メ陷害セラレタルモノナクハナリ

被告人ニ對シテ恨ミアル者陷害ノ意ヲ以テ判事ニ賄賂ヲ爲シ判事ハ其賄賂ヲ收受シテ故ラニ被告人ヲ罪ニ陷レタル時ハ刑法第二百八十六條ニ依リテ處罰セラル判事被告人ヲ陷害シタルトキハ正當ナル有罪ノ證ナクシテ處罰シタル場合ナルコト明ナリ然ラハ其陷害ノ事實ヲ認メ判事ニ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其判決ト陷害セラレタル人ノ受タル判決トハ併立スルコトヲ得ズ無罪ノ確證アルヲ以テ再審ノ理由ト爲スヲ得ヘシ

官文書偽造罪ニ依リ被告人不實ノ罪ニ陷リタル時モ亦再審ノ原因トナルモノナリ例ヘハ裁判所ノ官吏カ判決ノ證據トナル可キ調書其他ノ書類ヲ偽造シ其目的被告人ヲ陷害スル爲メナル時ハ官文書偽造罪トシテ處斷セラルヘク恰モ偽證ト同一ノ權衡ニ出ツルト雖モ直接被告人ヲ陷害シタルニ非サルヲ以テ本號ヲ適用シテ再審ノ理由ト爲スコトヲ得ス第五ノ原因アリトシテ

リトス之ニ反シ證人鑑定人又ハ通事偽證ヲ爲シ其罪ニヨリ刑ニ處セラル、
ト雖モ原判決ハ其偽證ヲ採用セス從テ被告人刑ニ處セラレサル場合ニ於テ
ハ再審ノ原因アリト云フヲ得ス何トナレハ其偽證ハ毫モ原判決ニ影響ヲ及
ホサス偽證ノ爲メニ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノナクハナリ再審ノ理由アリ
トスルニハ本條ニ明記スル如ク被告人ヲ陷害シタル罪ニヨリ刑ノ言渡ヲ受
ケタル者アルヲ要スルモノナレハ偽證者カ其犯罪發覺シ爲メニ反座ノ刑ニ
處セラレタル場合ナラサルヘカラス

刑法第二百二十五條ニ賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ
鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シトアリ故ニ其囑託ヲ受ケ偽
證ヲ爲シ其結果被告人ヲ罪ニ陷レ後テ偽證者刑ヲ受ケタルトキハ再審ノ理
由トナルコト前述ノ如シト雖モ若シ偽證ヲ爲シタル者其罪發覺前ニ死亡シ
囑託者ノミ刑ニ處セラレタル時ハ再審ノ原因アルモノナルヤ偽證ノコト發
覺シ囑託者カ刑法第二百二十條ニ依リ處刑ヲ受ケタルトキハ被告人ハ偽證
ノ爲メ罪ニ陷レラレタルコト明白ナルヲ以テ再審ノ理由アリトス若シ偽證

ヲ囑託シタルマテニシテ受託者偽證ヲ爲サス或ハ偽證ヲ爲シタルモ裁判所
ニ於テ之ヲ採用セザリシトキハ囑託者ノ處刑ハ再審ノ理由トナラヌ何トナ
レハ偽證ノ爲メ陷害セラレタルモノナクハナリ

被告人ニ對シテ恨ミアル者陷害ノ意ヲ以テ判事ニ賄賂ヲ爲シ判事ハ其賄賂
ヲ收受シテ故ヲニ被告人ヲ罪ニ陷レタル時ハ刑法第二百八十六條ニ依リテ
處罰セラル判事被告人ヲ陷害シタルトキハ正當ナル有罪ノ證ナクシテ處罰
シタル場合ナルコト明ナリ然ラバ其陷害ノ事實ヲ認メ判事ニ刑ノ言渡ヲ爲
シタル時ハ其判決ト陷害セラレタル人ノ受タル判決トハ併立スルコトヲ得
ス無罪ノ確證アルヲ以テ再審ノ理由ト爲スヲ得ヘシ

官文書偽造罪ニ依リ被告人不實ノ罪ニ陷リタル時モ亦再審ノ原因トナルモ
ノナリ例ヘハ裁判所ノ官吏カ判決ノ證據トナル可キ調書其他ノ書類ヲ偽造
シ其目的被告人ヲ陷害スル爲メナル時ハ官文書偽造罪トシテ處斷セラルヘ
ク恰モ偽證ト同一ノ權衡ニ出ツルト雖モ直接被告人ヲ陷害シタルニ非サル
ヲ以テ本號ヲ適用シテ再審ノ理由ト爲スコトヲ得ス第五ノ原因アリトシテ

再審ヲ爲スコトヲ得ヘシ
然レトモ刑法第二百八十七條ニ明記セル如ク裁判官檢察官吏收附ノ所
爲ナシト雖モ被告人ヲ陷害シ其罪ニ對スル判決アリタルトキハ二個ノ判決
併立スルコトヲ得ス被告人ノ無罪明白ナルヲ以テ再審ノ理由アリトス

第五、公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ(三
〇一ノ五號)

再審ハ罪ノ有無刑ノ輕重ニ關シ原判決ニ誤謬アル場合ニ爲スコトヲ得可キ
モノナリ今判決ノ基本タル訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アリトセシカ其判決ノ
認メタル罪若クハ言渡タル刑ノ輕重ニ付キ誤謬アリトスルヲ得可キヲ以テ
再審ノ原因アリト爲ヌ而シテ其誤謬ヲ證明スルニハ公正證書ヲ以テスルコ
トヲ必要ナリトス訴訟記録ハ凡テ公正證書ナリト云フニアラサルモ已ニ原
裁判所ノ採リテ判決ノ材料ト爲シタルモノナレハ多少公正ノ資格ヲ有スル
モノナルヲ以テ之ニ對シ偽造又ハ錯誤ヲ證明スルニハ同等以上ノ證據力ヲ
有スルモノ即チ公正證書ヲ以テセサルヘカラス

先ツ訴訟記録ニ偽造アル場合ヲ講究セシニ前段ニ講述シタル調書其他訴訟
記録ヲ裁判所官吏ニ於テ偽造シタルコトアリテ官文書偽造罪ニ處セラレタ
ル時ハ其偽造ナルコトハ偽造罪ノ刑ヲ言渡シタル裁判ヲ以テ證明スルコト
ヲ得ルノミナラス他ノ公正證書ヲ以テ證明スルコトヲ得又其他ノ公私文書
ニシテ原判決ノ材料ニ供セラレ後日偽造文書ナルコト發覺シタル時ハ偽造
罪ヲ處斷シタル判決書其他ノ公正證書ヲ以テ之ヲ證明スルコトヲ得戸籍簿
ノ如キハ訴訟ノ爲メニ作りタル書類ニ非サルモ其謄本ヲ以テ訴訟記録ト爲
スコトアリ若シ其戸籍簿又ハ謄本カ偽造ニ係ルモノナル時ハ之ヲ證明シテ
以テ再審ノ原因ト爲スコトヲ得

訴訟記録ニ錯誤アル場合ヲ見シニ元來此錯誤ハ惡意ニ出テタルモノニ非サ
レハ其之ヲ證明スヘキ裁判書アル場合ハ極メテ稀ナラン固ヨリ本號ノ場合
ハ總テ公正證書ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘケレハ判決書ノ有無ハ問フヲ要
セズ例ヘハ裁判ノ當時村役場ニ付テ被告ノ年齢ヲ取調ヘタルニ其戸籍簿ニ
誤謬アリタル爲メニ被告人ヲ丁年者ナリトシ裁判ハ之ニ依リテ言渡シタリ

然ルニ其後ニ至リ正當ノ手續ヲ以テ戸籍簿ヲ訂正シ從テ被告ハ犯罪ノ當時
丁年者ニ非サルコト、ナリタルトキハ村長其他公吏ノ資格アルモノヨリ醫
戸籍ノ誤謬ヲ證明スルニ於テハ記録ノ誤謬明白ナルヲ以テ再審ノ原因トナ
スヲ得

此訴訟記録ト稱スルハ專ラ原判決ノ基本トナリタル記録ヲ指稱スルモノナ
リト雖モ原判決書モ之ニ包含セスト斷言スルヲ得ス判決書其モノ、錯誤ハ
則チ原判決ノ錯誤ニシテ再審ノ原由ハ之ヲ證明スルモノナレハ其證明ノ材
料ハ判決以外ニ非サルヘカラス判決自体ノ錯誤ハ判決書ノ證明シ得ル所ニ
非ス但シ錯誤ノ場合ニ於テモ他ノ判決書ニシテ此判決ノ材料トナリタルモ
ノハ本號ノ所謂訴訟記録ト云フヲ得ヘシ何トナレハ其材料トナリタル判決
ノ錯誤ヲ以テ此判決ノ誤謬ヲ證明スルコトヲ得レハナリ
然レトモ偽造ノ場合ニ於テハ判決ヲ包含セストノ論定ヲ下スコトヲ得サル
場合アリ例ヘハ判決書カ裁判所吏員ノ偽造ニ係ルトキノ如キハ其偽造ヲ原
由トシテ再審ヲ許サルヘカラス否ラサレハ其誤判ハ之ヲ更正スルノ途ナ

カルヘシ或ハ云フ此場合ハ第三百一條第四ノ被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ
刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキニ適合シ其原由ヲ以テ再審ヲ爲スコト
ヲ得ヘシト判事檢察事若シ此偽造ヲ爲シタルトキハ或ハ論者ノ説ノ如ク刑法
第二百八十七條ノ所謂被告人ヲ陷害シタルモノトシテ第四ノ原由ヲ以テ再
審ノ訴ヲ爲スヲ得ヘキモ若シ裁判所書記ニ於テ判決書ヲ偽造シタルトキハ
右刑法ノ法條ヲ適用スルヲ得ス何トナレハ其罪ハ官文書偽造ニシテ人ヲ陷
害シタルノ罪ニ非サレハナリ故ニ第四ノ原由ヲ以テ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ
得ス法文上ヨリ斯ノ如クナルノミナラス第三百一條ノ第四號ト其第五號ヲ
比較スルニ第四號ノ原由ハ刑ノ言渡ヲ以テ唯一ノ證明トナシ第五號ハ訴訟
記録ノ偽造ヲ證明スルニ其證據ハ公正證書タル以上ハ如何ナル證書ヲ以テ
スルモ再審ノ原由アリトス例ヘハ戸籍ノ謄本ヲ偽造シテ村役場ヨリ裁判所
ニ送付シ裁判所ハ之ヲ採リテ判決ノ基本トナシタルトキハ種類ノ如何ヲ問
ハス苟モ公正證書ニシテ偽造タルコトヲ證明スルモノアレハ以テ再審ノ原
由アリトス最モ重大ナル判決書ノ偽造ニ至リテハ明確ナル公正證書アルモ

再審ヲ許サズ唯一ニ偽造者ヲ處罰シタル判決書アルトキニ限ルトセハ其間
 不權衡モ亦甚シ若シ偽造者處罰ヲ受クル以前ニ死亡セシカ途ニ再審ヲ求ム
 ルヲ得ズ被告ハ其冤ヲ雪クノ時ナカルヘシ豈是レ法律ノ精神ナランヤ判
 決ノ基本トナリタル記録ニ偽造アレハ再審ヲ爲シテ公明ノ判決ヲ爲シ以テ
 被告人ニ冤ヲカラシム況ヤ其判決書自体カ偽造ナルニ於テヤ必ヤ再審ヲ
 許サ、ルヘカラス故ニ第三百一條第五ノ訴訟記録トアルハ錯誤ヲ證明スル
 場合ニ於テハ判決書ヲ包含セスト雖モ偽造ヲ以テ原由トスル場合ニ於テハ
 之ヲ包含スルモノトス

公判始末書ハ訴訟記録ノ一ナリト雖モ第三百一條第五ノ訴訟記録中ニハ包
 合セス何トナレハ公判始末書ハ公判廷ノ形狀ヲ寫シ出スニ止マリ其錯誤ハ
 以テ判決ニ影響ヲ及ホサ、レハナリ只始末書ト判決書ト齟齬ヲ來スコトア
 ルヘシ其齟齬ヲ以テ再審ノ理由トナスコトヲ得ス

第六、判決ノ憑據ト爲リタル民事上ノ判決他ノ確定ト爲リタル判決ヲ以テ廢
 棄若クハ破毀セラレタルトキ(三〇一ノ六號)

家資分散又ハ破産ノ場合ニ於テ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ負債ヲ増加シ
 タル場合ニ於テ之ヲ一ノ犯罪ナリトスルニハ家資分散又ハ破産ノ事實ヲ以
 テ此犯罪構成ノ要素トス故ニ其分散又ハ破産ヲ言渡シタル民事又ハ商事ノ
 判決ヲ以テ憑據ト爲ス又偽造證書ノ行使ノ如キモ裁判所之ヲ行使シタリト
 ノ證據トシテ民事上ノ判決ヲ採用スルコトアリ然ルニ是等民事上ノ判決カ
 後日他ノ判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレ依テ消滅ニ歸シタル時ハ其等テ
 刑事裁判所カ依リテ以テ犯罪ノ材料ト爲シタル證據ハ遂ニ根基ヲ失シテ空
 無ニ歸シ從テ判決モ亦誤謬ナリト推定スルコトヲ得可シ故ニ其廢棄若クハ
 破毀ヲ言渡シタル判決ヲ以テ再審ノ訴ヲ爲スヲ得

然レトモ其證據ト爲リタル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタル判決ハ確定シタル
 コトヲ要ス何トナレハ其未タ確定セサル内ハ廢棄若クハ破毀シタル判決未
 タ確定ナラス却テ其證據トナリタル判決カ正當ナルコトアルヤモ知ルヘカ
 ラサレハナリ

以上六箇ノ原由ノ外法律ハ再審ノ訴ヲ許サズ事實ニ於テハ或ハ右六箇ノ場合

ト殆ト同一ニ原判決ノ誤謬ヲ證明スルノ場合アラシモ誤判ヲ證明スル材料ハ法律自ラ之ヲ断定シ且之ヲ明言シ執法者ノ事實ニヨリテ證明シ得タリトスルヲ許サス是レ六箇ノ材料ニ限レル所以ナリ

第三百一條ニ掲ケタル六箇ノ場合ハ刑ノ言渡ニ對スル再審ノ原因ナリ故ニ私訴ノミニ誤判アリトシテ以上ノ原因ノ一ヲ掲擧スルモ以テ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヌ而シテ刑ノ言渡ニ付テ再審ノ原因ヲ認メタル時ハ私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ヲ破毀スルト同時ニ破毀スルヨドアルモ是レ公訴判決ヲ破毀スルノ結果タルニ過キス決シテ私訴ノミ獨立シテ再審ヲ許スモノニ非ス故ニ私訴判決ノミニ對スル時ハ民事訴訟法ニ從テ民事裁判所ニ再審ノ訴ヲ爲スヘキモノナリ

第三章 再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ル者

第三百二條ニヨレハ再審ノ訴ハ左ノ數個ノ人ヨリ爲スコトヲ得

第一、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事

檢事ハ獨リ公益ノ爲メニ刑ノ適用ヲ求ムルモノニ非スシテ被告人ノ利益ヲモ保護ス故ニ今裁判カ其當ヲ失ヒ冤罪ノ者アル時ハ檢事ハ法律ニ從テ再審ヲ請求スルノ實務ヲ負フモノナリ

第二、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事

刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ヲシテ再審ヲ爲スコトヲ許スト雖モ法律ハ獨立ヲ以テ被告人ノ利益ヲ保護スルニ充分ナリトセス其檢事ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事ニモ亦再審ノ訴ヲ爲スノ權利ヲ與ヘタリ

第三、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル上告裁判所ノ檢事但シ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲スヘシ

上告裁判所ノ檢事ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事及ヒ其裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事ヲモ制度上管轄スルモノナルカ故ニ此權利ヲ有ス而シテ此檢事ハ司法大臣ノ命又ハ職權ヲ以テ再審ノ訴ヲ爲スモノナリ司法大臣ハ常ニ司法行政ノ全体ニ付テ管轄スルモノナルヲ以テ諸般ノ報告ヲ以テ再審ノ理由ヲ發見スルコトアルヘシ然レトモ自ラ再審ノ訴ヲ爲スノ權ヲ有

スルモノニ非サレハ上告裁判所ノ檢事ニ命シテ再審ノ訴ヲ爲サシム但シ司法大臣ノ命ナシト雖モ上告裁判所ノ檢事ハ自己ノ職權ヲ以テモ再審ヲ爲スコトヲ得

第四、刑ノ言渡ヲ受ケタル者

再審ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲メニ許スモノナレハ其本人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得ルハ當然ナリトス上訴通則ヲ見ルニ上訴ハ獨リ被告人ノミナラス辯護人又ハ法律上ノ代理人ヨリモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲シタリ然ルニ再審ハ上訴ニ非サルヲ以テ上訴通則ノ規定ヲ適用スルヲ得ス而シテ法律ハ再審ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ニ付テ辯護人又ハ法律上代理人ヲ明記セズ被告事件カ第一審ヨリ第三審ニアル間ハ辯護人ノ資格自ラ繼續スルモ既ニ刑ノ確定シタル以上ハ最早辯護人ナルモノアルコトナシ故ニ辯護人ヨリ再審ノ訴ヲ爲スコト得サルハ其理由アリ然レトモ法律上ノ代理人ニ至リテハ常に存在スルモノニシテ被告人ノ身ニ關シ其財産ニ付キ利益ヲ保護スルノ責任アル者ナレハ再審ノ訴ヲ許サルノ理由ナシ然レトモ法律ニ明記

ナキ以上ハ執法者ノ權ニ之ヲ許スコトヲ得ルモノニ非ス

第五、刑ノ言渡ヲ受ケタルモノノ死去シタルトキハ其親族

刑ノ言渡ヲ受ケタル者已ニ死去シタル時ハ再審ヲ爲スモノノ實益ナキカ如シト雖モ其人ノ名譽上ニ於テ之ヲ回復スルノ利益ヲ有スルノミナラス其親屬ハ一家ノ汚名ヲ廢除スルノ利益ヲ有ス故ニ法律ハ其親族ニ許スニ再審ヲ指稱スルコトハ刑事訴訟法第二十四條ノ規定ニヨリテ明カナリ
再審ハ先キニ見タル如ク判決確定ノ上ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ヌ故ニ欠席判決ヲ受ケ其確定セサル間ハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヌ然レトモ被告人既ニ死去シタル時ハ其判決ハ確定スルヲ以テ親屬ハ其名譽ヲ保護セシカ爲メ再審ヲ爲スコトヲ得ヘシ治罪法草案ニハ特ニ之ヲ許シ治罪法及ヒ刑事訴訟法ハ其明記ナキモ親族ニ再審ヲ爲シ汚名ヲ滌除スルコトヲ許ス以上ハ對席ナルト缺席ナルトヲ區別セス再審ヲ爲スコトヲ得ルモノトセサルヘカラス

第四章 再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ時期

再審ノ訴ハ判決確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス而シテ判決ノ確定後ハ此訴ヲ爲スニ付テハ期間ノ規定アルコトナシ蓋シ再審ハ確定判決ヲ動かス所ノ訴ナルカ故ニ其確定シタル裁判宣告アリテヨリ一箇月後ニアルト一箇年又ハ十箇年ノ後ニアルトニヨリテ其間ニ於テ相違ヲ生スルモノニ非ス彼ノ普通上訴ノ如キハ裁判ノ確定ヲ妨クルカ故ニ一定ノ期間ヲ規定シアルモ再審ノ訴ハ一ノ確定裁判ニ對スルモノナルカ故ニ確定ヲ遅延スルノ結果ヲ生スルモノニ非ス是レ法律カ再審ノ訴ノ期間ヲ規定セサル所以ナリ第三百三條ニ曰ク再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラヌ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ト本條ハ再審ノ訴ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ルノ原則ヲ示シタリ而シテ再審ハ刑ノ存在スルトキノミナラス刑ノ消滅後ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ故ニ刑ノ期滿免除ヲ經タルトキ又ハ特赦ニ因リ刑ノ執行ヲ免レタル時ト雖モ亦再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得蓋シ期滿免除又ハ特赦ニヨリテ刑ノ執行ヲ免カル

レモ其旨渡ハ消滅スルモノニ非ス故ニ再審ニ依リ不名譽ノミナラス旨渡ヨリ生スル結果ヲ排除スルノ利益ヲ有スルモノナリ大赦モ亦刑ノ消滅ヲ來スモノナリ故ニ第三百三條ニヨレハ大赦ヲ受ケタルモノモ之ヲ爲スコトヲ得ルカ如キモ然ラヌ如何トナレハ大赦ヲ受ケタル者カ再審ノ訴ヲ以テ攻撃セント欲スル確定判決ハ已ニ法律ニヨリテ消滅シ判決ハ最初ヨリ無キモノトナリテ被告人ハ青天白日ノ人トナリ再審ヲ爲スノ利益ヲ有セサレハナリ特赦ニヨリテ刑ヲ免セサレ復權ヲ得タルモノト雖モ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルヤ此復權ヲ得タル者ニアリテハ特赦ニヨリテ刑ハ消滅シ且其刑ノ結果トシテ發生シタル失權ハ之ヲ回復シタルモノナレハ最早刑ヲ旨渡シタル判決ヲ攻撃スルノ利益ハ一モ存在セサルモノ、如シ然レトモ後日罪ヲ犯スニ當リ其前判決ノ存在スルトキハ再犯ヲ以テ論セラル、カ故ニ復權ノ後ト雖モ再審ノ訴ヲ爲シテ前判決ヲ消滅セシムルノ利益アリ故ニ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得再審ハ確定判決ニ對シテ爲スモノナリ然ルニ確定判決ハ常ニ執行ヲ爲スコト

ヲ得ルモノナルヲ以テ再審ノ訴ハ其執行ヲ停止スルノ效力ナキモノナル乎法律ニ於テハ何等ノ規定ナシ故ニ其效力ナキモノト云フ可シ然レトモ死刑ノ宣告ト雖モ再審ノ訴アルニ拘ラス執行ヲ爲シ得ルモノトセハ多クハ此判決ニ對スル再審ノ訴ニシテ理由アルトキハ只名ノミニシテ實益ナカルヘシ被告人ノ目的ハ確定判決ヲ攻撃シテ之ヲ翻シ以テ自己ノ生命ヲ全ウセントスルニ在リ然ルニ其判決ヲ執行シ得ルモノトスルトキハ被告人已ニ死去シタル後ニ原判決ノ不當ナルヲ表明スルナラシ是レ死刑ノ宣告ヲ受ケタル被告人ニ對シテハ再審ヲ許サスト規定セルト同一ニ歸スヘシ凡ソ法ヲ解スルモノハ其法ヲシテ徒法ナラシメヨリ寧ロ法ヲ活用セシメサルハカラス然ラハ死刑ノ言渡ノ如キハ被告人ノ再審ノ訴ノ爲メニ停止セラル、モノトシテ始メテ再審ノ趣旨ヲ貫徹スルヲ得ヘシ然レトモ其他ノ刑ニ至リテハ假令之ヲ執行スルモ回復スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ再審ノ訴ヲ以テ停止スルモノニ非ス

第五章 再審ノ訴ヲ爲スノ方式

再審ノ訴ヲ爲サント欲スルモノハ其趣意書ニ原判決ノ謄本及ヒ證據書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ニ差出ス可シ(三〇四ノ一)又再審ノ訴ハ期間ノ定ナキヲ以テ永キ期間ヲ隔テタル後ニ於テ爲スモノナルカ故ニ判決ノ謄本ヲ訴ヲ爲ス者ヨリ差出スヲ要ス

再審ノ訴ハ確定判決ヲ攻撃スルモノナレハ訴者ハ確實ナル證據ヲ有セサルヘカラス其證據ハ書面ヲ以テ開示スヘシ其證據書類ノ有無ハ再審ノ訴ヲシテ效アラシムルト否トノ岐ル、所ナレハ申立人ヨリ證據書類ヲ趣意書ニ附添ス可キハ勿論ナリトス

原判決ノ謄本及ヒ證據書類ヲ附添シタル趣意書ハ之ヲ原裁判所ニ差出ス可シ然レトモ其裁判所ヲシテ再審ノ訴ニ對シテ意見ヲ附セシムルカ爲ニ非ス若シ直チニ上告裁判所ニ之ヲ差出ストスレハ原裁判所ハ或ハ其再審ノ訴アルコトヲ知ラスシテ終ルニ至ラン而シテ原裁判所トハ如何ナル裁判所ナルカヲ見ンニ第一審ニテ確定シタル判決ニ對スル再審ノ訴ヲ爲ス時ハ其第一審裁判所ナリ若シ第一審裁判所第二審裁判所ヲ經猶上告アリタル後確定シタル判決ニ對

スル再審ノ訴ニ付テハ原裁判所ハ上告裁判所ニ非サルコトハ勿論ナリ何トナ
 レハ再審ハ事實ニ對スル訴ナルニ上告裁判所ハ事實ニ對シテ訴ヲ受ケタルモ
 ノニ非サレハナリ第二審即チ控訴裁判所ニ於テ確定シタル判決ニ對スルトキ
 ハ原裁判所ハ第一審裁判所ナルカ第二審裁判所ナルカノ疑ヲ生ス可シ然レト
 モ再審ノ訴ハ現ニ執行スル刑ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ對シテ爲スモノナレハ
 事件カ第一審ヲ經第二審ニ於テ刑ヲ言渡シタルトキハ其裁判所若シ控訴ヲ棄
 却シタルトキハ第一審裁判所ヲ以テ原裁判所ナリトス
 原裁判所ニ再審ノ趣意書ヲ差出シタルトキハ其裁判所ハ之ヲ檢事ニ送附シ檢
 事ハ其書類ニ意見ヲ添ヘ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ差出ス可キモノトス而シテ
 其書類トハ前項ニ所謂趣意書並ニ之ニ附添セル判決原本ノ謄本及ヒ證據書類
 ヲ指スモノニシテ一切ノ訴訟記録ヲ附添スヘシト云フニ非ス蓋シ再審ノ訴ノ
 當否ヲ判斷スルニハ一切ノ訴訟記録ヲ調査スルノ必要ヲ見サレハナリ
 以上述べタル所ハ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノ及ヒ親屬ヨリ再審ヲ爲スニ付テノ
 方式ナルカ檢事ヨリ再審ヲ爲スコトアリ第三百四條ノ第三項ニハ原裁判所ノ

檢事及ヒ控訴裁判所ノ檢事自ラ再審ノ訴ヲ爲サントスルトキハ前項ノ手續ニ
 從ヒ其書類ヲ差出ス可シトアリ其原裁判所ノ檢事トアルハ第三百二條ノ第一
 號ニ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事トアルモノニ當リ又控訴裁判所ノ檢事
 トアルハ其第二號ノ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事
 トアルモノニ當ル此第二號ハ事件カ控訴ニ係リタルト否トヲ問ハス再審ノ訴
 ヲ爲スノ權ヲ與ヘタルモノナレハ必ス控訴アリタル事件ニ限ルモノト爲ス可
 カラス是等ノ檢事ヨリ再審ノ訴ヲ爲ストキハ前項ノ手續ニ從ヒ即チ趣意書並
 ニ原判決ノ謄本及ヒ證據書類ヲ差出ス可ク其趣意書ノ内ニハ檢事ノ意見ヲ包
 合スルコト勿論ナリ而シテ其趣意書並ニ書類ハ直チニ之ヲ上告裁判所ニ差出
 スニ非スシテ上告裁判所ノ檢事ニ之ヲ差出スモノナリ
 刑ノ言渡ヲ受ケタル者若クハ其親族及ヒ原裁判所控訴裁判所ノ檢事ノ爲シタル
 再審ノ訴ハ共ニ第三百四條ノ定ムル如ク原裁判所ノ檢事ヨリ上告裁判所ノ檢事
 ニ差出シ而シテ上告裁判所ノ檢事ハ上告裁判所ニ之ヲ差出スヘキモノトス蓋
 シ再審ハ確定裁判ノ效力ヲ動カス所ノ重大ナル訴ナルカ故ニ上告裁判所ノ檢

事ヲ經由スルコトヲ要スト爲セルナリ然レトモ法律ハ上告裁判所檢事ヲシテ
再審ノ訴ヲ取捨スルノ權利ヲ與フルモノニ非ス換言スレハ上告裁判所檢事ハ
原裁判所檢事ヨリ書類ヲ受取り再審ヲ理由ナシトシテ之ヲ上告裁判所ニ差出
サ、ルコトヲ得ルノ職權アルモノニ非ス只事ノ重大ナルヲ以テ此檢事ノ手ヲ
經由スヘシト云フニ過キヌ何トナレハ再審ハ法律ノ許シタル一ノ權利ナレハ
ナリ

第六章 再審ノ訴ニ對スル判決

再審ノ訴ト再審トハ自ラ區別アリ再審ノ訴ハ確定判決ニ對シテ再審ヲ求ムル
モノニシテ其訴ヲ理由アリト爲シタル上ハ該事件ヲ再ヒ審理判決ス之ヲ再審
ト爲ス本章ニ於テ見ント欲スル所ハ其再審ノ訴ヲ受クタルトキ其訴ノ理由ア
ルヤ否ヲ審理スルノ手續ナリ
前章ニ述ヘタル如ク上告裁判所ノ檢事ノ手ヲ經テ再審ノ訴ヲ上告裁判所ニ提
出セラレタルトキハ上告裁判所ハ其訴ノ審理ニ着手セサルヘカラス

上告裁判所ニ於テハ檢事ノ請求ニヨリ受命判事一名ヲシテ其取調ヲ爲シ報告
ヲ爲サシム可シ(三〇五)

上告裁判所ノ第一着ニ爲ス可キ手續ハ受命判事ヲ命シテ其事件ノ取調ヲ爲サ
シムルコトナリトス第三百五條ニハ檢事ノ請求ニヨリ受命判事一名ヲシテ其
取調云々トアリ故ニ常ニ受命判事ヲ命スルモノニ非スシテ只檢事ノ請求アリ
タル時ニ於テノミ受命判事ヲ命ス可キモノ、如シト雖モ本條ノ所謂檢事ノ請
求ニヨリトアルハ上告裁判所ノ檢事ヨリシテ事件ノ審理ヲ請求シタルコトヲ
云フモノニシテ受命判事ノ任命ヲ請求スルノ意ニ非ス上告裁判所ノ檢事ノ手
ヲ經テ再審ノ訴ヲ差出シタル時ニハ別ニ檢事ノ請求ナキモ受命判事ヲ任シテ
其取調ヲ命スルハ敢テ差支アルモノニ非ス如何トナレハ受命判事ヲ任スルコ
トハ審理上ノ便宜ニ出ツルモノニシテ敢テ他ノ請求ニヨリテ左右ス可キ事柄
ニ非サレハナリ
已ニ受命判事ニ於テ取調ヲ終リタルトキハ上告裁判所ハ其再審ノ訴ニ對シテ
判決ヲ爲ス可シ

第三百六條ニ曰ク上告裁判所ニ於テハ受命判事ノ報告及ヒ檢事ノ意見ヲ聞キ
判決ヲ爲ス可シト

我刑事訴訟法ニ於テハ凡テ判決ヲ爲スニハ法廷ヲ聞キ辯論ヲ爲スヲ必要トス
故ニ受命判事ノ報告及ヒ檢事ノ意見ハ法廷ニ於テ之ヲ爲サ、ル可カラズ再審
ニハ受命判事ノ報告ト檢事ノ意見ヲ聞ク可キコトヲ規定セルノミニシテ辯護
士ニ關スル一ノ規定ナシ故ニ或ハ再審ニ付テハ辯護士ヲ出シテ法廷ニ於テ辯
明ヲ爲サシム可キモノニ非ストノ疑團ヲ生ス上告ノ如キハ檢事ナル相手人
ルヲ以テ辯護士ヲ出シテ辯明セシムルノ必要アルモ再審ニ付テハ檢事ハ相手
方ニ非サルヲ以テ之ニ對シ辯護スルノ必要ナシ然レトモ再審ノ趣旨ヲシテ明
瞭ナラシムル爲メ辯護士ヲ差出シタルトキハ之ヲ拒ムヲ得ス

上告裁判所ニ於テ審理ヲ爲シタル上ハ如何ニ判決ヲ爲ス可キモノナルヤ再審
ノ訴ニシテ理由ヲキトキ即チ再審ノ訴ノ原因カ第三百一條ニ掲ケタル第一號
乃至第六號ノ項目中ノ何レノ場合ニモ適合セザルトキ及ヒ本法第三百二條ヲ
以テ許シタル資格ヲ有セザル人ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタルモノナルトキハ棄却

ノ判決ヲ爲スヘキモノトス

再審ノ原因ナシトシテ棄却ノ判決ヲ爲シタル時ハ其申立人ハ更ニ同一事件ニ
付再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルモノナル乎此問題ニハ一事不再理ノ原則ヲ適用
スルコトヲ得ヘシ凡ソ再審ハ已ニ確定シタル判決ニ對シテ爲スモノニシテ其
効果トシテ確定力ヲ動カスモノナリ若シ同一事件ニ付テ同一ノ理由ヲ以テ幾
度モ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルモノトセシカ途ニ底止スル所アラサルヘシ然
レトモ一度再審ヲ爲シ確的ノ證據ヲシテ棄却セラレタルモ後殺サレタリト
セシ人顯出スルカ如キ確的ノ證據ヲ發見シタルトキハ更ニ訴ヲ爲スコトヲ得
ヘシ何ソ其確證アルモ猶ヤ殺人ノ犯罪者ナリトシテ刑場ノ鬼ト化セシムルコ
トアラシヤ

再審ノ訴ニシテ理由アルトキハ原判決ヲ破毀シ事件ヲ他ノ裁判所ニ移シテ再
審ヲ爲サシム

第三百七條ニ曰ク上告裁判所ニ於テ再審ノ原因アルコトヲ認メタルトキハ原
判決ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲スコトヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所

ト同等ナル他ノ裁判所ニ移スコト
 第三百八條ニ曰ク死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ上告裁判所ニテ再審ノ原因アルコトヲ認メタルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコト無ク原裁判ヲ破毀ス可シト
 上告裁判所ニ於テ再審ノ理由アリト認メタル時ハ原判決ノ不當ナルコト明瞭ナリト雖モ未タ刑ノ言渡ヲ受クタルモノハ無罪アリトハ速斷スルヲ得ス死者ノ親族ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ上告裁判所ニ於テ其判決ヲ破毀スルニ止マルハ後ニ見ル如ク特例ナリトス一般ノ場合ニ於テハ無罪ナリト速斷スルヲ得サルヲ以テ原判決ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲スコトヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移シテ再審ヲ爲サシムルモノトセリ蓋シ再審ノ原因アリト確認シタル時ハ事實ヲ審理セサルヘカラス然ルニ事實ハ上告裁判所ニ於テ之ヲ審理スルコトヲ得サルヲ以テ更ニ事實裁判所ニ其事件ヲ移送シテ審理判決ヲ爲サシムルモノナリ
 死者ノ親族ヨリ再審ノ訴ヲ爲シ上告裁判所ハ再審ノ原因アリト認メタル時ハ

事件ヲ事實裁判所ニ移スコトナク原判決ヲ破毀スルニ止マルモノトス上告裁判所カ再審ノ原因アルコトヲ認メタルトキハ原判決ノ不當ナルコトハ明白ナルヲ以テ其判決ヲ破毀ス可シ然レトモ被告人死亡シタル後ナレハ事件ノ審理ヲ爲サス例ヘハ殺サレタリト認メタル人カ猶ホ存在スルコトヲ原因トシテ死者ノ親屬ヨリ再審ヲ求メタルニ上告裁判所ハ其人ノ存在スルコトヲ確認シタル時ハ死者ニ殺人罪ノ所爲アリト爲シタル原判決ハ之ヲ取消シ無罪ヲ言渡スヘシ若シ受刑者尙ホ生存スルトキハ他ノ犯罪アルヤモ知レサルヲ以テ事實裁判所ニ移送シテ再審ヲ爲サシム可キモ其人已ニ死亡シ自ラ防禦スルコトヲ得サルモノナレハ事實ノ審理ヲ爲サス只原判決ヲ破毀スルニ止マルモノナリ
 再審ノ訴ハ第一審第二審ノ公訴ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スモノニシテ其判決ニ附帶スル私訴ノ判決アルコトアリ故ニ再審ノ原因アルコトヲ認メタルトキハ獨リ公訴判決ヲ破毀スルニ止マラス之ニ附帶スル私訴ノ判決ヲモ破毀シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送ス蓋シ私訴ハ常ニ公訴ト運命ヲ共にスルモノナレハ若シ公訴ニシテ無罪ナル時ハ私訴ニ付テ責任アリト言渡サ

レタル判決モ自ラ存在スルコトヲ得ヘカラサルハ自然ノ道理ナレハナリ
 死者ノ親族ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル時ハ公訴判決ヲ破毀スルニ止マルコトハ
 上ニ見タルカ如シ此場合ニ於テ第三百八條ハ私訴ノ事ヲ規定セス然ラハ私訴
 モ亦單ニ原判決ヲ破毀スルニ止マル可キカ公訴ニ付テ破毀ニ止マル所以ハ前
 陳述ノ如ク更ニ審理ヲ爲サント欲スルモ已ニ辯護權ヲ行用ス可キ本人ナキヲ
 以テナリ然レトモ私訴ニ付テハ相續人アリテ充分ニ防禦ヲ爲スコトヲ得ヘキ
 ヲ以テ公訴ニ對スル時ト同一ニ論スルコトヲ得ス然ラハ私訴ニ付テ其事件ヲ
 原裁判所ト同等ナル他裁判所ニ移送スルヲ以テ相當ナリトスヘキカ如シ若シ
 送付スルトセハ公訴判決破毀ノ後ハ附帶スヘキ公訴ナキヲ以テ上告ノ場合ニ
 於テ私訴ノミヲ破毀スル時ハ民事部ニ移送スルト同一ニ之ヲ民事部ニ移送ス
 ヘキカ如シ然レトモ再審ノ原由アルニ依リ公訴私訴ニ付キ再審ヲ爲サシムル
 ハ第三百二條ノ定メタル普通ノ場合ニシテ死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲ス場
 合ニ於テハ私訴判決ヲ破毀スルノ明文ナキヲ以テ之ヲ破毀スルノ限ニ在ラス
 只相續人ハ民事部訴訟法ニ依リ再審ノ理由アルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ルノミ

再審ノ訴ニヨリ原判決破毀ノ後公訴私訴ニ付キ再審ヲ爲スコキ旨ヲ言渡シテ
 移送シ而シテ之ヲ受ケタル裁判所ハ如何ナル手續ニヨリ裁判ヲ爲スコキヤ
 第三百七條第二項ニ曰ク其送附ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規定ニ從ヒ
 裁判ヲ爲スコシト

原裁判ヲ破毀シタル以上ハ事件ハ未タ嘗テ裁判ヲ經サルト同一ノ形狀ニ回復
 ス故ニ移送ヲ受ケタル裁判所ハ普通ノ事件ト同一ニ審理判決ヲ爲スコキモノ
 トス然レトモ或點ニ於テハ其裁判ハ恰モ上訴ヲ受ケタルト同一ニ制限ヲ受ク
 可キコトアリ即チ原判決ハ上告人ノ不利益ニ變更ヲ爲スコトヲ得サルコト是
 ナリ抑再審ノ訴ヲ爲シ其原因アリト爲シタル時ト雖モ必スシモ其結果無罪ト
 ナラサルノミナラス或ハ有罪トナリ且其事實タルヤ原判決ヨリ重キ刑ニ該當
 スルコトナキニシモアラス然レトモ再審ノ訴ハ被告ノ利益ノ爲メニ許シタル
 モノナルニ其訴ヲ爲シタルカ爲メ却テ不利益ノ結果ヲ受ケシムルハ法ノ欲セ
 サル所ナレハ控訴上告ノ精神ニ依リ再審ノ訴ニ付キ法律ニ明記スル所ナシト
 雖モ此原則ハ適用セサルヲ得サルナリ

再審ノ訴ニ對スル裁判ハ皆判決ヲ以テ之ヲ爲ス故ニ之ヲ公廷ニ於テ宣告スルヲ必要トス若シ再審ノ結果無罪トナリタル時ハ其無罪ヲ宣告シタル判決ハ之ヲ揭示シテ以テ社會公衆ニ示ス可キモノトス即チ第三百九條ハ再審ノ判決ニ因リ無罪ノ言渡アリタルトキ又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリタルトキハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其判決ヲ揭示ス可キモノトセリ

死者ノ親族ヨリ再審ノ訴ヲ爲シ其原因アリトシテ原判決ヲ破毀シタルトキハ其上告裁判所ノ判決ハ其死者ノ無罪ヲ言渡シタルモノナレハ之ヲ揭示シテ以テ名譽ヲ回復セシム可シ又原判決ヲ破毀シ以テ他ノ裁判所ニ移送ノ言渡ヲ爲シタルトキハ無罪ヲ言渡シタルモノニ非ス故ニ之ヲ揭示ス可キモノニアラス而シテ其移送ヲ受ケタル後審理判決ノ上無罪ノ言渡ヲ爲シタル時之ヲ揭示ス可キモノナリ而シテ其揭示ノ理由ハ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノ、無罪ヲ回復セシムカ爲ナリ

第八編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

裁判所構成法第十五條第二項ニ依レハ大審院ハ左ノ犯罪ニ付キテハ第一審ニシテ終審トシテ豫審及ヒ裁判ヲ爲スモノトス

第一、皇室ニ對スル重罪(刑法第二編第一章)

第二、國事ニ關スル重罪(刑法第二編第二章)

第三、皇族ノ犯シタル犯罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處ス可キモノ

第一第二ノ犯罪ハ其性質犯罪中ニ於テ最モ重大ナルヲ以テ特別權限ニ屬ス又第三ノ罪ハ其種類ニ定限ナシト雖モ被告人ハ我國ニ於テハ特別ノ位置ニアルヲ以テ充分ナル擔保ヲ以テ裁判ヲ爲サシムルカ爲メ特別權限ニ屬スルモノトス元來普通裁判所ト雖モ其裁判官ハ能力節義及ヒ公平ノ點ニ於テ欠クル所ナク何等ノ事件ニ對スルモ擔保ナキニ非ス然レトモ法律ニ於テ審級ヲ置キ最上級ハ大審院トナリタルヲ以テ此重大ナル犯罪ニ付テハ特別トシテ大審院ノ權限ニ屬セシメタリ而シテ大審院ハ其事件ニ付テハ第三審トシテ之ヲ裁判スルニ非ス全ク事實裁判所トシテ第一審ノ裁判ヲ下スモノナリ然ルニ大審院ノ上ニ上訴ス可キ法院ナキヲ以テ其裁判ハ終審ナリトス

大審院カ國事ニ關スル重罪又ハ皇族ノ犯シタル犯罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルモノトシテ管轄シタル後其審理ノ結果國事犯ナルモ輕罪ナル時又ハ皇族ノ犯罪ナルモ禁錮以下ニ當ルモノナル時ハ普通裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノナリト雖モ管轄違テ言渡ス可キモノニ非ス恰モ地方裁判所カ公訴ヲ受理シタル後地方裁判所管轄ニ屬ス可キモノニ非スシテ區裁判所管轄ニ屬ス可キモノナリトスル時ハ之ニ管轄違テ言渡サスシテ第一審ノ判決ヲ爲スト同一ノ理由ニ出テ第三百十三條ノ規定ニ依リ第二百四條ヲ準用ス最上級裁判所ハ下級裁判所ヨリモ擔保多シトスルヲ以テ事件ヲ下級裁判所ニ移スノ必要ナシ

大審院ノ特別管轄ニ屬ス可キ事件ハ土地ノ管轄ニ關係ナキヲ以テ犯罪ノ地及ヒ被告人ノ所在地ノ如何ヲ問ハス凡テ之ヲ管轄ス從犯正犯ノ關係ニ付テハ第二十八條ノ規定ニ從テ

大審院ハ上述ノ犯罪ニ付テハ獨リ審理判決スルノ裁判權ヲ有スルノミナラス豫審モ亦其管轄ニ屬ス然ラハ其豫審ノ運用ヲ惹起スヘキ犯罪ノ搜查モ亦下級裁判所檢察ニ委ネスシテ檢察總長ヲシテ之ヲ爲サシメサルヘカラス

第三百十條ニ曰ク裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル大審院ノ特別權限ニ屬スル犯罪ニ付テハ檢察總長其搜查ヲ爲ス可シ地方裁判所區裁判所ノ檢察及ヒ司法警察官モ亦其犯罪ニ付キ搜查ヲ爲シ檢察總長ニ報告ス可シト

檢察總長獨リ其搜查ノ任ニ當ルト雖モ元來檢察ハ同一體ナルヲ以テ地方裁判所ノ檢察區裁判所ノ檢察及ヒ司法警察官モ亦檢察總長ヲ補佐シ搜查ヲ爲スヘシ

本項ニハ控訴院ノ檢察ヲ記載セヌ故ニ其檢察ハ此犯罪ニ付キ搜查ヲ爲スノ職權ナシ蓋シ地方裁判所區裁判所ノ檢察及ヒ司法警察官ハ其犯罪アリタル地ト近接シ之ヲシテ搜查ノ補佐ヲ爲サシムル上ハ控訴院ノ檢察ヲモ加フルノ必要ナクレハナリ

現行犯ノ場合ニ於テハ普通事件ニ付テモ檢察司法警察官ハ豫審處分ヲ爲スコトヲ得蓋其犯罪ヨリ生スル危害ノ大ナルト且速ニ着手セザレハ證據湮滅ノ恐アルニ依ル特別權限ニ屬スル事件ト雖モ現行犯ノ場合アルコト必然ナリ而シテ其場合ニ於テハ第三百十一條ハ前條ニ記載シタル犯罪ノ現行犯アル場合ニ

於テ急速ヲ要スルトキハ地方裁判所區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官ハ第四百十四條及ヒ第四百十七條第一項ノ規定ニ從ヒ豫審處分ヲ爲スコトヲ得但豫審判事ニ通知スルコトヲ要セサルモノトセリ

特別權限ニ屬スル犯罪ニ付テハ普通事件ト同一ニ檢事及ヒ司法警察官ハ第四百十四條第四百十七條第一項ノ規定ニ從ヒ豫審處分ヲ行フコトヲ得ルモ未タ通知ヲ爲スコキ豫審判事ナキヲ以テ之ヲ通知スルコトヲ要セス

然ラハ檢事及ヒ司法警察官ニ於テ豫審判事ニ屬スル處分ヲ行フタル時ハ如何ナル手續ヲ爲スコキカ

第三百十二條ハ前條ノ場合ニ於テハ地方裁判所檢事ヨリ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ檢事總長ニ送致ス可シトセリ

地方裁判所ノ檢事現行犯アルヲ知リテ豫審處分ヲ行フタル時ハ其處分ニ因リテ得タル證據及ヒ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘテ速ニ之ヲ檢事總長ニ送附ス可ク若シ區裁判所檢事又ハ司法警察官ニ於テ現行犯ニ付キ豫審處分ヲ行フタル時ハ其證憑書類ヲ地方裁判所檢事ニ送致シ該檢事ヨリ檢事總長ニ送致ス可キモ

ノトメ區裁判所檢事及ヒ司法警察官ノ行フタル處分ノ結果ハ別ニ規定ナシト雖モ檢事總長ニ送致ス可キモノハ地方裁判所檢事ナリト規定シアルニヨリテ明カナリ

如此檢事總長ニ於テ捜査ヲ爲シタル上若シ起訴ス可カラサルモノト認メタル時ハ檢事ノ全權ヲ以テ其事件ヲ不問ニ附シ刑事上ノ訴訟ヲ起スヘカラス又大審院ノ特別權限ニ屬セサルモ下級裁判所ニ屬スルモノトスル時ハ下級裁判所ノ檢事ニ移送シテ起訴セシムヘシ又若シ其事件ハ大審院ノ特別權限ニ屬スルモノニシテ起訴ヲ爲スコキモノト認メタル時ハ一切ノ書類ヲ該院ニ差出シ起訴ヲ爲スヘシ然レトモ未タ起訴ヲ受ク可キ豫審判事ナキヲ以テ起訴ト同時ニ豫審判事ノ設置ヲ請求セサルヘカラス

第三百十三條ニ檢事總長ハ何レノ場合ニ於テモ其事件大審院ノ特別權限ニ屬シ且起訴ス可キモノト認メタルトキハ豫審判事ヲ命ス可キコトヲ大審院長ニ請求ス可シトアリテ此請求ヲ受クタルトキハ則チ起訴アリタルヲ以テ大審院ハ審理ニ着手セサルヘカラス其審理ノ第一若ハ大審院長ニ於テ豫審判事ヲ命

スルコトナリトス而シテ其豫審判事ハ裁判所構成法第五十五條ノ規定ニヨリ
 大審院ノ判事又ハ便宜ニヨリ各地方裁判所判事ヲ以テ之ニ充ツ
 大審院長ノ任命シタル豫審判事ハ檢事總長ノ差出タル書類ニ依リテ事實ノ調
 査ヲ十分ナリトシ他ニ取調ヲ要スルコトナシトスル時ハ訴訟記録ニ意見ヲ附
 シ大審院ニ差出ス可ク(三一四)若シ取調ヲ要スルトキハ普通ノ手續ニ依リ豫審
 ヲ爲スヘシ但シ普通ノ場合ノ如ク豫審判事ハ豫審決定ヲ爲スノ權力ヲキテ以
 テ公判ニ附スルノ言渡免訴ノ言渡又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲スヲ得ス是等ノ言渡
 ハ皆大審院ノ爲スヘキモノトス
 豫審判事ヨリ訴訟記録ニ意見ヲ附シ差出シタル時ハ大審院ハ檢事總長ノ意見
 ヲ聞キ先ツ其事件ノ公判ニ附ス可キヤ否ヤヲ決定スルモノトス(三一五ノ一)
 若シ大審院ニ於テ調査ノ上自己ノ特別權限ニ屬ス可キモノナリト認メタル時
 ハ其決定ヲ爲ス其決定ニ依リテ事件ハ大審院ノ公判ニ附セラル、モノナリ恰
 モ普通ノ豫審終結決定ト同一ノ效力ヲ以テ其事件ハ始メテ公判ニ附セラル此
 故ニ其決定ヲ爲シタル判事ハ豫審終結ニ關與シタル判事ト同一ナルヲ以テ其

後公判ノ判事トナリテ職務ヲ取ルコトヲ得ス法律上其職務ヨリ除斥セラル、
 モントス可キナリ

若シ大審院カ其事件ヲ地方裁判所又ハ區裁判所ノ權限ニ屬スルモノト決定シ
 タル時ハ管轄裁判所ヲ指定シ其事件ヲ其裁判所ニ送致ス可ク(三一五ノ二)又其
 事件カ特別裁判所例ヘハ軍事裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト爲シタル時ハ司法
 裁判所ノ權限外ニ屬スル事件ナルヲ以テ管轄裁判所ヲ指定スルノ限リニ非ス
 故ニ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘク又若シ其事件カ第六十五條第一乃
 至第六ノ場合ニアルモノト認メタル時ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可キモ
 ノナリ(三一五ノ三)

以上述ブル所ノ大審院ノ決定ハ普通事件ニ在リテハ豫審終結シテ下ス決定ナ
 リ普通ノ豫審終結決定ニ對シテハ重罪公判ニ移スモノナル時ハ之ニ對シテ抗
 告ヲ爲スコトヲ得ルモノナルモ此決定ニ對シテハ抗告ヲ許スノ正文ナキヲ以
 テ之ヲ爲スヲ得ス又此決定ハ判決ニ非サルヲ以テ控訴上告ヲ爲スコトヲ得サ
 ルハ勿論又爲サント欲スルモ上級裁判所アルコトナシ其裁判ノ性質上ヨリ云

フ時ハ一ノ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナルモ抗告ハ上ニ却ヘタル如ク法律ニ
 特ニ許シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノナルヲ以テ法律カ此
 決定ニ對シテ抗告ヲ許スノ明文ナキ以上ハ之ヲ許サ、ルコト自ラ明瞭ナリ
 大審院ニ於テ事件ヲ特別權限ニ屬スルモノト爲シタル上ハ公判ヲ開キ審理判
 決ヲ爲スコシテ其手續ハ普通事件ト異ナルコトナキヲ以テ本編ニ於テハ
 特ニ之ヲ規定セズ第三百十六條ハ前數條ニ於テ特ニ之ヲ規定シタルモノヲ除
 ク外豫密公判ノ手續ハ第三編第四編ノ手續ヲ準用ストアリテ本編ハ普通ノ手
 續ト異ナルモノヲ規定シクルニ止マリテ特別權限ニ屬スル凡テノ事件ノ刑事
 訴訟手續ヲ定メタルモノニ非ズ依テ公判ノ手續ノ如キハ別ニ本編ニ規定ナキ
 ヲ以テ普通事件ト同一ナルコトハ勿論ニシテ欠席判決ニ對スル故障及ヒ再審
 ノ如キモ亦此特別權限ノ判決ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ルモノナリ
 畢リニ私訴判決ノ事ニ付テ一言セシニ特別權限ニ屬スル公訴ニ附帶セル私訴
 ハ大審院ニ於テ審理判決スルコトハ勿論ナリ此特別事件ニ在リテハ大審院ハ
 普通事件ニ於ケル如ク單ニ法律ノ點ノミニ付テ判決ヲ爲スニ非ズ事實裁判所

トシテ審理ヲ爲スモノナレハ私訴ナリトテ他ノ裁判所ヲシテ審理セシムル
 要ナシトス然レトモ私訴ノ結果ハ刑事訴訟法ノ規定ノミニ據ルヲ以テ是レヲ
 トセズ往々民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノアリ例ハ假差押ノ如キコト必
 スナキニシモアラズ是等ノ手續ハ民事訴訟法ニ據ルヘケレハ其法ノ定ムル裁
 判所ヲシテ之ヲ爲サシムルコトアルモノナリ

第九編 裁判執行復權及ヒ特赦
 第一章 裁判執行

刑ノ執行ハ判決確定ノ後ニ非スンハ爲スコトヲ得ズ三一七民事訴訟法ニアリ
 テハ裁判ノ假執行ヲ爲スコトアリト雖モ刑事訴訟法ニアリテハ其刑ノ輕重如
 何ニ拘ハラズ之ヲ執行スル時ハ回復スルコト能ハサルヲ以テ其判決確定セサ
 ル間ハ執行ヲ許サ、ルモノトス而シテ如何ナル時期ニ於テ判決ハ確定スルモ
 ノナルヤ法律ニ許シタル上訴ヲ爲シ盡シテ其上訴ノ判決アリタルトキ又ハ上
 訴ヲ爲サ、ルモノニ付テハ上訴ス可キ期間ノ終了ヲ以テ確定ノ時ナリトス然

レトモ上訴ノ場合ニ於テ上訴裁判所ノ判決ニ依リテ確定スルハ上告裁判所カ
 棄却ノ判決ヲ爲シ又ハ自ラ刑ノ適用ヲ爲シタル時ナリトモ若シ破毀シテ事件
 ヲ他ノ下級裁判所ニ移送シタル時ノ如キハ未タ確定スルニ至ラス其事件ハ第
 二審ノ裁判所ニ繫屬シアルヲ以テ刑ノ執行ヲ爲スヨトヲ得サルナリ控訴抗告
 ノ判決アル迄ハ未タ上訴ヲ爲シ盡シタルモノニ非サルヲ以テ確定ナキヤ論ヲ
 俟タス

茲ニ關席判決ニ付テ講究スルヲ要ス關席判決モ亦上訴期間經過ニヨリテ確定
 スルモノト云フヘシ故ニ假令故障期間存在スルモ尙モ上訴期間經過スルトキ
 ハ其刑ヲ執行スルコトヲ得ヘシ第二百二十九條ニ曰ク故障ノ期間ハ三日トス
 此期間ハ云々禁錮ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ被告人自ラ其送達ヲ受ケ又
 ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マルトアリ然
 ラハ法律ハ判決ノ執行セラレ其執行ニ依リテ被告人刑ノ言渡アルコトヲ知リ
 タル場合ヲ想像スルモノト謂ハサルヲ得ス而シテ判決ノ執行ハ確定ノ後ニ非
 サレハ之ヲ爲スヲ得サルヲ以テ關席判決ハ已ニ確定スルモ有效ニ故障ヲ申立

ツルコトヲ得ルモノハ如シト雖モ執行トハ判決執行處分ノ着手即チ逮捕ト解
 スルヲ以テ穩當ナリトモ治罪法草案ニハ執行上ノ或ル行爲トアリテ註解ニハ
 例トシテ逮捕ノミナラス執行ニ付キ異議ヲ唱ヘ又ハ禁錮ヲ受クル前或ハ事務
 ヲ整理スル爲メ猶豫ヲ檢察官ニ請求シ又ハ自家ニ於テ醫療ヲ加フルノ必要ア
 ル病氣ヲ申立タル場合ヲ掲ク何レモ刑ノ執行ニ着手シタルモノナルコトヲ明
 カニセリ

本章ノ表題ニハ裁判ノ執行トアリ然ルニ裁判ト稱スルハ獨リ刑ヲ言渡シタル
 判決ノミナラス無罪ヲ言渡シタル本按ノ判決本按前ノ判決及ヒ決定ヲモ包含
 スルモノナリ然レトモ本章ハ是等ノ裁判ノ執行ヲ規定スルニ非ス刑ノ執行之
 ニ附屬スル公訴費用及ヒ私訴判決ノ執行ヲ規定スルニ止マルモノナリ故ニ第
 三百十七條ノ判決確定ノ後ニ非サレハ執行スルヲ得ストシタルハ刑ヲ言渡シ
 タル判決ニ付テ云フモノナリ上告裁判所ノ判決ニシテ棄却又ハ事件ノ移送ヲ
 言渡シタルモノハ其言渡ト同時ニ確定スルヲ以テ之ヲ執行スヘキハ勿論ナリ
 本按ノ判決ニシテ無罪放免ヲ言渡シタルモノニアリテハ判決確定ノ後ニ非サ

レハ執行スルコトヲ得サルノ法文ナシ然レトモ控訴ノ期間内及ヒ其申立ニ依
 リ執行ヲ停止ス(二五三)上告ニ付テモ之ト同シ其期間内及ヒ其申立ニ依リ執
 行ヲ停止スルモ獨リ放免及ヒ勾留ノ言渡ハ尙ホ未確定中ニアリト雖モ執行ヲ
 爲スヘキモノトス本按前ノ判決即チ管轄違又ハ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタ
 ル判決ハ之ニ控訴又ハ上告ヲ爲シタルトキハ本按ノ辯論ヲ停止スル(一八七)テ
 以テ其判決ノ確定セサル内ニ在リテ執行ノ實ナカルヘシト雖モ右ノ申立ヲ採
 用シタル判決ハ本按ノ判決ナレハ控訴ニ付テハ何レモ執行ヲ停止スルモ上告
 ニ付テハ公訴不受理ノ判決ハ執行セラル、モノトス何トナレハ其判決ハ放免
 ヲ言渡スモノナレハナリ決定ニ付テモ豫審終結決定ノ如キハ抗告ノ爲メ其期
 間内又申立アルトキハ其執行ヲ停止スルモ(一七四)其他ノ決定ニシテ特ニ法律
 ニ執行停止ノ明文ナキ限りハ抗告期間内ニ在リテ決定ハ未タ確定セサルモノ
 ナルニ拘ハラズ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス抗告ニ對スル決定ニ對シ更
 ニ抗告アリタルトキモ亦之ト同一ナリトス

第三百十七條ハ前述ノ如シ刑ノ執行ハ判決ノ確定以前ニ之ヲ爲スコトヲ得サ

ルノ規定ヲ置テリ其判決確定シタル後ニアリテハ何時ニ之ヲ執行スルコトヲ
 得ルモノナルヤ第三百十九條ハ刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ之ヲ執行スル
 モントセリ故ニ一般ニ於テハ判決確定スルヤ猶豫ナク執行ニ取掛ルコトヲ得
 然レトモ左ノ例外アリトス

第一、死刑ノ執行

第三百十九條ハ死刑ヲ除ク外刑ノ言渡ノ確定シタル時ハ直チニ執行ス可シ
 ト云ヘリ是レ死刑ハ刑罰ノ最モ重キモノニシテ且回復ス可カラサル結果ヲ
 生スルカ故ニ法律ハ其執行ニ付テハ特ニ鄭重ナル手續ヲ爲シタルヲ以テナ
 リ刑法第十三條第十四條第十五條及ヒ本法第三百十八條ヲ參看ス可シ

第二、罰金

刑法第二十七條ニヨリ罰金ハ判決確定後一个月間ハ執行ヲ爲スコトヲ得ス
 第四十二條ノ附加罰金ニ付テモ亦同シ

刑ノ執行ハ其言渡確定シタルヨリ直チニ執行ヲ爲ス可シト云フハ專ラ主刑ニ
 付テ云フモノナリ附加刑ニアリテハ或ハ主刑ノ終リタル時ヨリ執行スルモノ

アリ監視ノ如キ是レナリ刑法三九

刑ノ執行ハ檢事ノ職務ニ屬スルヲ以テ若シ体刑ノ言渡ヲ受ケテ其執行ヲ免カ
レタルモノアル時ハ執行ノ爲メニ檢事ハ逮捕狀ヲ發ス可シ其逮捕狀ハ勾留狀
ト同一ノ效力ヲ有スルモノナリ(三一九)故ニ此檢事ノ發シタル逮捕狀ハ留置ニ受
刑人ヲ逮捕スルニ止マラスシテ監獄ニ勾留引致スルノ效力ヲ有スルモノトス
闕席判決ノ場合ニ於テハ判決執行ノ爲メニ檢事ヨリ逮捕狀ヲ發スルコトアリ
此場合ニ於テモ逮捕狀ノ效力ハ勾留狀ト同一ニ勾留留置スルコトヲ得蓋シ刑
事訴訟法ニ於テハ人ヲ引致勾留スルノ權ハ豫審判事ニアルヲ以テ通例トス檢
事ヨリ發スル所ノ逮捕狀ハ法律ニ於テ勾留狀ト同一ノ效力ヲ附スルニ非ス
ハ勾留スルコトヲ得ス故ニ法律ハ特ニ其效力ヲ明示ス

刑ノ執行ハ裁判所ノ職掌ニアラスシテ檢事ノ職務ニ屬スルモノトス裁判所構
成法第六條ニ於テ各裁判所ニ檢事局ヲ設置シ檢事ハ刑事ニ付キ判決ノ適當ニ
執行セラル、ヤ否ヲ監視ストアリ又刑事訴訟法第三百二十條ニ刑ノ執行ハ其
刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事

ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シトアリ故ニ現ニ刑ヲ執行スルハ皆檢事ノ監視及ヒ
指揮ノ下ニアリテ之ヲ爲スモノナリ

而シテ其檢事ハ如何ナル裁判所ノ檢事ナルカ法律ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所
ノ檢事ナリト云ヘリ故ニ第一審ノ判決確定シテ之ヲ執行ス可キ時ハ其刑ヲ執
行スルモノハ第一審裁判所ノ檢事ナルコト論ヲ俟タス若シ控訴ヲ爲シ控訴裁
判所ニ於テ原判決ヲ認可シタル時ハ均シク第一審裁判所ノ檢事其執行ヲ爲ス
可キナリ蓋シ此刑ヲ言渡シタル裁判所トハ執行ス可キ主文ヲ言渡シタル裁判
所ノ謂ニシテ第二審ハ事實ヲ覆審シタルニ相違ナキモ其執行ス可キ主文ヲ言
渡シタルモノニ非ス故ニ第二審裁判所ヲ以テ刑ヲ言渡シタル裁判所ト云フコ
トヲ得サレハナリ反之第二審裁判所ニ於テ第一審裁判所ノ判決ヲ取消シ更ニ
刑ヲ執行ス可キ主文ヲ言渡シタル時ハ則チ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ第二審裁判
所ナルヲ以テ其裁判所ノ檢事ニ於テ執行ヲ司ル可キナリ

上告裁判所ニ於テ上告ヲ棄却シタル時ハ其上告裁判所ハ刑ヲ言渡シタル裁判
所ニ非サルコト勿論ニシテ其刑ノ執行ヲ司ル者ハ前陳述シタルト同一區別ニ

從ヒ第一審裁判所若クハ第二審裁判所ノ檢事ナリトス然レトモ上告裁判所ニ於テ原判決ノ據律ヲ更正シ執行ス可キ主文ヲ言渡スコトアリ此場合ニ於テ刑ノ執行ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事之ヲ司ル可シト云フ原則ニ從ヘハ上告裁判所ノ檢事ナリトス然レトモ如此スル時ハ實際上非常ノ不都合ヲ生ス何トナレハ上告裁判所ハ被告人ノ出頭ヲ要セサルモノナレハ被告人ハ原裁判所ノ監獄ニ在リ然ルヲ上告裁判所ノ檢事其執行ヲ司ルモノトセハ執行ノ爲メニ大審院ノ檢事長崎若クハ函部ノ如キ遠隔ノ地ニ出張セサルヲ得ス出張セストセハ被告人ヲ執行ノ爲メニ長崎若クハ函部ヨリ遞送セシメサルヲ得サルナリ故ニ第三百二十條ニ刑ノ執行ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受クタル裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シト規定シタリ然ラハ執行スヘキ主文ヲ言渡シタルトキハ上告裁判所ハ他ノ控訴院又ハ裁判所ニ執行ヲ命シ其院若クハ裁判所ノ檢事カ執行ヲ指揮スルモノトス實際ニ於テハ上告裁判所ノ檢事ヨリ控訴院又ハ裁判所ノ檢事ニ命シ其檢事ニ於テ執行ヲ司ルモノトナスヲ以テ便宜ニシテ且事物ノ順序ヲ得ルモノ、如シト雖モ本條ハ斯ノ如クニ解釋スルヲ得サルヲ

如何ニセシ

罰金科料訴訟費用及ヒ沒收物品追徴金ハ檢事ノ命令ニヨリ執行官吏之ヲ徵收ス(三二〇ノ二)然ルニ第三百二十三條ニ依レハ訴訟關係人ニ辨濟ス事キ訴訟費用ニ付キテハ其判決ノ執行ハ民事訴訟法ニ從テ可キモノト規定シタリ凡ソ公訴費用ハ刑法附則ニ定ムル如ク證人鑑定人等ニ辨濟ス可キモノナルヲ以テ訴訟關係人ニ辨濟スヘキ費用ニ非ス故ニ民事訴訟法ノ規定ニ從ハシムルモノハ私訴費用ノ執行ニシテ公訴費用ノ執行ニ非ストス
沒收シタル物品ハ或ハ其存在ノ以テ社會ニ危害ヲ與フルモノアリ例ヘハ偽造貨幣及ヒ人ヲ殺スカ爲メ用非又ハ用非ト爲シタル爆發物ヲ裝置セル器械ノ如キハ之ヲ沒收シタル後ハ破壊又ハ廢棄シテ存在セシメサルヲ要ス其破壊又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢事之ヲ處分ス可キナリ(三二〇ノ三)
公訴附帶ノ私訴ニ對シテ言渡シタル判決ノ執行ハ賠償ニ付テハ民事訴訟法ニ從テ可キコトヲ第三百二十三條ニ於テ明記シアリ贖物ノ返還ヲ言渡シタル判決ノ執行ニ付テハ明記ナキモ民事訴訟法ニ從テ可キナリ何トナレハ其訴訟ハ

一ノ民事ノ勝ニシテ便宜ノ爲メニ刑事ノ訴訟ニ附帶シテ判決シタルコトハ損害ノ賠償ト同一ナレハナリ

已ニ刑ノ執行ヲ終了シタル時ハ其終了シタルコトヲ證明シ置クノ必要アリトス故ニ第三百二十一條ハ死刑ノ執行ニ付テハ裁判所書記其始末書ヲ作り刑ノ執行規定ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印ス可シト云ヘリ死刑ハ最モ重大ナル刑ナルヲ以テ特ニ裁判所書記ヲシテ之ヲ證明セシメ置クナリ其他ノ体刑ニ付テモ刑ノ執行セラレタルコトヲ證明シ置クコト必要ナルモ敢テ裁判所ノ吏員ヲ煩ハスヲ要セス刑ノ執行ヲ受ク可キ監獄署ノ帳簿ニ被刑人ヲ登錄シアルヲ以テ其執行ヲ證明シ得ルナリ又罰金過料沒收物品追徴金等ニ至リテハ檢事ノ命令ニ依リ執達吏ニ於テ之ヲ執行スルカ故ニ執達吏ノ作りタル文書ニヨリ證明シ得ルモノトス

刑ハ裁判確定後ニ其執行ヲ見ルモノナルヲ以テ其判決自体ニ對シテハ再審及ヒ非常上告ヲ以テ攻撃スルノ外不服ヲ稱フルコトヲ得可キモノニ非スト雖モ刑ノ執行ニ對シテハ其刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ疑義又ハ異議ヲ申立タルコトヲ得ルモノトス疑義ノ申立トハ判決ノ意義不明瞭ナリトシテ疑ヲ生シタルニヨリ其言渡ノ解釋ヲ求ムルモノニシテ異議トハ執行處分ヲ不當ナリトシテ更正ヲ求ムルヲ云フ其申立ニ對シ決定スルモノハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ナリトス(三二二)

疑義又ハ異議ハ皆刑ヲ言渡シタル裁判所ニ於テ決定ヲ爲ス可キモノナリトスルモ裁判所ハ其申立アルヲ幸ヒトシ判決ヲ變更スルヲ得サルコトハ勿論ナリ唯タ決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ判決ノ意味ヲ解釋スルニ止メサルヘカラス極端ノ例ヲ舉クレハ判決主文ニ執行スヘキ刑ノ明示ナキモノアリトモソカ其判決ノ主旨ハ無罪放免ヲ言渡スニ非サルヲ以テ刑ヲ科スルノ主意ナルコト明カナリト雖モ執行官ニ於テ其刑ヲ按出スルヲ得ス然ルニ刑ヲ執行シタルニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ執行スヘキ刑ナシトノ決定ヲ與ヘサルヘカラス若シ刑ヲ定メテ決定スルカ如キコトアラハ是レ判決ヲ解釋スルニ非スシテ判決ヲ爲スモノナリ

然レトモ實際ニ於テ困難ナル問題ヲ生スルハ數罪俱發ノ例ニ依リ數罪中一ノ

重キニヨリテ處斷シタル判決ノ執行ニアリトス今茲ニ一人ノ被告人ニ三罪併發シ一ノ判決ヲ以テ數罪俱發例ニ從テ處斷シ其内ノ甲罪ヲ最モ重シト爲シ重禁錮一年ニ處シタリ而シテ其後甲罪ニ對スル刑則チ重禁錮一年ノ刑ハ非常上告ノ結果又ハ大赦等ニヨリテ消滅シタルトキハ判決ニハ已ニ執行スヘキ主文ナシ然レトモ他ノ二罪ニ對スル判決ハ存在セリ然ラハ執行官ハ其存在スル刑ヲ探リテ以テ執行スルコトヲ得ルヤ若シ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトスレハ刑法第百條ハ執行處分ヲ規定シタルモノニシテ裁判所ハ數罪アレハ其各罪ニ付テ刑ヲ科シ其一ノ重キヲ執行スルハ執行官ニアリトセサルヲ得ヌ反之刑法第百條ノ一ノ重キニ從テ處斷スト云フハ裁判所ニ命シタル法條ナリトセハ執行官ニ於テハ其一ノ重キ刑ヲ撰ンテ執行スルコトヲ得ヌ依テ前例ノ如クニ一ノ重シト爲シタル刑カ消滅シタル時ハ他ノ罪ニ付テハ刑ノ執行ヲ爲スコトヲ得サルモノト曰ハサルヲ得ヌ刑法ノ所謂一ノ重キニ從テ處斷スト云フハ其一ノ重キヲ執行スルノ意ニ非ス重キニ從テ判決ヲ爲スヘキノ意ナリ一ノ重キモノトシテ處斷シタル罪カ後日ノ事情ニヨリテ消滅シ從テ執行ス可キ刑モ亦

消滅シタル時執行官カ他ノ罪ニ對スル刑ノ内一ノ重キヲ選ビ執行セントスルニ當リ被告人之ニ不服ヲ唱ヘタルニ於テハ刑ヲ言渡シタル裁判所ハ重キモノヲ撰ンテ執行ヲ爲ス可キモノト決定スルコト能ハス何トナレハ其決定ハ判決ヲ解釋スルモノニ非スシテ新タニ判決ヲ爲スモノナレハナリ異議ニ對スル決定ハ執行スヘキ刑ノ性質範圍ヲ解釋スルニ外ナラス

以上ニ論シタル所ハ判決ニ各罪ニ付テ執行スルコトヲ得可キ刑ヲ定メアル場合ナリ例ハ三箇ノ罪アリテ一ノ判決ニヨリテ處斷シ甲罪ハ重禁錮一年乙罪ハ重禁錮六個月丙罪ハ重禁錮三個月トアリテ其甲罪ヲ重シトシテ處斷シ其後ニ於テ甲罪ハ無罪トナリタル時ニ於テ前述ノ如ク決定ヲ以テ執行スヘキ刑ヲ定ムルヲ得ヌ況ヤ原判決ハ乙丙罪ニ付テハ刑ヲ定メヌ只一ノ重キモノト爲シタル甲罪ニ對シテノミ刑ノ範圍罰金ノ高ヲ定メタル場合ニ於テ甲罪ノ刑消滅シタルトキハ執行ス可キ刑ナシト曰ハサルヲ得ヌ若シ執行官カ此場合ニ於テ丙罪ニ適用ス可キ法律ニ定メタル刑ノ範圍ハ乙罪ノ刑ノ範圍ヨリ廣キヲ以テ丙罪ヲ重シト爲シテ刑ヲ執行スルト假定センカ被告人ヨリ異議ノ申立ヲ爲ス

時ハ裁判所ハ執行スヘキ刑ナシト決定ヲ下スノ外ナカル可シ治罪法原案第六百三十二條ヲ見ルニ疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ判決ニ明記シタル法條ニ掲載シアル刑ヨリ他ノ刑ノ性質ヲ定ムルコトヲ得ス又刑ノ範圍カ法律上同一ナラサル時ハ解釋ヲ以テ最短期最下額ノ刑ノミヲ適用ス可シト云ヘリ其意ハ執行ス可キ刑ノ判決ニ定メアラサルトキニ其刑ヲ定メテ決定ヲ爲スト云フニ非ス執行スヘキ刑アルモ其性質及ヒ範圍ニ付テ異議又ハ疑義ヲ生シタルトキハ判決ニ明記セル法律ニ定メタル刑ノ性質ニ依リテ之ヲ定メ又範圍ハ被告人ノ利益ノ爲メニ定メヨト云フニ外ナラス刑事訴訟法ニアリテ一モ此規定ニ類似ノモノアルコトナシ左レハトテ疑義若クハ異議ノ申立ニ對シテ裁判所ノ決定ヲ以テ新タナル刑ヲ言渡スコトヲ得ルモノニ非ス故ニ判決ニ執行スヘキ刑ナキニ至リタルトキハ決定ヲ以テ架空ニ刑ヲ定ムルコトヲ得ス執行ス可キ判決ナシト爲サ、ルヲ得ス

疑義又ハ異議ニ對スル決定ニ對シテハ抗告ヲ申立ルコトヲ得(三二二末段)
疑義又ハ異議ノ申立アリタルトキハ刑ノ執行ヲ停止スヘキモノナルカ法律ニ

於テ停止スルノ明文ナクレハ何レノ刑ニテモ其執行ハ此申立ノ爲メ妨止セラ
ル、コトナキカ如シ獨逸刑事訴訟法第四百九十條ニ依レハ疑義異議ノ申立アリタルカ爲メ執行ヲ停止セス然レトモ裁判所ハ執行ノ停止又ハ中斷ヲ命スルノ權能ヲ有スルモノトセリ一般ニハ執行ヲ停止セサルヲ以テ相當ナリトス何トナレハ此申立ハ判決ノ確定ヲ動かサスモノニ非サレハナリ然レトモ死刑ノ如キ回復スヘカラサル結果ヲ生スルモノニ至リテハ疑義異議アルニ拘ハラズ之ヲ執行スルニ於テハ此申立ハ何ノ爲メニ許シタルカ其法意ヲ解スル能ハサルヘシ故ニ如斯刑ニ付テハ裁判所ニ停止ヲ命スルノ權アリトスヘキナリ禁錮ノ如キ刑ニ付テハ之ヲ執行スルモ疑義異議ノ申立ニ對スル決定ニ依リ變更スルヲ得ベケレハ執行ヲ停止スルノ必要ナシ

第二章 復權

復權ノ制ハ被告人ノ善行ニ復スルコトヲ獎勵スルノ目的ニ出テタルモノナリ刑ノ結果ニヨリテ公權ヲ喪失シタルモノハ如何ニ過ヲ悔ヒ行ヲ改ムルモ終身

其民ト齒スルコトヲ得ストセシカ其人ノ失望ハ却テ自棄ノ念慮ヲ惹起シ更ニ
一層ノ惡事ヲ爲スコトヲ意ニ介セサルニ至ラシ故ニ社會公益上ノ必要ヨリシ
テ復權ノ制度ヲ設ケ刑ニ依リテ喪失シタル公權及ヒ刑ニ依リテ生シタル無能
カヲ回復セシム

公權ヲ剝奪セラレタル者復權ヲ得ルニハ刑法第六十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ條
件ヲ要ス但シ大赦ニヨリテ免罪ヲ得タルモノハ直チニ復權ヲ得又特赦ニヨリ
テ免罪ヲ得タルモノハ特ニ赦狀中ニ復權ヲ明記シタルトキハ直チニ復權ヲ得
(刑法六四)若シ復權ノ明記ナキトキハ左ニ定メタル期間經過ノ後ニ非サレハ復
權ヲ請求スルコトヲ得ス

- 第一、主刑ノ執行ヲ終リタルコト
- 第二、主刑ノ執行ヲ終リタル日ヨリ五午年ヲ經過シタルコト但主刑ノ時效ヲ
得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルヲ要ス
- 復權ハ一ニ刑ニ依リテ權利ヲ失フタルモノ、利害ニ關係スルヲ以テ官自ラ起
リテ復權ヲ爲サシムルモノニ非ス故ニ第三百二十四條ニ規定セル如ク復權ハ

刑ノ言渡ヲ受ケタルモノヨリ刑法第六十三條ニ定メタル期間經過シタル後司
法大臣ニ向テ之ヲ爲スコキモノナリ而シテ此願ハ必ス書面ヲ以テセサルヘカ
ラヌ其復權ノ願書ハ直チニ司法大臣ニ差出スコキモノニ非スシテ現ニ住スル
地ノ地方裁判所ノ檢事ヲ經テ差出スコキモノトス蓋シ其現ニ住スル地ノ地方
裁判所ノ檢事ハ被刑人ノ諸般ノ行狀ヲ熟知スルヲ以テ此檢事ヲ經由スルコト
ハ司法大臣カ復權ヲ許否スルニ當リテ大ニ利益アルモノナレハナリ(三二四)
復權ヲ請求スルニハ書面ヲ以テ爲スコキコトハ前述ノ如シ而シテ其復權ノ願
書ニハ復權ヲ許否スル官廳ヲシテ調査ヲ爲スニ便利ナラシムル爲メニ其復權
ヲ得可キモノナルヤ否ヤヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ添附スルコトヲ必要ト
ス故ニ第三百二十五條ハ左ノ書類ヲ添フヘシト爲シタリ

- 第一、判決ノ正本
- 第二、主刑ノ滿期特赦ト爲リ又ハ時效ノ成就シタルコトヲ證明スル書類
- 第三、假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタル證書
- 第四、賠償及ヒ訴訟費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免カレタル證書

第五、復権請願者ノ過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

以上ノ書類ヲ添ヘタル願書ハ請願者カ現ニ住スル地ノ地方裁判所ノ檢事ニ差
出スモノニシテ檢事之ヲ受取リタル時ハ其請願者ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲
シ其書類ニ意見書ヲ添ヘテ之ヲ檢事長ニ差出ス可シ(三二六)復権ノコトハ本來
行政處分ニ屬シ檢事ハ單ニ意見ヲ附シ其事件ヲ檢事長ニ送付スルニ止マラス
シテ送付前ニ必要ノ取調ヲ爲シ其送付ヲ受クタル檢事長ニモ亦更ニ必要ナル
取調ヲ爲スノ實務アリトス而シテ檢事長カ必要ナル取調ヲ爲シタルトキハ
復権願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘテ司法大臣ニ差出ス可キモノトス(三二
七)

司法大臣ハ檢事長ヨリ復権願ニ關スル書類ヲ差出シタル時ハ其書類ヲ檢閱シ
之ニ意見書ヲ添ヘ速カニ上奏ヲ爲ス可シ(三二八)刑法第六十五條ニ曰フ如ク復
権ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ(憲法一六)故ニ司法大臣ハ復権ノ願ヲ許否
スルノ職權ナシ意見ヲ具シテ上奏ヲ爲スニ止マリ許否ハ勅裁ニアリ蓋シ復権
ハ裁判所ノ威力ヲ變更スルモノナレハ行政官廳ハ勿論裁判所ト雖モ爲シ得ヘ

キモノニ非ヌ最上主權ノ勅裁ニヨリテ其變更ヲ爲スコトヲ得ルノミ

勅裁ニ因リ復権ノ願書カ却下セラレタル場合ニ於テハ司法大臣ヨリ其旨ヲ檢
事長ニ通知シ檢事長ヨリ其願書ヲ差出シタル檢事ニ通知ス可シ(三二九ノ一)而
シテ復権願ナレハ裁判ト異ナリテ一度却下セラレタリトテ其請願ノ權利ヲ失
却スルモノニ非ヌ故ニ却下ヲ受クタル者ハ又直チニ請願ヲ爲スヤモ計ラレヌ
然レトモ今日復権ヲ得可キノ價值ナキ人トシテ却下セラレ明日直チニ其價值
ヲ得ルノ理由アルコトナクハ再ヒ復権願ヲ爲スニ付テハ法律ハ制限ヲ定メ
タリ即チ復権願ノ却下ヲ受クタル場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期
間ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得スト(三二九ノ二)而シテ
其再ヒ復権ヲ願フ者ハ始メノ請願ト同一手續ニ從フテ之ヲ爲スコキナリ(三二
九ノ三)蓋シ第一ノ復権ヲ却下セシ時ハ其人ニ對シテ復権ヲ得セシムルノ資格
ナシトシタレハ其願書及ヒ證明書ハ用ヲ爲スモノニ非ヌ故ニ再ヒ請願ヲ爲ス
トキハ更ニ其資格アルコトヲ證明セサルヘカラス

復権ノ裁可アリタル場合ニ於テハ司法大臣ヨリ復権ノ裁可狀ヲ檢事長ニ送致

シ其送致ヲ受ケタル検事長ハ之ヲ願書ニ差出シタル地方裁判所ノ検事ニ送致シ而シテ其裁判所検事ハ一面ニハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下附シ他ノ一面ニハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其原本ハ検事局ニ保存ス可シ又其裁可狀ノ謄本ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ復権ノ裁可アリタル旨ヲ判決原本ニ記入シ置ク可キナリ(三三〇)

復権ノ裁可ヲ得タル願人ニアリテハ剝奪セラレタル公權ヲ回復シ他ノ良民ト同一ニ公權ヲ行フコトヲ得ルモノナリ然レトモ刑法第六十三條ニハ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得トアリテ復権ハ既往ニ遡ルモノニ非ス故ニ復権ノ裁可ヲ得タルモノト雖モ其裁可以前ハ公權ナキモノニシテ復権ヲ得タリトテ以前ニ遡及シテ之ヲ行ハント主張スルコトヲ得ス又衆議院議員選舉權ノ如キハ選舉期日ノ前ニ於テ復権ヲ得ルモ選舉人名簿確定後ナルニ於テハ確定前ニ遡及シテ選舉權ヲ行フヲ得ス

第三章 大赦及ヒ特赦

大赦特赦共ニ刑ノ執行ヲ消滅セシムルモノナリト雖モ其性質ニ於テハ大ニ異ナル所アリ大赦ハ社會ヲシテ裁判上全ク罪ヲ遺忘セシメ初ヨリ罪ナク刑ナキモノト見做スニアリ故ニ刑ノ言渡ヨリ生シタル諸般ノ結果ハ悉ク之ヲ除却ス特赦ハ只刑ノ執行ヲ免スルニ止マリ罪アリ刑アリ其人ハ依然刑人タルヲ免カレヌ故ニ其刑ノ結果尙ホ存スルコトアルヘシ

今大赦特赦ニ付テ其重ナル差異ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、大赦ハ事件ニ對シテ行フモノナリ即チ明治二十二年憲法ヲ發布セララルニ

當リ其盛典ヲ表シ惠澤ヲ施サル、カ爲メ勅令第十二號ヲ以テ行ハセラレタル大赦ハ人ニ對シテ行フニ非ス本勅令發布以前ニ於テ何々ノ罪ヲ犯シタル者ハ赦免ストアリテ刑人ノ何人タルヲ問ハス本令ニ指定シタル法律ヲ以テ處罰シタル者ハ之ヲ赦免セラレタリ

特赦ハ人ヲ目的トシ事件ニ對スルモノニアラス後ニ見ル如ク刑事訴訟法ニ規定セル特赦ノ手續ハ皆人ヲ指定シテ之ヲ行フモノトス故ニ同一ノ事件ニテ處罰セラレタルモノト雖トモ一ハ特赦ヲ受ケ他ハ之レヲ受ケサルコトア

二、大赦ハ犯罪行為ヲキモノトスルヲ以テ全刑ノ執行ヲ免スルニ止マラス其
 裁判ノ全部ヲ消滅セシム特赦ハ犯罪行為ヲシトスルニ非サルヲ以テ全部若
 クハ一部ノ執行ヲ免スルマテニシテ其裁判消滅スルコトナシ然レトモ私訴
 判決ハ公訴判決ニ附帯スルモノナリト雖モ一旦裁判アリタル上ハ一方ニハ
 民事上ノ權利ヲ得他ノ一方ニハ之ニ對スル義務ヲ生スルモノナリ而シテ其
 權利義務ハ私益上ノ關係ナレハ最上主權ト雖モ之ヲ動かスコトヲ得ヘカラ
 ス

三、大赦ハ必シモ裁判後ニ之ヲ行フニ非ス裁判前ト雖モ大赦ヲ以テ公訴ヲ消
 滅セシムルコトヲ得ルモノナリ(六ノ五)蓋シ大赦ハ事件全体ヲ犯罪行為ニ非
 スト爲スモノナレハ未タ裁判アラサル前ニ於テ總テノ刑事訴訟ヲ止息セシ
 ムルコトナカラサルヘカラサレハナリ特赦ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ
 行フヲ得ヌ(三三一)

四、大赦ハ國事犯若クハ特別犯罪事件ニ對シテ行フノミ明治廿二年勅令第十

二號大赦令ノ如キハ皇族ニ對スル罪國事ニ關スル罪兇徒聚集罪保安條例集
 會條例爆發物取締罰則新聞紙條例出版條例罪ニノミ大赦ヲ行ハセラレタリ
 特赦ハ一般ノ犯罪ニ適用シ國事常事ヲ區別セヌ

五、大赦ニ因リテ赦免セラレタル者ハ直チニ復權ヲ得ルモノトス蓋シ罪ナク
 刑ヲケレハ一時失フタル公權ハ他ノ手續ヲ要セス當然回復スヘキナリ之ニ
 反シ特赦ハ罪ナシトスルニ非スシテ只其刑ヲ免スルマテナレハ其赦狀中ニ
 復權ノ事ヲ記載シアルニ非サレハ之ヲ得ヘカラス(刑法六四)

六、大赦ヲ受クタル者ハ再ヒ罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論セス特赦ヲ受クタル者
 ハ再ヒ罪ヲ犯ストキハ再犯加重例ニ依リテ處斷ス是レ一ハ先キニ犯シタル
 罪ナク受クタル刑ナク他ハ一度罪ヲ犯シ刑ヲ受クタルモノナレハナリ

大赦特赦共ニ 天皇ノ惠澤ニ出ルモノナリ故ニ之ヲ與フルト否サルトハ刑事
 ニ關スル法律ノ支配スル所ニ非ス殊ニ大赦ハ專ラ施政上ノ便宜ニ出テ他ノ上
 奏ヲ俟タヌ之ヲ許與スルモノナレハ憲法第十六條ニ大赦ヲ命スルノ大權ヲ記
 載シタルノ外別ニ其手續等ヲ規定シタル法律ナシ特赦ハ刑人カ行狀ヲ改メ其

刑ヲ免スルモ社會ニ於テ危險ナシトシタルトキ司法部ヨリ上奏スルモノトナ
 スカ故ニ刑事訴訟法ニ其手續ヲ規定セリ
 特赦ニ二種アリ一ハ刑ノ全部ヲ免スルモノ之ヲ單ニ特赦ト云ヒ他ノ一ハ刑ノ
 一分ヲ免スルモノ之ヲ減刑ト云フ例ヘハ十年ノ徒刑ニ處セラレタル者ニ對シ
 特赦ヲ以テ刑期ヲ五年ニ減シタルトキノ如シ此二種ノ區別ハ刑法及ヒ刑事訴
 訟法ニ明文ナシト雖モ憲法第十六條ニ 天皇ハ特赦減刑ヲ命ストアリ其減刑
 ハ刑法ノ所謂減刑ニ非ス特赦ノ一種ナリトス減刑ハ刑ノ性質ヲ變更スルモノニ
 非ス刑期ヲ減縮スルノミ若シ刑ノ性質ヲ變更スルトキハ裁判ヲ變更スルモノ
 ニシテ特赦ノ性質ニ反ス徒刑ノ刑期ヲ減縮シテ懲役ノ刑期ト同一ニ爲スモ刑
 ハ徒刑ナレハ只其刑苦ノ一分ヲ減スルニ過キサルヲ以テ敢テ妨クナシトス
 特赦ハ刑ヲ言渡シタル裁判カ法律ニ基キ被告人ノ權利トシテ上訴スルコトヲ
 得ヘキ程度ニアルトキ之ニ與フヘキモノニアラス故ニ第三百三十一條ハ刑ノ
 言渡確定シタル後ニ申立ツルコトヲ得ルモノト規定セリ判決カ猶上訴期間内
 ニアルトキハ被告人自ラ充分其判決ヲ攻撃シテ變更セシムルコトヲ得可キヲ

以テ敢テ特赦ノ必要ナシ

特赦ハ刑ノ言渡確定後ニ行フモノニシテ法律ハ其期間ヲ定メヌ第三百三十一
 條ハ言渡確定後ハ何時ニテモ之ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトセリ
 特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ何人ナルカ第三百三十一條ハ左ノ官吏ノミ
 申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ

第一、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所檢察

第二、監獄署長

監獄署長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ストキハ檢察ヲ經由ス可シ其中立ヲ受クタル
 檢察ハ必ス意見書ヲ添フヘキモノトス
 檢察又ハ監獄署長ヨリ特赦ヲ申立ツルニハ犯人ノ情狀ヲ具申シ特赦ノ許否
 ニ付充分ナル調査ヲ爲スコトヲ得ル材料ヲ備フルヲ要ス而シテ特赦ハ裁判
 事務ニ非サルヲ以テ裁判所ニ爲ス可キモノニ非スシテ司法行政ノ首領タル
 司法大臣ニ爲ス可キモノトス又特赦ハ天皇陛下ノ大權ニ屬スルヲ以テ司法
 大臣ハ檢察若クハ監獄署長ヨリ特赦ノ申立アリタル時ハ其書類ニ意見書ヲ

添へ上奏ヲ爲ス可キナリ

第三、司法大臣

檢察又ハ監獄署長ヨリ特赦ノ申立アリタルトキハ司法大臣ハ特赦ノ申立ニ意見書ヲ添へテ上奏スヘキモノナルコトハ上ニ見タル如シ司法大臣ハ獨リ此場合ノミナラス自ラ特赦ノ申立ヲ爲スヘシト思惟シタル時ハ其上奏ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ何トナレハ特赦ハ司法部内ノ行政事務ニ屬シ而シテ司法大臣ハ行政事務ノ首領ナレハナリ(三三二)

前ニ述ヘタル如ク復権ヲ願フモノハ何レモ刑ノ執行ヲ終リタル後ニ在ルヲ以テ已ニ社會ノ監守ヲ脱シ其身体ハ自由ナリ唯其民ト同一ノ位置ヲ得サルノ結果アルノミ即チ其復権ヲ得ルト否トハ公益ヨリモ寧ロ私益ニ關スルモノナリ故ニ本人ヨリ之ヲ請求スルヲ得セシムルモ之ニ反シテ大赦特赦ハ猶未ダ社會カ被刑人ニ對シテ自由ヲ與ヘサルノ必要アリトシテ監守シ刑罰ノ威力ハ嚴行セラル、ノ時ナレハ事皆公益ニ關シ被刑人ノ請願ヲ容ルヘキノ時ニ非ス唯一ニ主權者ノ惠澤ヲ以テ與フルモノナレハ之ヲ申立ツル者ハ公權ノ機關タル官

吏ナリトス

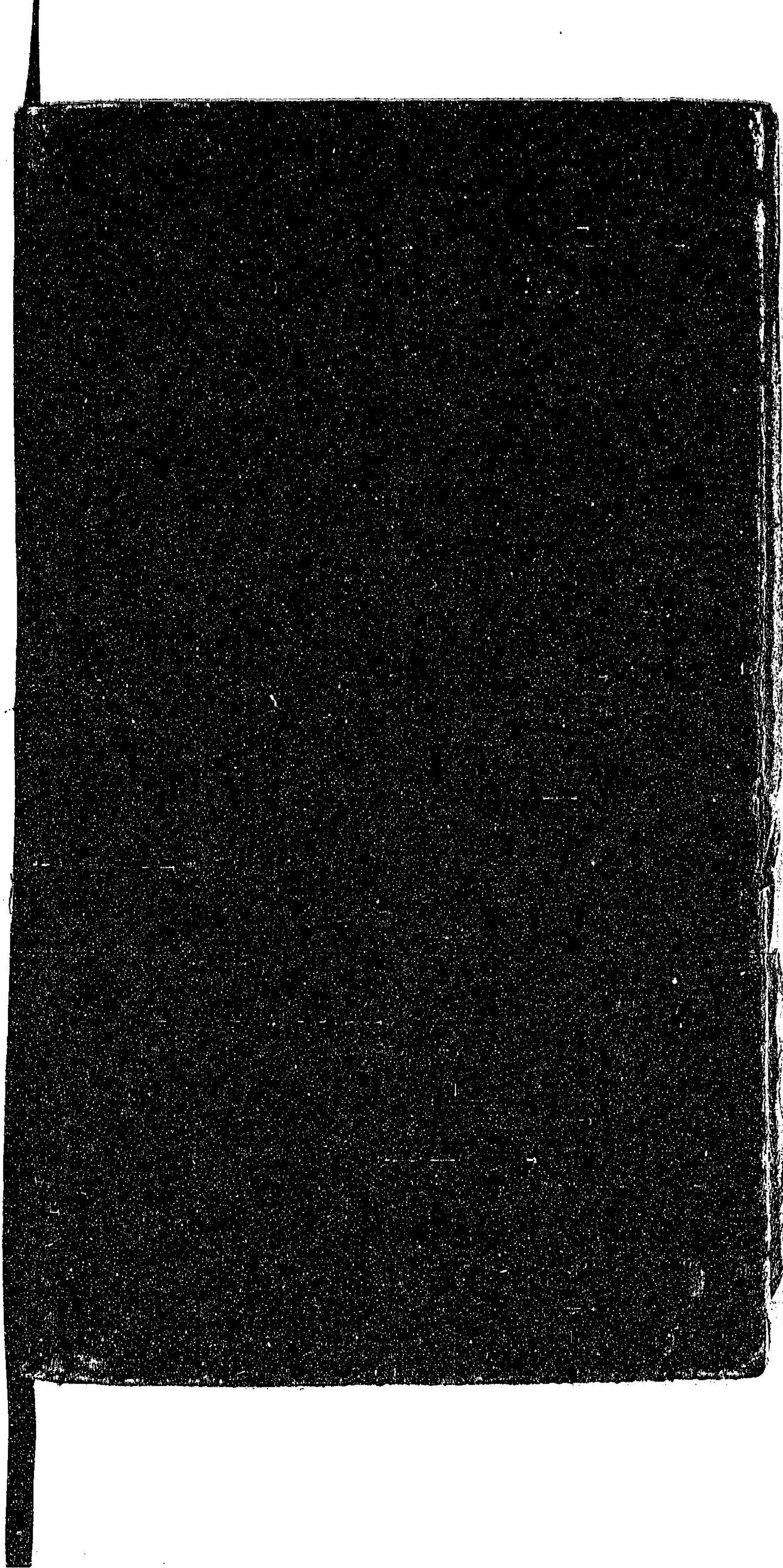
特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セサルヲ以テ原則トス然レトモ死刑ハ回復ス可カラサルモノナルヲ以テ特赦ノ申立アル時ハ例外トシテ停止セサルヘカラス(三三二、二)

上奏ノ後特赦ノ申立却下トナリタル時ハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察ニ通知シ(三三三)特赦ノ裁可アリタル時ハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察ニ特赦狀ヲ送致ス可シ(三三四)而シテ其送致ヲ受クタル檢察ハ特赦狀ノ謄本ヲ一方ニ向テハ被刑人ニ下附シ他ノ一方ニ向テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ送致ス其裁判所ハ判決ノ原本ニ記入スルモノトス復権ニ付テハ其願却下セラレタル時ハ或期間ヲ經過スルニ非サレハ再ヒ願ヲ爲スコトヲ得サルノ制限アリ是レ復権ハ本人ヨリ爲スモノナルヲ以テ此制限ヲ置クノ必要アリト雖モ特赦ハ官憲自ラ申立ヲ爲スモノナレハ此制限ヲ置クノ必要ヲ見サルナリ

刑事訴訟法畢

7
9

世
一



036683-000-8

マ-9

刑事訴訟法講義

小野 衛門太

木下 哲三郎 / 述

[M31?]

BBS-0105



9

明倫彙編
家範典
卷之九
示
一